山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第144集

甲ッ原遺跡 Ⅲ （第2次・第3次調査）

― 一般県道須玉・八ケ岳公園線建設に伴う発掘調査 ―

1997. 3
山梨県教育委員会
山梨県土木部

甲ッ原遺跡Ⅲ（第２次・第３次調査）

― 一般県道須玉・八ヶ岳公園線建設に伴う発掘調査 ―

１９９７．３

序

本報告書は、一般県道須玉・八ケ岳公園線建設に先立ち発掘調査が行われた、山梨県北巨摩郡大泉村西井出地内にある甲ツ原遺跡で、先に報告された『甲ツ原遺跡Ⅰ・Ⅱ』に続くものであります。

今回の報告は、1990年度及び1991年度に実施されましたＡ・Ｂ・Ｃの3区画のうち、Ｂ区の調査についての成果をまとめたものであります。

このＢ区は、縄文時代の大集落が形成されているＡ区から北へ約150ｍ離れたところで、Ａ区から緩やかな上り坂となり本区との標高差はおよそ10ｍあります。本区は縄文時代の集落が小規模ではありますが形成され、発見された縄文時代の住居跡は4軒と数は少ないものの、1号住居跡から出土した土器の量は目を見張るものがあります。特に、床面から6㎝までの範囲にほぼ完形に近い土器が7個体出土し、本住居跡に伴うものと判断されます。

この住居跡は、1989年度に実施された試掘調査により、ほぼ住居跡の中央部の一部が破壊されています。

特殊遺構としては、一括埋納された6本の打製石斧があげられます。しかし残念ながらこの遺構の掘り込みを確認することはできなかったものの、石器のもつ別の性格の姿を見ることができるのではないかと思われます。幸いなことに、石器に接するような形で土器片が1点ではありますが出土していることで、時期を特定できるものと考えられます。石器の種別は打製石斧で、2本を1組とするような形で6本が出土しております。

また、平安時代の住居跡も2軒発見され、この周辺にも平安時代の遺構が存在していることも確認されましたが、旧河道によって壊されるとともに現道によっても壊され、住居の形がはっきりしないこと、そしてカマドも明確な形で残存していなかったことは残念なことです。この2軒の住居は重複しており、出土遺物も少ないため時期差ははっきりしません。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの皆さま方のご協力を戴いてきたところであります。特に調査にあたっては、地元の皆様やそして夏場の調査中、遺跡内の水撒きのために快く水を下さった近所の方、別荘の方などの陰の力をお借りいたしました。そして大泉村教育委員会を始めとして多くの機関・諸氏からのご指導・ご協力を賜りましたことを、末筆ではありますが厚くお礼申し上げる次第であります。

1997年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　大　塚　初　重

例　　言

1．　本報告書は、1990年度と1991年度に、一般県道須玉・八ヶ岳公園線建設事業に伴って発掘調査された、山梨県北巨摩郡大泉村甲ッ原遺跡の発掘調査報告書である。
2．　調査は、山梨県土木部から山梨県教育委員会が委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3．　発掘調査および整理作業は、山梨県埋蔵文化財センターが行い、1990年度および1991年度は同機関の山本茂樹・今福利恵が担当した。
4．　本報告書の執筆は、山本と今福が担当し、編集は山本が行った。
5．　遺物の展開写真は小川忠博氏に依頼した。これ以外の遺構・遺物の写真撮影は山本と今福が行った。
6．　本書にかかる出土品・記録図面・写真などは、一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
7．　発掘調査および報告書作成にあたっては、関係諸機関・地元・多くの研究者の方々からご指導・ご協力を賜った。厚く感謝申し上げる。
8　　石鏃・石匙・石錐の実測図作製および写真撮影は、（株）シン技術コンサルに委託した。
9　　石器・石匙・磨製石斧・定角式磨製石斧・打製石斧（第40図～50図）の実測図作製は、（株）東京航業研究所に委託した。

凡　　例

1．　図版の縮尺は、住居跡1/60・カマド1/20・土坑1/30・ピット1/20・土器実測図1/4・土偶・土鈴・土製品1/1.5・土器拓本1/3を基本としているが、一部変更している箇所があり、図版に明記した。
2　　石器の実測図は、石鏃・石匙・石錐は1/1.5、凹石・磨石・石棒・小型石皿は1/3、石皿は1/4、第40図の石器は1/2、他の石器は1/3である。
3　　焼土部分については　　のスクリーントーンがかけてある。
4　　石鏃の写真図版は1/1.5である。

目　　次

序
例言

第Ⅰ章　発掘調査経過 ……1
　第1節　調査に至る経緯と調査経過 ……1
　第2節　調査組織 ……4
　第3節　調査方法 ……4

第Ⅱ章　環境 ……5
　第1節　地理的環境 ……5
　第2節　歴史的環境 ……5

第Ⅲ章　遺構と遺物 ……16
　第1節　住居跡 ……16
　第2節　デポ ……24
　第3節　土坑 ……25
　第4節　土製品 ……26
　第5節　出土石器 ……31
　第6節　甲ツ原遺跡C区　土坑表（1993年度）『甲ツ原遺跡Ⅱ』 ……83

第Ⅳ章　甲ッ原遺跡の住居跡から出土した遺物のレベル分布図について ……90

挿　図　目　次

第1図　遺跡位置及び周辺の遺跡図（1/25000）
第2図　甲ツ原遺跡地区周辺の地形図
第3図　B区全体図（1/500）
第4図　B区遺構全体図（1）（1/200）・（1/80）
第5図　B区遺構全体図（2）（1/200）・（1/80）
第6図　B区遺構全体図（3）（1/200）・（1/80）
第7図　B区遺構全体図（4）（1/200）・（1/80）
第8図　B区遺構全体図（5）（1/200）・（1/80）
第9図　B区遺構全体図（6）（1/200）・（1/80）
第10図　B区遺構全体図（7）（1/200）・（1/80）
第11図　B区1号住居跡（1/60）
第12図　B区1号住居　炉・集石施設及びビットF（1/20）
第13図　B区1号住居跡出土遺跡
第14図　B区1号住居跡（7～11）・3号住居跡（12）出土遺跡（1/4）
第15図　2·3·5·6·7住居跡（1/60）カマド（1/20）
第16図　6号住居跡出土遺物（1/4）
第17図　デポ（1/40）
第18図　土坑（1/40）
第19図　土偶（1/1.5）
第20図　土偶（1/1.5）
第21図　土偶・土鈴・土製品（1/1.5）
第22図　石鏃の形態分類
第23図　石匙の形態分類
第24図　石鏃（1/1.5）

第25図　石鏃（1/1.5）
第26図　石鏃（1/1.5）
第27図　石鏃・石匙（1/1.5）
第28図　石匙・石錐（1/1.5）
第29図　石器計測部位一覧
第30図　凹石・磨石（1/3）
第31図　凹石・磨石・石棒（1/3）
第32図　凹石・磨石・小型石皿（1/3）
第33図　石皿（1/4）
第34図　石皿（1/4）
第35図　石皿（1/4）
第36図　石皿（1/4）
第37図　石皿（1/4）
第38図　石皿（1/4）
第39図　石皿（1/4）
第40図　石皿（1/2）
第41図　石皿（1/3）
第42図　石皿（1/3）
第43図　磨製石斧（1/3）
第44図　定角式磨製石斧・打製石斧（1/3）
第45図　打製石斧（1/3）
第46図　打製石斧（1/3）
第47図　打製石斧（1/3）
第48図　打製石斧（1/3）
第49図　打製石斧（1/3）
第50図　打製石斧（1/3）
第51図　B区1号住居跡遺物レベル分布図（1）
第52図　B区1号住居跡遺物レベル分布図（2）
第53図　B区1号住居跡遺物レベル分布図（3）
第54図　C区9号住居跡遺物レベル分布図（4）
第55図　C区9号住居跡遺物レベル分布図（5）
第56図　C区21号住居跡遺物レベル分布図（6）
第57図　C区21号住居跡遺物レベル分布図（7）

図　版　目　次

図版１　B区河（全体・土層断面・階段状の跡）
図版２　B区河及び溝（調査風景・土層断面・小砂利の堆積状況・完掘）
図版３　B区河（平面確認・土層断面・完掘）
図版４　B区1号住居跡（完掘・遺物出土状況）
図版５　個体別出土状況写真
図版６　B区（5号住居跡土層断面・デポ・3号集居跡・6号住居跡カマド・試掘溝）
図版７　石鏃
図版８　石鏃
図版９　石鏃
図版10　石鏃・石匙
図版11　石匙・石錐
図版12　土器展開写真

第Ⅰ章　発掘調査経過

第１節　　調査に至る経緯と調査経過

甲ッ原遺跡は、山梨県北巨摩郡大泉村に所在し、八ヶ岳の南麓の緩やかに傾斜した尾根上に立地しており、東に油川、西には甲川によって挟まれたやせ尾根上にある。

本遺跡は、昭和46年度に遺跡分布調査が行われ、当時の記録によると、『東西150m、南北600mという規模で、範囲も広く出土遺物も多いことから代表される遺跡である』、と記載されている。遺物としては、『石斧・石皿・石棒』が表採されている。

このような遺跡地に、一般県道須玉・八ヶ岳公園線建設事業計画が開始され、工事に先立って遺跡の範囲確認のため、1989年度には発掘調査と並行して、表面採集による分布調査が困難であるために八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査が実施され、これによって南北の遺跡の範囲が明らかにされるに至った。発掘調査は、第１次調査から第６次調査までの６ケ年にわたって発掘調査が行われ、今後も更に継続される予定である。

第１次調査（平成元年）　1989年11月６日から12月12日　調査面積は、約1000㎡が対象であった。重機による排土作業の後、確認作業を行い、住居数９軒・土坑５基・配石遺構と思われる石組が確認された。その結果、遺構密度及び冬季の関係で約500㎡の調査で終了し、次年度のために埋め戻し作業を行った。

調査担当者　山本・森原明廣

第２次調査（平成２年）　1990年５月14日から12月27日　県道建設のため調査範囲は南北に長く、調査の進行上便宜的に北からＢ区・Ａ区と調査区を分割して行った。調査面積は、約3000㎡を対象とし、昨年度の残り（Ａ区）約500㎡の調査を行い、次にＢ区の設定の後、調査が行われた。発見された遺構は、Ａ区では縄文時代前期の住居跡３軒、中期の住居跡13軒、土坑110基、掘立柱建物跡４棟および旧河道で、多くの縄文土器片のほか石鏃、打製石斧、磨製石斧、石匙、石皿、土偶などが見つかっている。

Ｂ区では、縄文時代中期の住居跡４軒、平安時代の住居跡２軒、旧河道、溝状遺構、土坑などが見つかり、縄文土器片のほか、土師器、須恵器や打製石斧、土偶などが発見された。

調査担当者　山本・今福（Ｂ区の報告『甲ッ原遺跡Ⅲ』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第144集)

整理　1991年１月７日から３月29日まで

作業員・整理員　千野三男、千野松代、千野町子、千野あやめ、浅川たみ子、浅川三千代、浅川茂子、浅川千代子、浅川八千子、浅川保代、藤森房子、藤森八千代、藤森里美、浅川もとじ、平井あさえ、細田絹代、浅川久代、井富保仁、平嶋弘子、八巻久子、山口淑江、須賀富雄、秋山松義、秋山半蔵、守屋敏子、保坂実香子、三井種子、斉藤かずみ、進藤きくえ、相吉よし江、藤森かねよ、三井光恵、藤森ます子、藤森秀子、藤森さち子、藤森さき子、平重蔵、平真寿美、平美与枝、石原はつ子、大森仁美、中澤敏雄、出月満寿江、梅林はなの、長田可祝、出月遊亀子、長田和子、長田明美、宇野文子、望月和佳子、伊林佳子、野中はるみ、若林初美、名取洋子、長田くみ子、山本潔、千野清江、宮坂晴幸、矢崎米子、小林よ志子、土屋ふじ子、米山八重子、斉藤律子、保坂典子

岸崎浩実（国学院大学）

第３次調査（平成３年）　1991年５月20日から12月27日　調査面積は、1800㎡を対象とし、Ａ区の設定箇所より更に南へ調査が行われる関係で、区切りのよい現道路で調査区をわけＣ区を設定した。また道路が緩やかに東へ曲がっていくことも考慮した。今年度の調査は、Ａ・Ｂ区及び今回新たに設定を行ったＣ区である。Ａ区の調査区域南側とＣ区は確認面まで浅く、耕作による攪乱が著しい。

Ｂ区では、旧河道がほぼ北から南に傾斜をもってＡ区に及んでいる状態が認められた。Ａ区は、昨年度の引き続き及び南側部分で、縄文時代前期前半の住居跡１軒、前期後半の諸磯ｂ式期１軒、中期12軒の計14軒の住居跡が確認された。また中期後半と思われる掘立柱建物跡１棟及び土坑約150基の調査を行った。

Ｃ区は、縄文時代中期の住居跡が８軒確認され、掘立柱建物跡１棟が含まれている。土坑総数170基で、耕作による攪乱が激しく、住居跡の壁や床面が認められないものも存在している。

調査担当者　山本・今福（Ｃ区の報告『甲ッ原遺跡Ⅱ』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第114集・Ｂ区の報告『甲ッ原遺跡Ⅲ』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第144集）

整理　1992年１月７日から３月30日まで

作業員・整理員　千野三男、千野松代、千野町子、千野あやめ、浅川たみ子、浅川三千代、浅川茂子、浅川千代子、浅川八千子、藤森房子、浅川もとじ、細田絹代、浅川久代、山口淑江、千野仙造、千野富造、井富保仁、平嶋弘子、八巻久子、八巻知子、田中恒子、日向たまの、小宮山きよ、藤森秀子、藤森さき子、藤森かねよ、藤森ます子、藤森さち子、藤森里美、斉藤かずみ、藤森八千代、進藤キクヱ、相吉よし江、宇野和子、出月満寿江、中込よしミ、出月遊亀子、長田和子、出月多津子、梅林はなの、長田可祝、相川一枝、平美与枝宮坂晴幸、矢崎米子、秋山満州朗、高坂博子、秋山蕉治、小清水清隆、伊藤順子、長田てる美

岸崎浩実、下平博行、黒石亜矢子、藤倉美登理、加藤憲子、水本和美（国学院大学）

第４次調査（平成４年）　1992年４月20日から10月30日　本年度は、調査面積1720㎡を対象とし、Ｃ区の調査を行った。表土から確認面までは浅く、攪乱が著しい。なかには床面にまで達する攪乱が入り込み、炉が破壊されている住居跡が数軒存在する。このような状況のなかで発見された住居跡は29軒で、縄文時代前期後半の諸磯ｃ式期が６軒、中期初頭の住居跡２軒、中期中葉15軒、後半３軒、平安時代の住居跡１軒である。土坑は、約130基が調査された。

今回の調査では、県内でも発見例の少ない琥珀玉が検出され、更に縄文時代の遺跡からの出土は 極めて珍しいものである。また248号土坑からは、特殊脚付鉢が出土し、脚部には３ケ所に三角形の透かしが施され、口縁部には漆と思われる赤彩が施されている。175号土坑からは、坑底より土偶の頭部が出土している。

調査担当者　山本・五味（Ｃ区の報告『甲ッ原遺跡Ⅱ』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第114集）

整理　1992年12月１日から1993年１月29日まで

作業員・整理員　千野三男、千野松代、千野町子、千野あやめ、浅川たみ子、浅川三千代、浅川茂子、浅川千代子、浅川八千子、浅川保代、藤森房子、井富保仁、平嶋弘子、八巻久子、小宮山きよ、藤森八千代、藤森里美、細田絹代、浅川久代、山口淑江、浅川房子、三井種子、斉藤かずみ、進藤きくえ、相吉よし江、藤森かねよ、三井光恵、藤森ます子、藤森秀子、藤森さち子、藤森さき子、浅川ちづ子、石原はつ子、長田てる美、長田久江、塩島冨美子、内藤安雄、越石力、大村昭三、菱山喜美子、長谷川巌、飯寄貞子、出月遊亀子、長

田可祝、出月満寿江、中込よしミ

第５次調査　1993年６月１日から10月８日　本年度はＡ区の調査を行い、調査面積は1000㎡である。住居
（平成５年）　跡は11軒で、その内訳は縄文時代前期後半の諸磯ｂ式期６軒、中期初頭３軒、中期後半２軒である。また土坑は、72基である。遺物として特筆すべきものには、彩文土器の破片出土である。また炭化種子が出土し、ドングリ・栗・クルミ等が見つかっている。

調査担当者　山本・野代（『甲ッ原遺跡Ｉ』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第96集）

整理　1993年５月６日から1994年３月25日まで

作業員・整理員　千野三男、千野松代、千野町子、千野あやめ、浅川たみ子、浅川三千代、浅川茂子、浅川保代、平嶋弘子、山口淑江、浅川清、千野金子、石原はつ子、大森仁美、中澤敏雄、平重蔵、西名博恵、高坂博子、長田てる美、青柳清、宮坂晴幸、平美与枝、小林よ志子、中込よしミ、志田由記子、長田可祝、出月遊亀子、出月満寿江、矢崎米子、越石力、中込星子、久保田明義、伊藤順子、清水真弓、小菅春江、望月和佳子、有賀ひろ子、大西真紀、土屋ふじ子、内藤安雄

1994年度は整理だけの期間：1994年４月４日から1995年３月24日まで行った。整理は1989年度からの続き
（平成６年）　で、水洗い・注記・接合・復元遺物の補強のための石膏・遺物実測を主体として行った。

作業員・整理員　中澤敏雄、石原はつ子、大森仁美、長田てる美、中込星子、斉藤律子、有賀ひろ子、加納なおみ、渡辺優美子

第６次調査　1995年９月20日から11月28日　本年度はＣ区の調査を行い、２ケ所の調査面積は820㎡である。縄文時代前期後半の住居跡が４軒、中期前半から中葉が７軒で、拡張された住居および時期不明２軒である。土坑は、10基前後である。
（平成７年）

調査担当者　山本・川手昌英

整理　1995年７月３日から1996年１月31日まで行った。

作業員・整理員　千野三男、千野松代、千野あやめ、浅川たみ子、浅川茂子、浅川保代、山中敏夫、戸島義和、高市雅司、川崎東洋雄、猿田定雄、石原はつ子、大森仁美、中澤敏雄

1996年度は整理だけの期間：1996年９月１日から1997年３月24日まで行った。
（平成８年）　接合・復元遺物の補強のための石膏・遺物実測を主体として行った。

作業員・整理員　中澤敏雄、石原はつ子、大森仁美、小林まなみ、堀口恵子、越石力、出月遊亀子、出月ますえ、長田可祝、長田くみ子、中込よしミ、原田みゆき

今回の報告は、Ａ・Ｂ・Ｃ区の３区画のうちＢ区を中心として行い、１部分未調査区域を含んでいるもので、1990年度の第２次調査及び1991年度の第３次調査が主体となっている。未調査区域については、1997年度（平成９年度）に調査が実施される予定である。

また、今回の報告でＢ区については、縄文時代の住居軒数が４軒・平安時代の住居軒数２軒といったように、発見された遺構の数が少なく、小規模の集落であることが明らかにされている。

このため、『甲ッ原遺跡　Ⅱ』に掲載されなかった遺物を本書で取り上げることにした。遺物としては、石器・土偶とその他の土製品である。また、石器については、今まで出土した石鏃・石錐・石匙の一部・凹石・石棒・石皿・石斧等を紙数の許すかぎり掲載することに努めた。

第２節　調査組織

調査組織

調　査　主　体　　山梨県教育委員会

調　査　機　関　　山梨県埋蔵文化財センター

調 査 担 当 者　　第１次調査（1989）　山本茂樹、森原明廣

第２次調査（1990）　山本茂樹、今福利恵

第３次調査（1991）　山本茂樹、今福利恵

第４次調査（1992）　山本茂樹、五味信吾

第５次調査（1993）　山本茂樹、野代幸和

第６次調査（1995）　山本茂樹、川手昌英

作業員・整理員　　第１節で記載しているので、ここでは省略させて戴く。

協　力　機　関　　大泉村教育委員会

第３節　調査方法

一般県道須玉・八ヶ岳公園線建設に伴い、1989年度から1995年度まで実施され、第１次調査の継続事業として設定された５ｍ×５ｍを１区画とするグリッド方式をそのままもちいた。1989年度第１次調査で500㎡にグリッドを設定した関係から、第２次調査においてＢ区の設定を行わなければならず、南から北へ数字の「1.2.3・・・」を付すことで補った。また遺跡内における集落の存在からも、このような設定が望ましいものであると判断したことによるものである。Ａ区の集落は、グリッドの０設定から北では認められず南へ広がるものであること、Ｂ区の集落は、Ａ区よりさらに離れた場所に存在していることである。このような理由によりＡ・Ｂ区は、地区分けされている。またグリッド番号は、南北方向に数字の「1.2.3・・・」、東西方向にアルファベットの「A.B.C・・・」を付した。尚Ｃ区については、Ａ区の集落の密度が南へ下るにしたがい希薄となり、また東へ緩やかにカーブを描く関係上、現在の道路で分断されているところを基本として地区分けを行い、Ａグリッドより東に位置するものについては「Z.Y.X・・・」と逆方向に設定を行った。

一連の事業のなかで、調査が点々とされてきたことによって、集落が数カ所にわたって存在していることが明らかとなり、結果としてこのような３区画の設定がなされている。

調査は、伐採・伐根の後重機による排土作業が行われ、その後遺構確認作業およびグリッドの設定を行った。遺構確認面までは非常に浅く、排土内にも遺物が混入していることが十分予想されるため、時期を見計らって排土内の遺物収集も行った。

特に今回のＢ地区では、小規模ながら縄文時代の集落が営まれていたことが明らかにされるとともに、数少ない平安時代の住居跡も調査された。縄文時代の住居跡では、確認面まで非常に浅いこともあって、１号住居跡を除く他の住居跡では壁の確認が不明の住居も存在している。また平安時代の住居跡は、旧河道によって壊されており、遺物の出土は極めて少ない。Ｂ地区はほとんどが山林地帯で耕作による攪乱は少ないものの、表土から確認面までＣ区と変わらない様相を示している。1989年度に実施された遺跡分布調査では、約50本の試掘坑によって遺構が確認され、調査の対象となっている。その際、発見された出土遺物のほとんどは１号住居跡のもので、一部資料として埋蔵文化財センターへ持ちかえり、他の遺物については現状のままで埋め戻し作業を行った。排土置場については、周辺が山林地帯であったことから調査区内で処理を行い、調査区の約半分が排土置場として調査し、終了後再度排土の移動を行い調査を続行した。

第Ⅱ章　環境

第１節　地理的環境

甲ッ原遺跡は、甲府盆地からほぼ北西に位置する山梨県北巨摩郡大泉村字大林と和田に所在し（第１図）、大泉村は、八ヶ岳の南部の赤岳、権現岳、編笠山などの主峰群と、火山体斜面および火山山麓線上地、韮崎火山岩屑流の地形から構成される八ヶ岳山麓と、八ヶ岳火山泥流によって形成されたところに位置している。

火山山麓は開析されて台地化しており、特に富士川、須玉川に沿っては急崖が続き、前者による崖は”七里ケ岩”と呼ばれてきた。八ヶ岳火山地では、山頂から放射状に水系が発達しているが、一方火山麓扇状地では水系の発達は鈍くなる。特に火山扇状地の扇頂近くでは河川水は伏流することが多く、それらが再び湧泉するところが山麓に連なり、歴史時代以前から八ヶ岳山麓の集落の立地や土地利用に影響を与えてきた。

その中でも大泉村は、標高1000m付近に自然湧水帯を持ち、これらの湧水から流出する河川によって細長い尾根上に多くの遺跡が存在する結果となり、甲ッ原遺跡もまた例外ではなかったと考えられる。

このような環境にある本遺跡は、東に油川、西に甲川に挟まれ、南へ緩く傾斜した所に立地している。遺跡の標高は、800m前後である。遺跡の周囲は、畑、山林となっており、一段低い西側では圃場整備事業によって稲作が行われている。

第２節　歴史的環境

大泉村も含めて周辺の八ヶ岳南麓では、縄文時代と平安時代、中世の遺跡が突出して多く知られ、弥生時代、古墳時代の遺跡は極端に少なくなる。甲ッ原遺跡の周辺においても同様で、多くは縄文時代と平安時代、中世の遺跡が知られている。

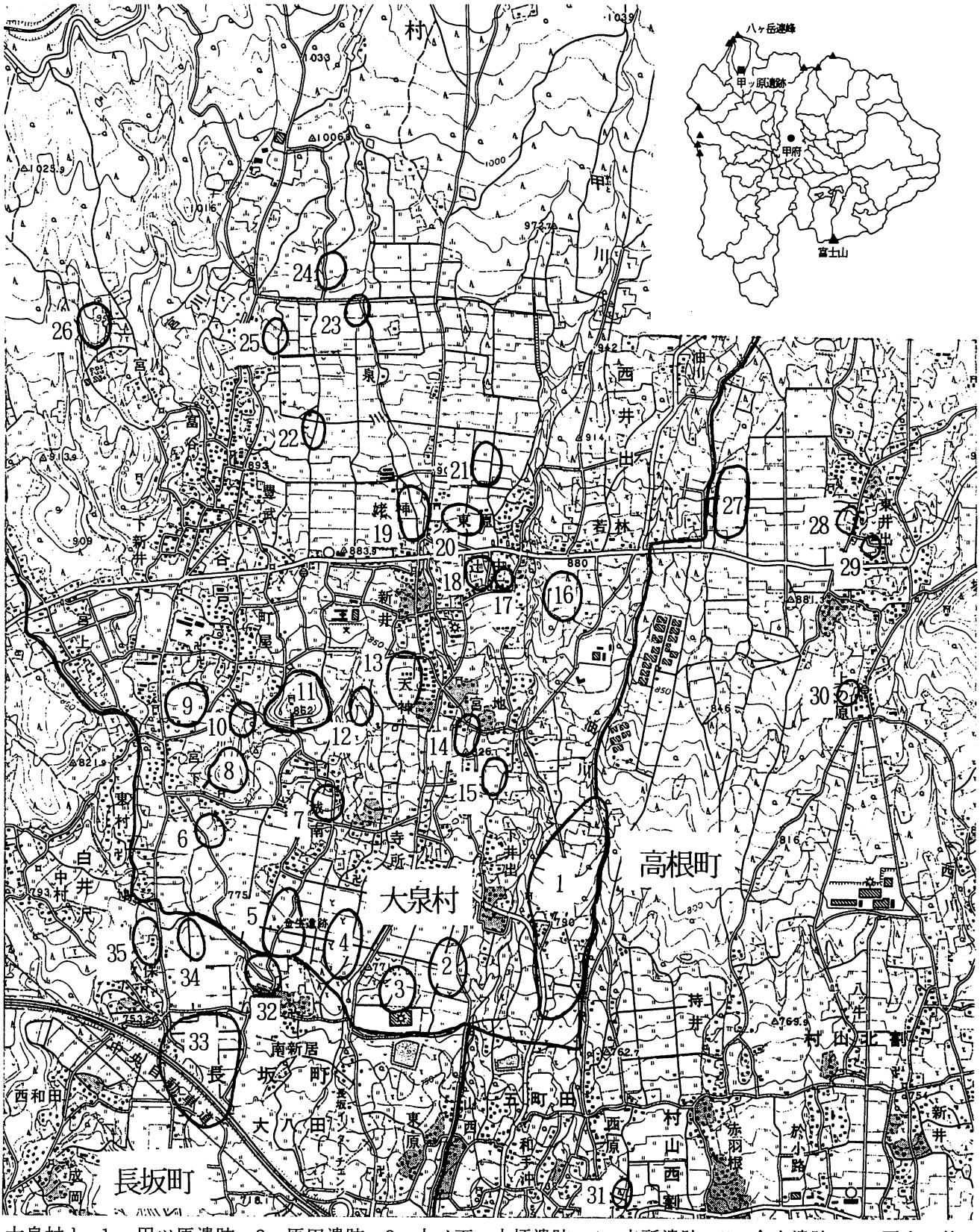
周辺の発掘調査では、甲ッ原遺跡の北西約１kmの天神遺跡（第１図NO13）で縄文時代前期の諸磯期の住居跡49軒、土坑400基以上の環状集落が調査されている。また西１kmの寺所遺跡（第１図NO4）では諸磯期の住居跡２軒が調査されているほか平安時代の住居跡が31軒検出されている。このほか前期の住居跡が確認されているのは、原田遺跡（第１図NO2）がある。縄文時代中期では、北西約2.5km の小坂遺跡（第１図NO26）があり、標高は約950mの高所に五領ケ台期の集落跡が調査されている。また北西約500mに宮地第２遺跡（第１図NO14）、宮地第３遺跡（第１図NO15）が調査されている。特に、甲ッ原遺跡の北に位置する古林第４遺跡（第１図NO16）の発掘調査が大泉村教育委員会で実施され、その際縄文時代中期中葉の住居跡からヒスイ製の笛が出土したことで関係者を驚かせた。曽利期では、姥神遺跡（第１図NO19）や方城第１遺跡（第１図NO22）などの集落が調査され、特に甲ッ原遺跡の西約１kmには、昭和58年に国史跡に指定された縄文時代後晩期の配石遺構を伴う金生遺跡（第１図NO5）が存在している。

平安時代の遺跡としては、先に記した寺所遺跡（第１図NO4）のほか、原田遺跡（第１図NO2）では３軒、城下遺跡（第１図NO7）では20軒、宮地第２遺跡（第１図NO14）では３軒の住居跡が確認されている。

中世の遺跡として代表されるものには、大泉村谷戸城跡（第１図NO11）があり、国指定史跡にされている。

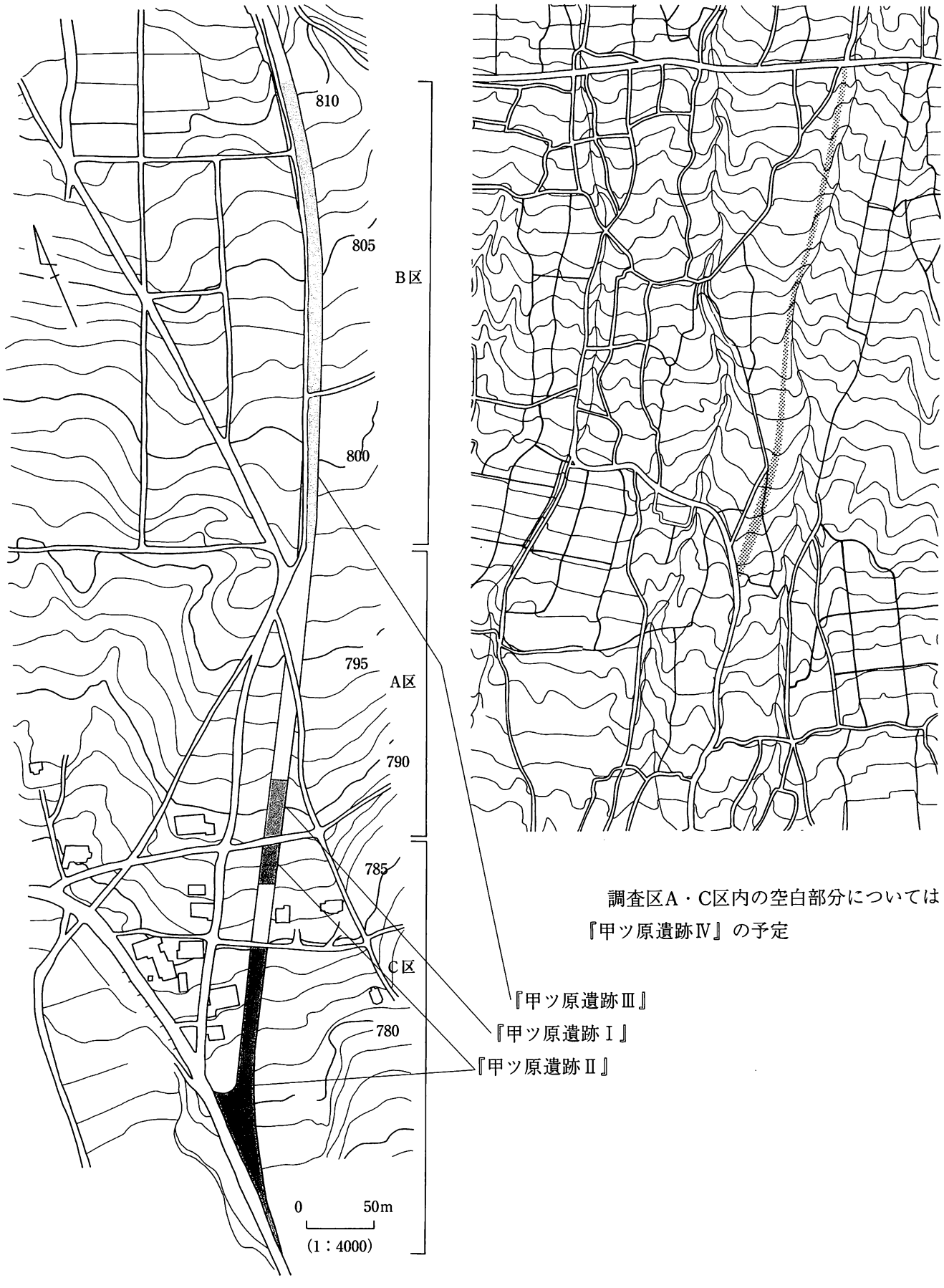
さらに甲ッ原遺跡の南端部に位置する箇所では、大泉村教育委員会によって東側に隣接する約1800㎡の調査で、諸磯b、ｃ期の住居跡２軒と土坑約100基、平安時代の住居跡１軒が調査され、中でも諸磯c 期の住居跡は径８ｍを越える大形住居跡で、該期のものとしては異例で注目される。

また近年では、大規模開発や宅地等に伴い本遺跡の周辺において大泉村教育委員会（1994　大泉村10集）によって発掘調査が実施され、甲ッ原遺跡の規模が明らかにされつつあり、集落の研究の上でも重要な遺跡となることと思われる。

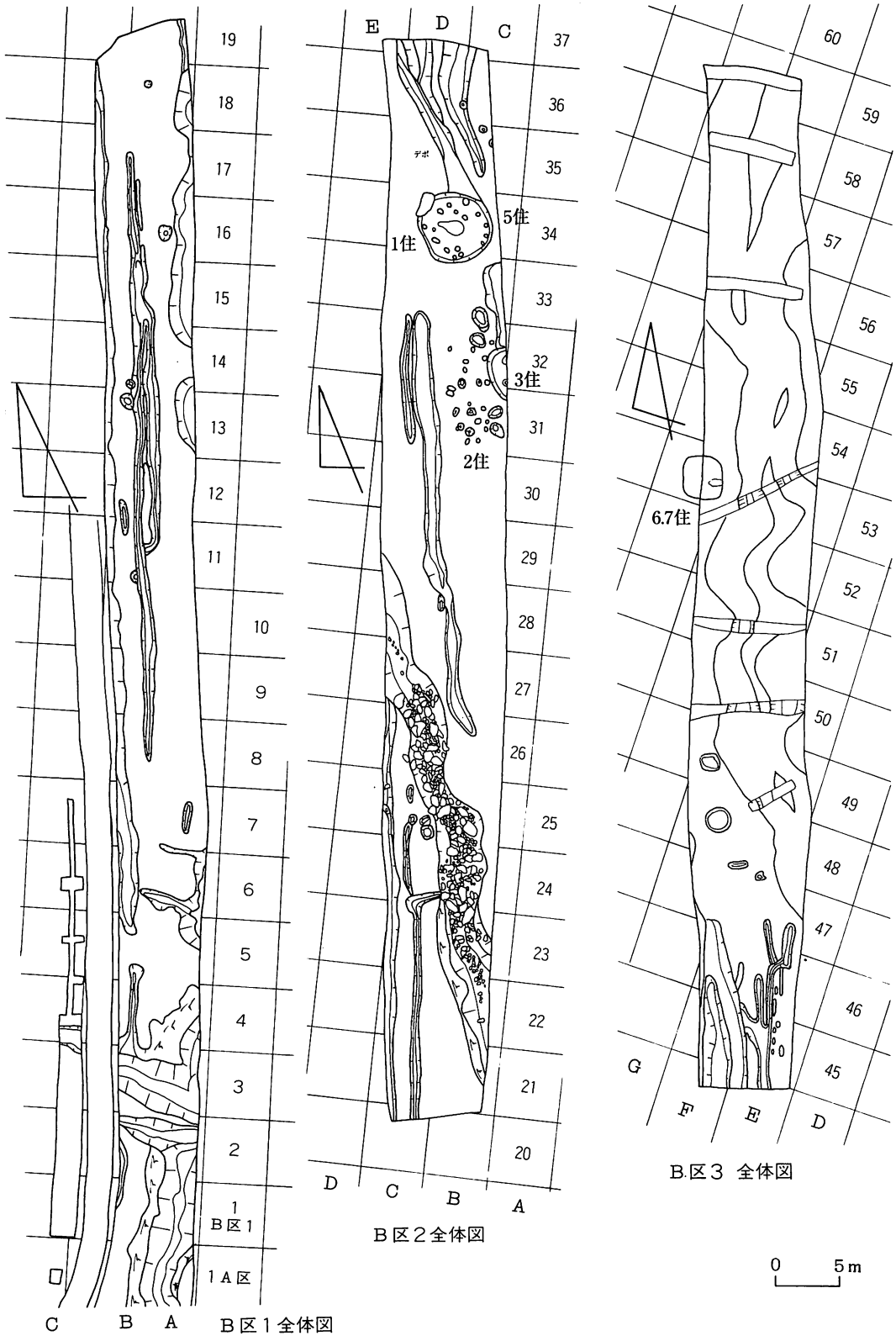


［大泉村］ 1．甲ツ原遺跡 2．原田遺跡 3．木ノ下・大坪遺跡 4．寺所遺跡 5．金生遺跡 6．豆生田第3遺跡 7．城下遺跡 8．前林山十三塚 9．谷戸氏屋形跡 10．御所遺跡 11．谷戸遺跡 12．山崎第4遺跡 13．天神遺跡 14．宮地第2遺跡 15．宮地第3遺跡 16．古林第4遺跡 17．中村第2遺跡 18．中村遺跡 19．姥神遺跡 20．東姥神遺跡 21．東原遺跡 22．方城第1遺跡 23．大和田第2遺跡 24．大和田第3遺跡 25．大和田遺跡 26．小坂遺跡 ［高根町］ 27．石堂B遺跡 28．石堂A遺跡 29．野添遺跡 30．山の神遺跡 31．西原遺跡 ［長坂町］ 32．深草遺跡 33．小和田遺跡 34．別当十三遺跡 35．別当遺跡

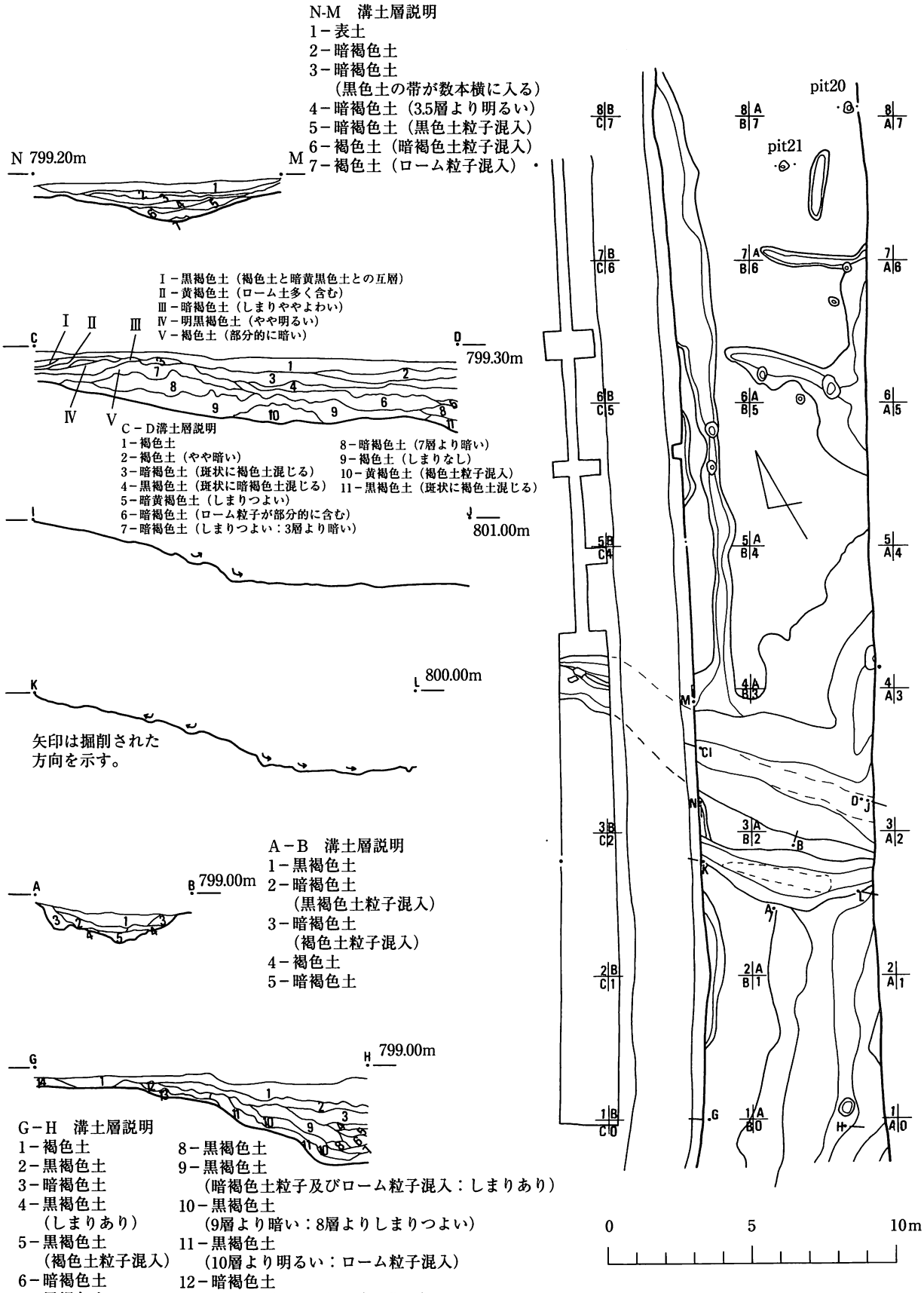
第1図 遺跡位置図及び周辺の遺跡図（1/25000）



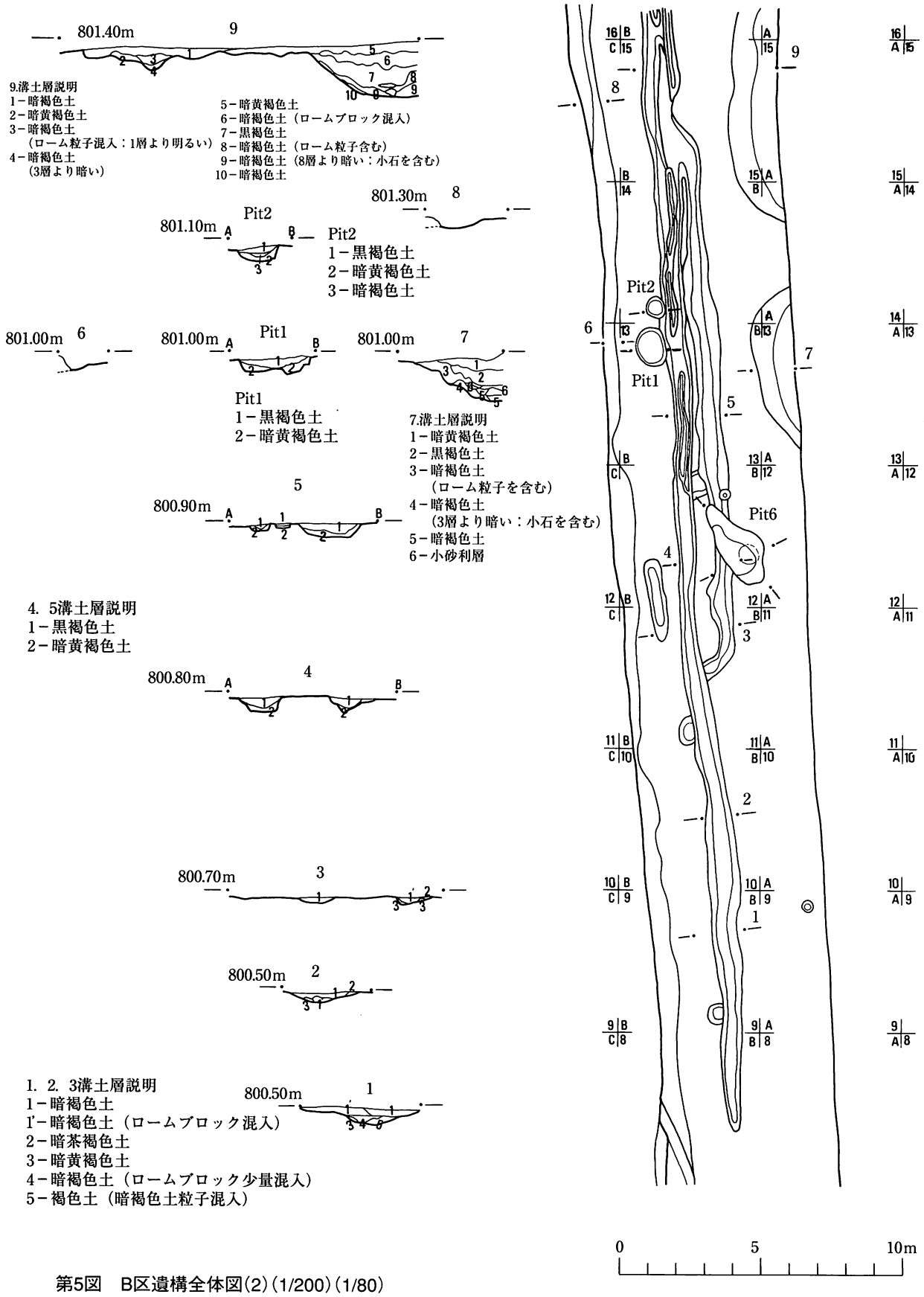
第2図　甲ツ原遺跡地区図及び周辺の地形図（網部分は建設予定路線図）



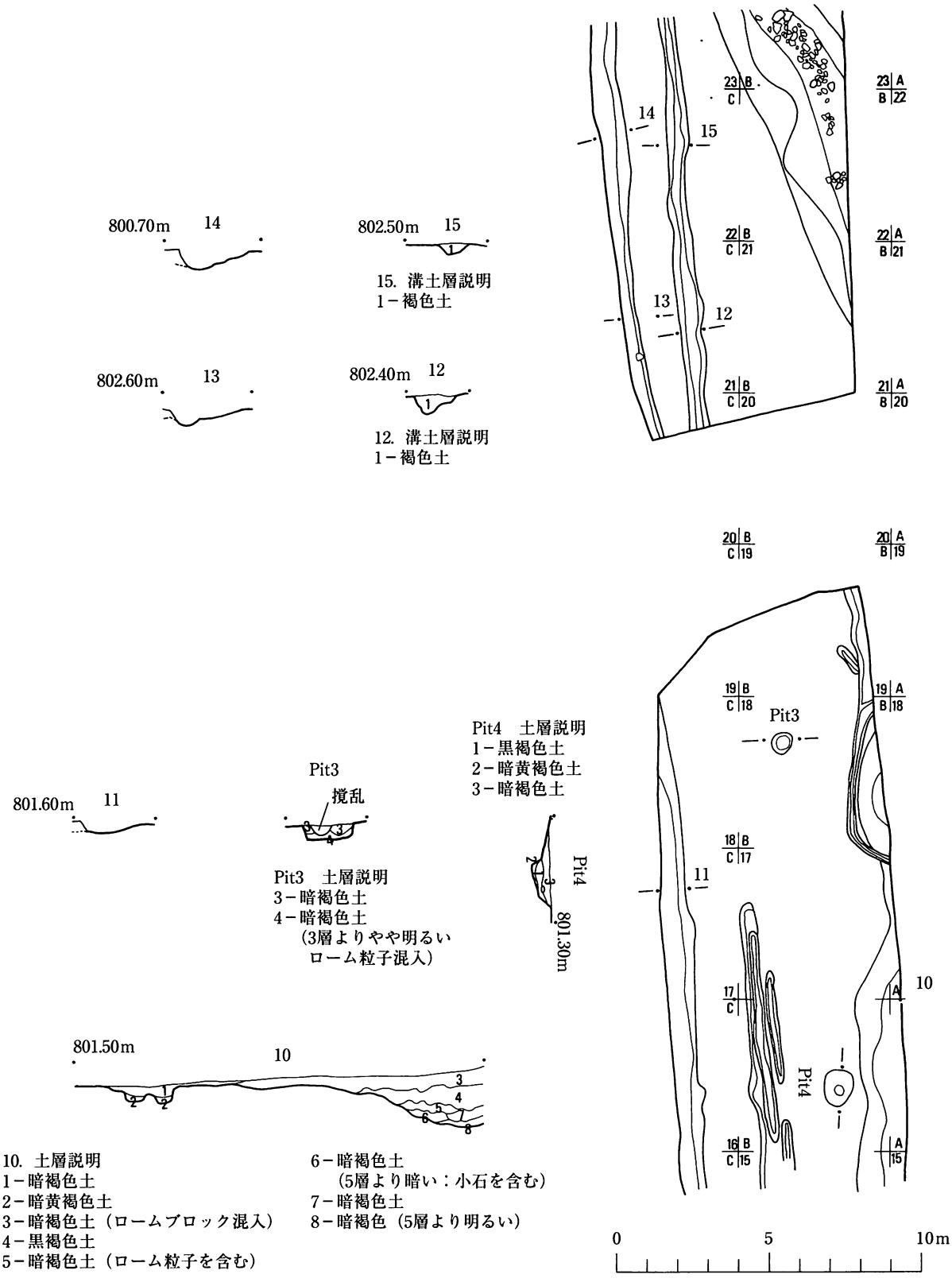
第3図　B区全体図（1/500）（37～44グリッドは、1997年度調査予定）



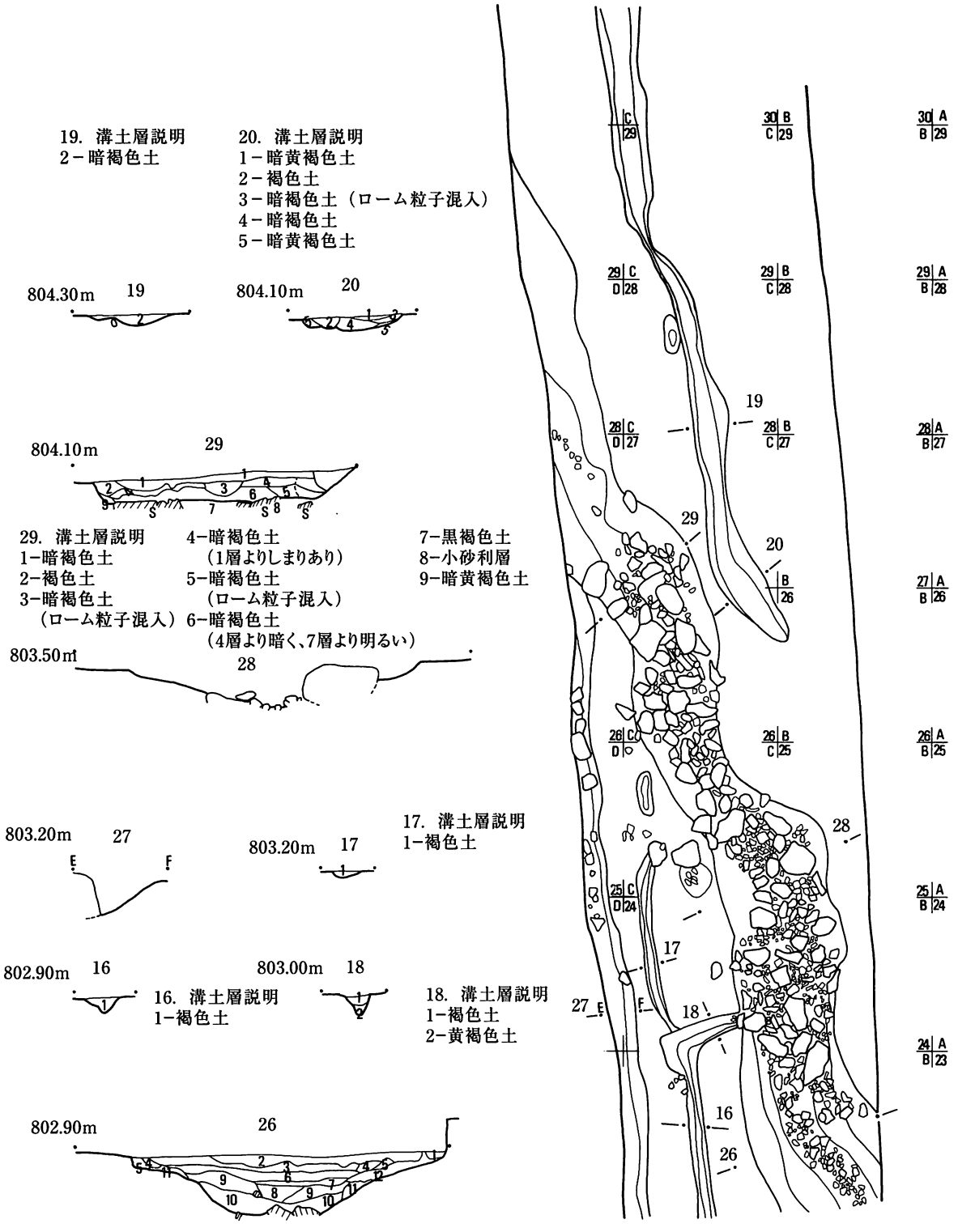
第4図　B区遺構全体図（1）（1/200）・（1/80）



第5図　B区遺構全体図(2)(1/200)(1/80)



第6図　B区遺構全体図(3)(1/200)(1/80)

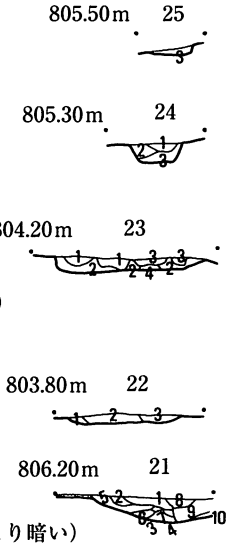


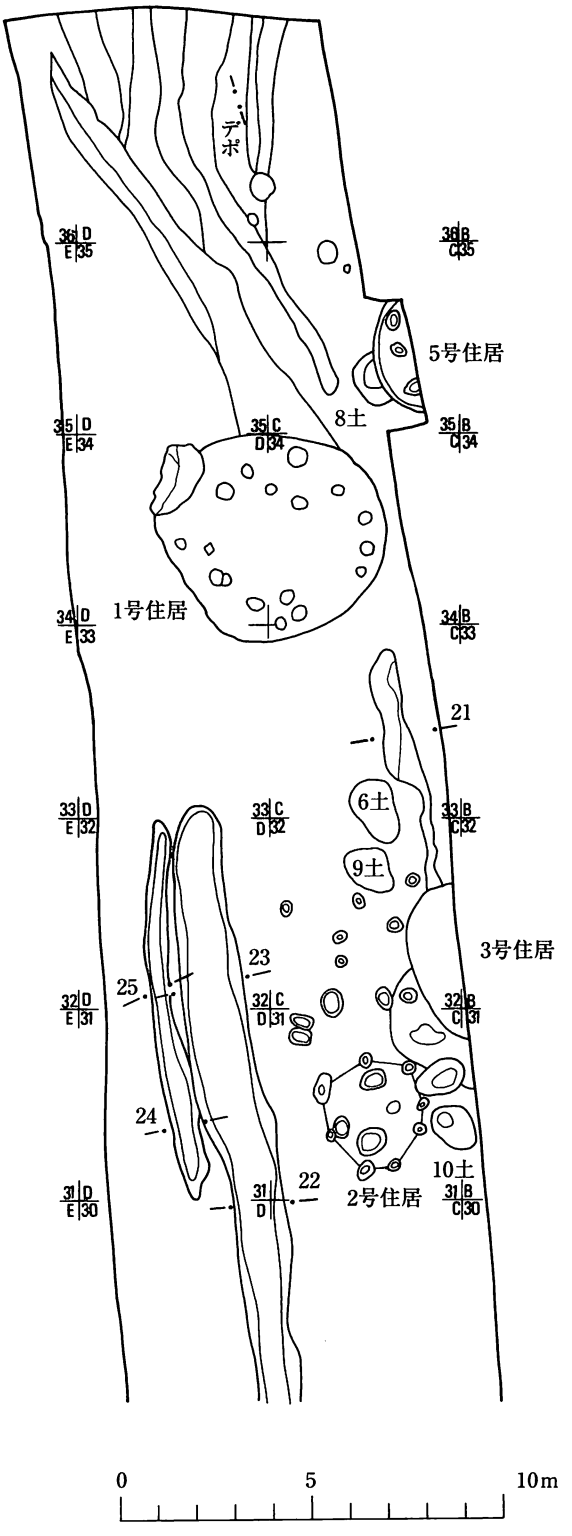
第7図　B区遺構全体図(4)(1/200)(1/80)

24・25. 溝土層説明
1－暗褐色土（しまりなし）
2－暗褐色土（1層より明るい）
3－暗黄褐色土

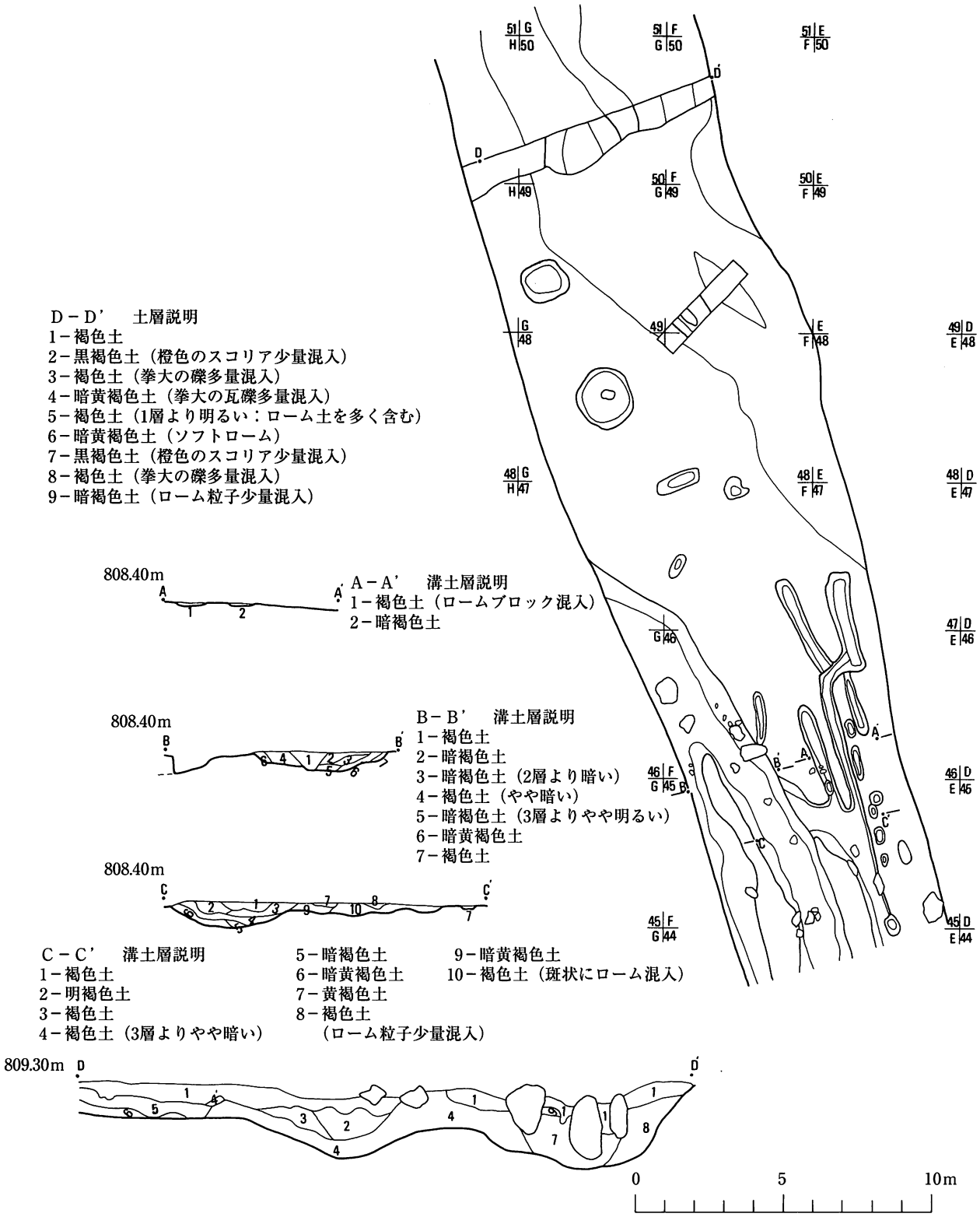
22・23. 溝土層説明
1－暗黄褐色土
2－暗褐色土
3－暗褐色土（2層より明るい
　　1層より暗い）
4－暗黄褐色土（ローム粒子多量混入）

21. 土層説明
1－暗褐色土
2－暗黄褐色土（ローム粒子混入）
3－黄褐色土ブロック
4－暗黄褐色土
5－暗褐色土（黒色土粒子混入）
6－暗褐色土（5層より明るく、7層より暗い）
7－暗褐色土（黄褐色土粒子混入）
8－暗褐色土（1層より明るい）
9－暗褐色土（ローム粒子混入）
10－暗黄褐色土

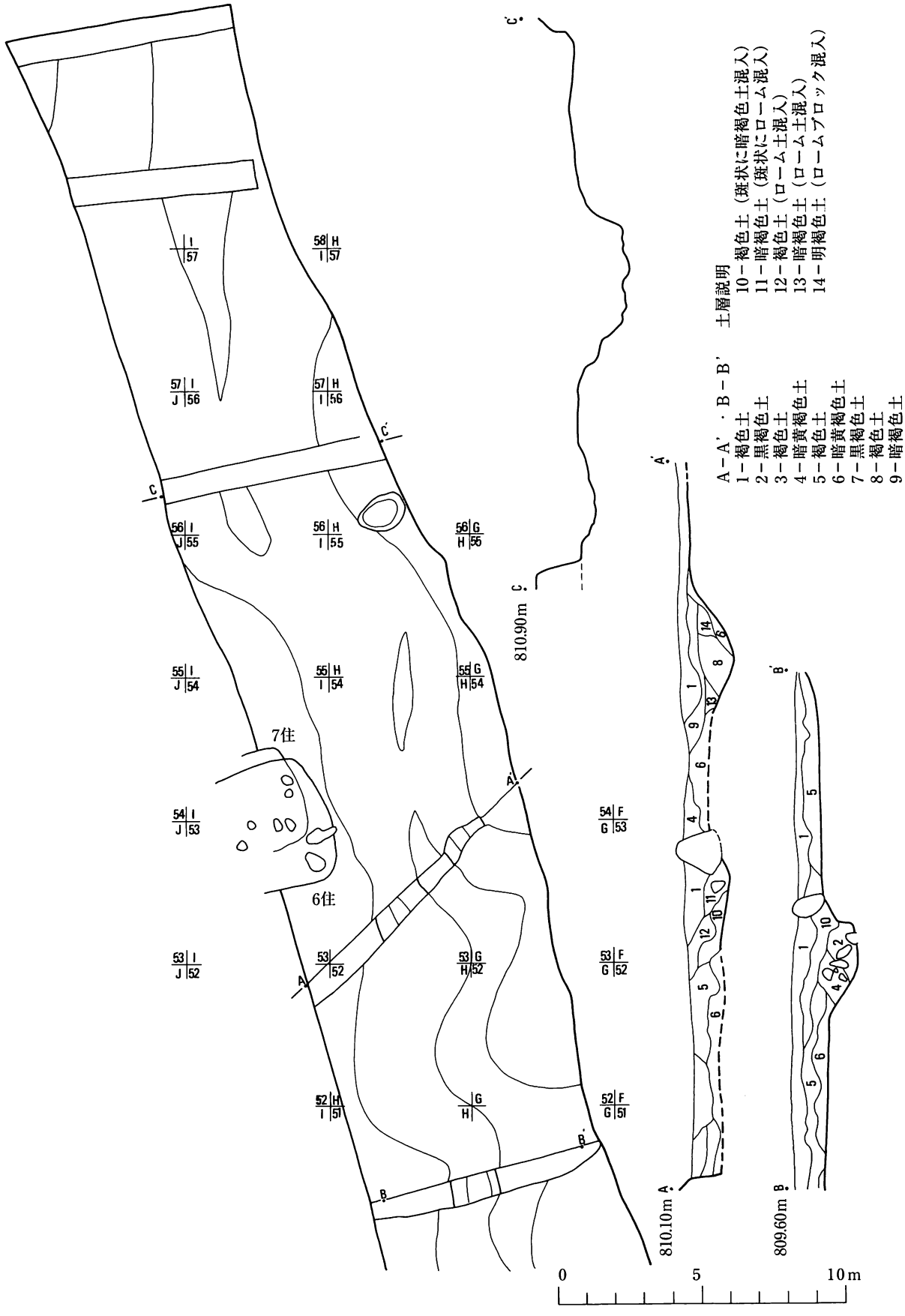




第8図　B区遺構全体図(5)(1/200)(1/80)



第9図　B区遺構全体図(6)(1/200)(1/80)



第10図　B区遺構全体図(7)(1/200)(1/80)

第Ⅲ章　遺構と遺物

第１節　住居跡

Ａ区の北端より約170m北に縄文時代中期中葉の住居跡が２軒、時期不明の住居跡が３軒、そして甲ッ原遺跡を構成する集落の最北端に平安時代の住居跡が２軒重複する形で発見されている。またこのＢ区では、埋没した旧河道がほぼ南北方向に蛇行しながら流れていたことが確認された。

１号住居跡　（第11図）

本住居跡は、縄文時代の集落を構成する最北端に位置する。形態は、円形を呈する。規模は、東西方向に長軸を有し、炉を中心とした長軸は5.94m、短軸は5.50mを計測する。確認面から床面までの高さは、8cmから28cmを有し、壁溝は認められない。また住居の北壁には大形の礫が存在し、壁の一部として利用していたものと思われる。

炉は、住居跡のほぼ中央に設けられ、掘り込まれた箇所には浅い落ち込みが認められることから、炉石が設置されていたと考えられる。焼土は厚く、よく焼かれている。また本住居跡は、内側と外側に柱穴が認められることから拡張された住居跡と判断される。住居の南側では、柱穴と柱穴の間隔の広い箇所があり、そこが入口部と思われる。入口部と思われる床面には、こぶりの礫が広がりを見せて存在しており、何のための施設なのかは不明である。遺物の総点数は、約1220点である。

土層の堆積状態は自然堆積を呈し、住居の南側では覆土と地山の境は明確ではない。

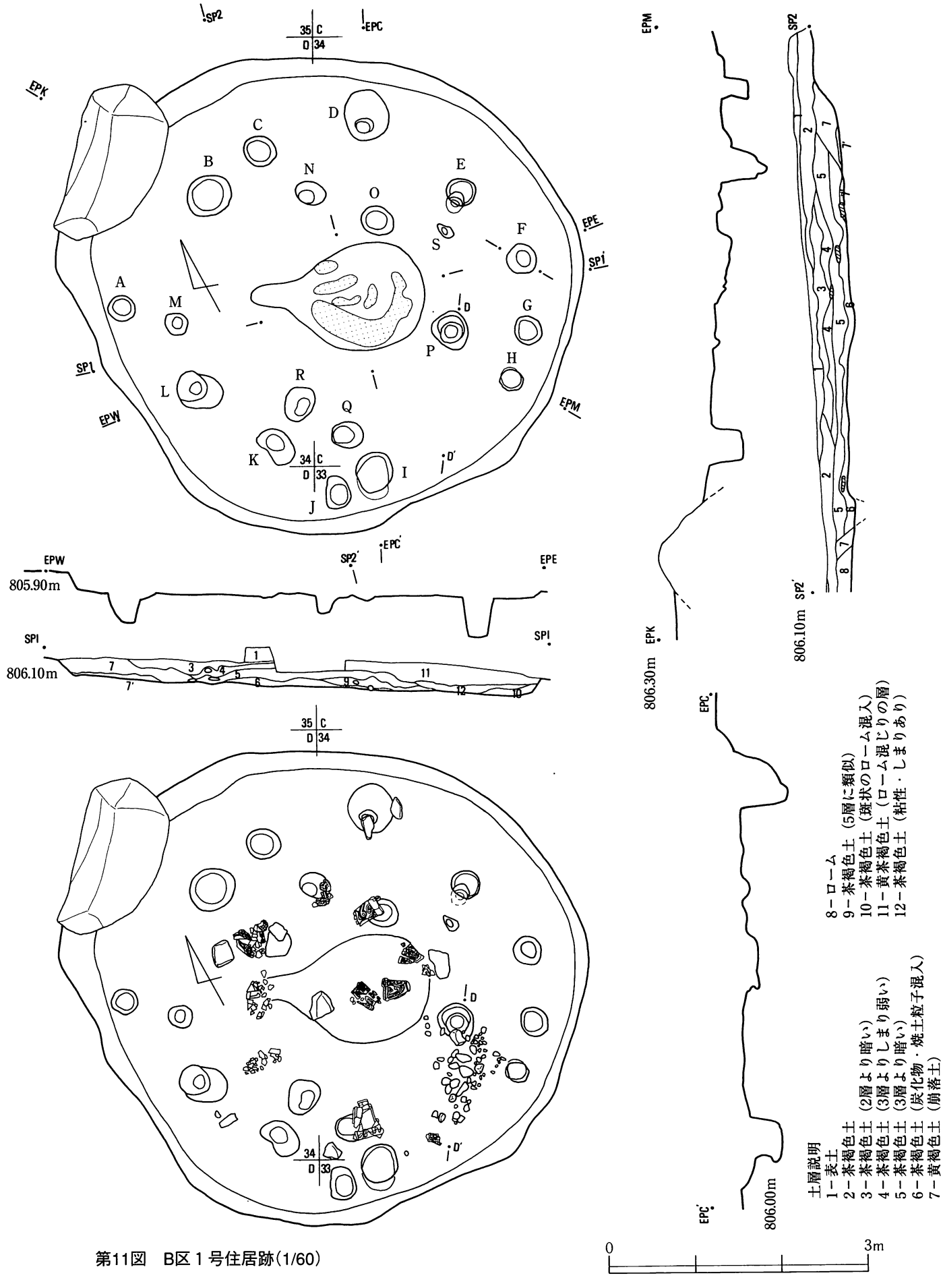
遺物の出土状態は第11図に示してあるが、土器は炉を中心として広がりを見せている。またこれらの土器は、ほぼ床直で確認される。

柱穴の深さは、A-15cm,B-39cm,C-36cm,D-59cm,E-57cm,F-45cm,G-27cm,H-33cm,I-45cm,J-53cm,K-16cm,L-37cm,M-10cm,N-40cm,O-10cm,P-54cm,Q-57cm,R-38cm,S-48cmをそれぞれ計測する。

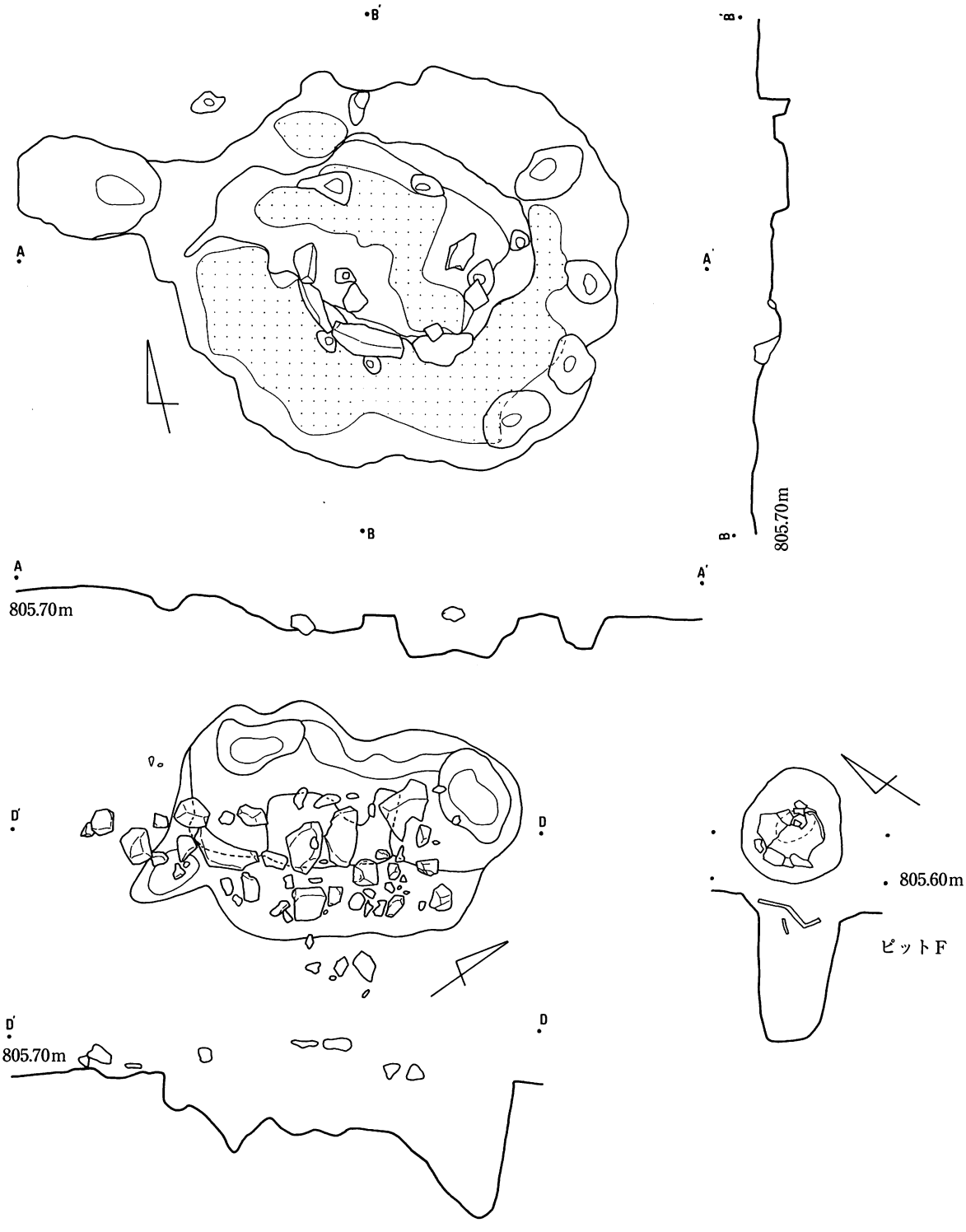
遺物説明（第13・14図)

ほとんど覆土中よりまとまっての出土である。１と５はお焦げが内面はおろか断面にまでみられ、これによって破損し、廃棄されたものと思われる。いずれも口唇部の把手を欠損しているもののほぼ完形で、重量はそれぞれ、1.92kg、1.62kgである。また２、７も底部が抜けているかもしくは欠損しているのみで、ほぼ完形である。それぞれ2.08kg、4.13kgを量る。１、２にみられるように幅広の連続押圧文が隆線に沿い、その脇に波状の沈線もしくは三角形文が施されるものがある。また４のようにパネル文による区画で隙間を残すものがある。さらに土器の外面は粗雑で制作時の輪積痕が明瞭に残され、指頭圧痕がみられるなど、古い様相をとどめているものが目立つ。底部近くは磨かれている。６は単節縄文を磨り消して文様を表現している。８の土器の胴部は幅広の隆帯二本によっていわゆるサンショウウオ状のモチーフを表していると思われる。いずれも藤内式土器の古い段階に位置付けられる。

10は、小型の深鉢で褐色を呈し、ほぼ完形に近いものである。口唇部は横へ突出し直下には無文帯が形成される。さらにその下には、横位に貼り付けられた隆帯に爪形文が施され、胴部と底部を分かつ隆帯までの間には三角形の区画文が２段に施され、区画内には三叉文や沈線文で充填される。11は、底部付近のもので、区画文で構成される。

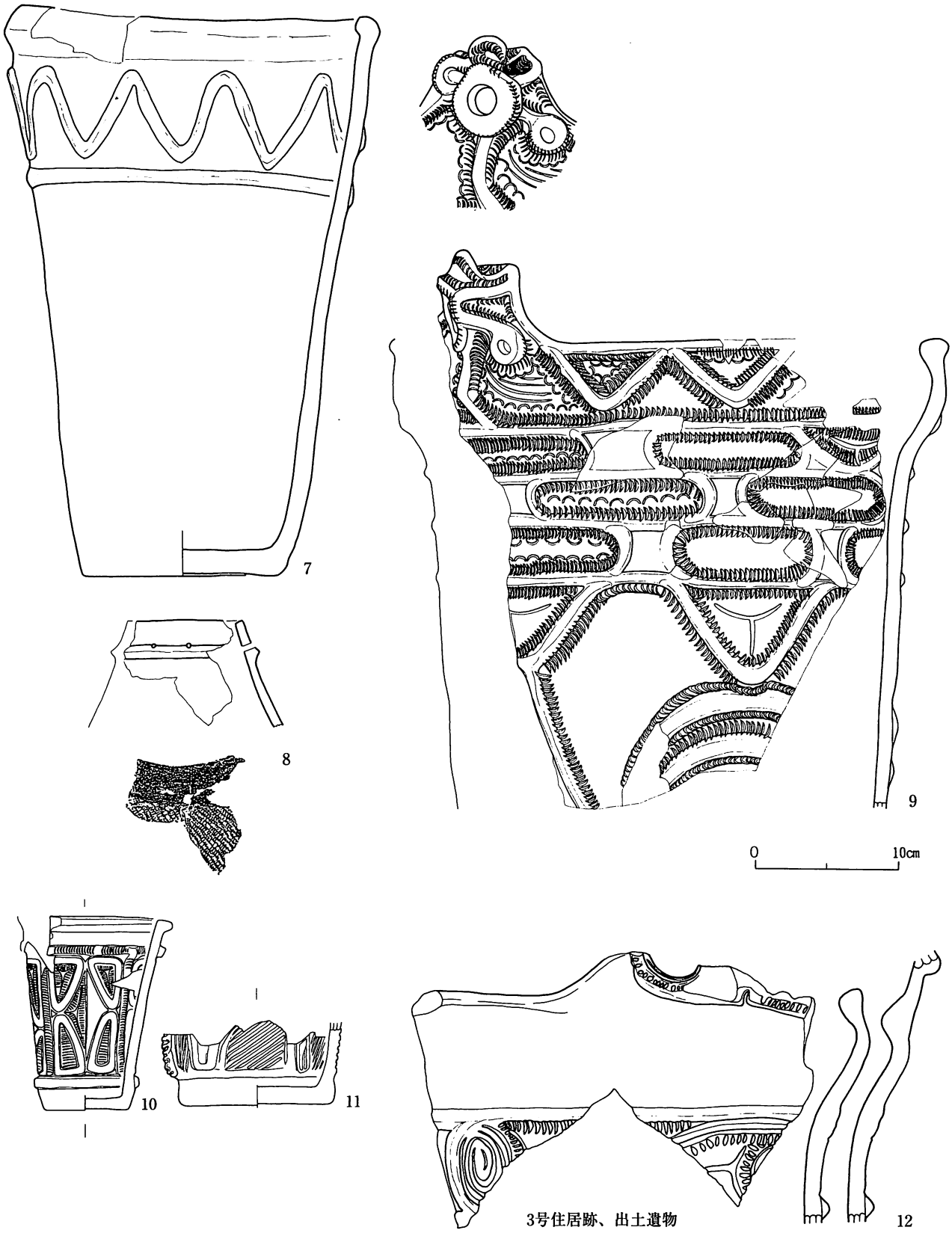


第11図　B区１号住居跡(1/60)



第12図　B区１号住居跡　炉・集石施設およびピットＦ(1/20)

第13図　B区１号住居跡出土遺物(1/4)



第14図　B区１号住居跡（7～11)･3号住居跡(12)出土遺物(1/4)

2号住居跡　（第15図）

本住居跡は、柱穴のみ確認されたものである。遺構確認面まで浅かったために、炉は発見されなかった。形態および規模は不明である。現存する柱穴間の長軸は2m、短軸は1.7mを計測する。主柱穴は8本と思われる。また住居跡の内側に、やや大形の落ち込みが認められるが、住居に伴うものかどうか不明である。壁溝は認められない。

3号住居跡　（第15図）

本住居跡の1/3以上は、調査区外に存在する。確認されたものは、土器片・土偶・焼土・礫である。こぶりの柱穴が4本不規則に配置される。出土遺物としては、第14図の土器のほか第19図1・2の土偶の頭部1点と胴部の破片で頭部と胴部下半部を欠損するもの1点が出土しており、また石鏃も確認されている。

遺物説明　（第14図）

12は、口唇部に小突起が付されるもので、円形状の透かしが施される。口縁部は無文帯を形成し、横帯する隆帯の直下には渦巻文・三叉文が、そして隆帯に沿って爪形文が施される。

5号住居跡　（第15図）

本住居跡は、東に傾斜する地形に営まれ、住居跡のほんの一部分の調査で終了し、大部分は調査区外に存在する。確認面から床面までの深さは32cmを計測する。柱穴は壁際に認められ、8号土坑と重複する。土層図から、ローム層の上に暗黄褐色土が堆積しており、この暗黄褐色土はロームの2次堆積土と考えられるような土層であり、この層を掘り込んでつくられている。

6号住居跡　（第15図）

7号住居跡と重複関係にあり、本住居跡のほうが古い。住居跡が発見された場所は山林地帯で、表土を排除する段階で大形の礫が非常に目立つ場所につくられている。そのために確認作業が困難であり、また現道の下に広がっていたことから、住居が確認された範囲は、推定線となっている。

形態は方形を呈し、規模は長辺3m、短辺約2.4mである。確認面から床面までの高さは、12cm前後である。カマドは、住居の東壁の中央より南側に設置されるが、遺存状態は良くない。柱穴は存在してはいるものの、あまり明確にとらえられない。

7号住居跡　（第15図）

本住居跡は、6号住居跡の上に存在し、攪乱が著しく床面はほとんど確認されない。土層説明　1—暗褐色土　2—明黄褐色土（褐色土が斑状に混入）　3—黄褐色土　4—暗褐色土（黒色土が斑状に混入）　5—暗褐色土（4より暗い：褐色土が斑状に混入）　6—明黄褐色土（褐色土が斑状に混入）　7—暗黄褐色土（褐色土がブロック状に混入）　8—暗褐色土（ロームが斑状に混入）　9—灰褐色粘土　10—青灰褐色粘土　11—暗褐色土（ローム小ブロック混入）　12—黒褐色土　13—暗灰褐色土　14—暗黄灰褐色土　15—明灰黄褐色土　16—暗褐色土　カマド土層　1—明赤褐色土（焼土多量：灰多量）　2—黒褐色土　3—淡明赤褐色土　4—褐色土　5—明赤褐色土（焼土多量）　6—赤褐色土（焼土）　7—明褐色土　8—褐色土（7より暗い）　9—黒褐色土　10—褐色土　11—黒褐色土

6号住居跡出土遺物説明　（第16図）

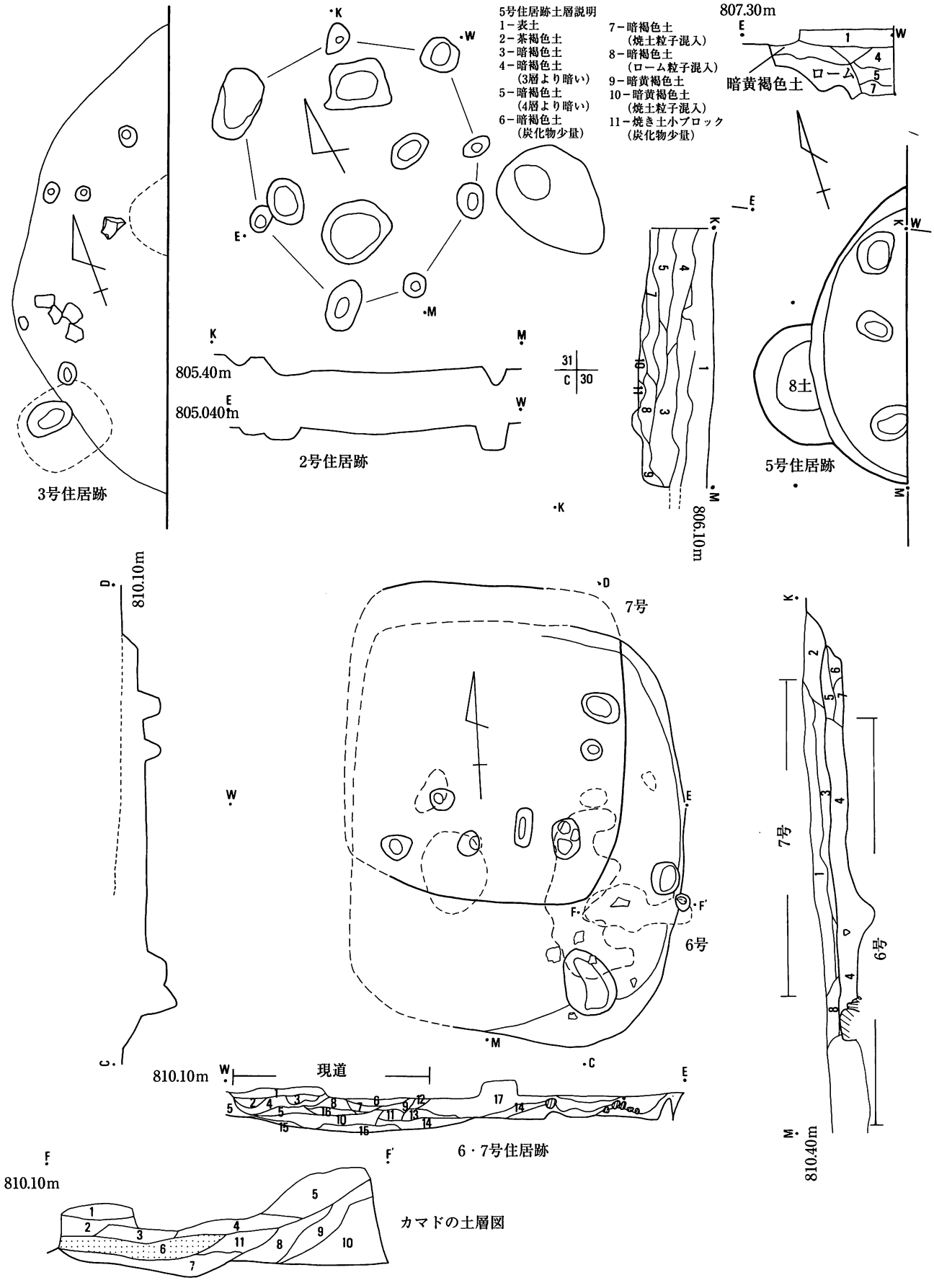
1から5までは、坏である。1は灰白色を呈し、口径10.7cm、器高3.8cm、底径5.1cm である。底部は、回転糸切りがなされている。

2は、底部を欠損するものである。口径11cm、器高3.6cm、底径6.1cmである。体部下半部はヘラ状工具による整形がなされる。

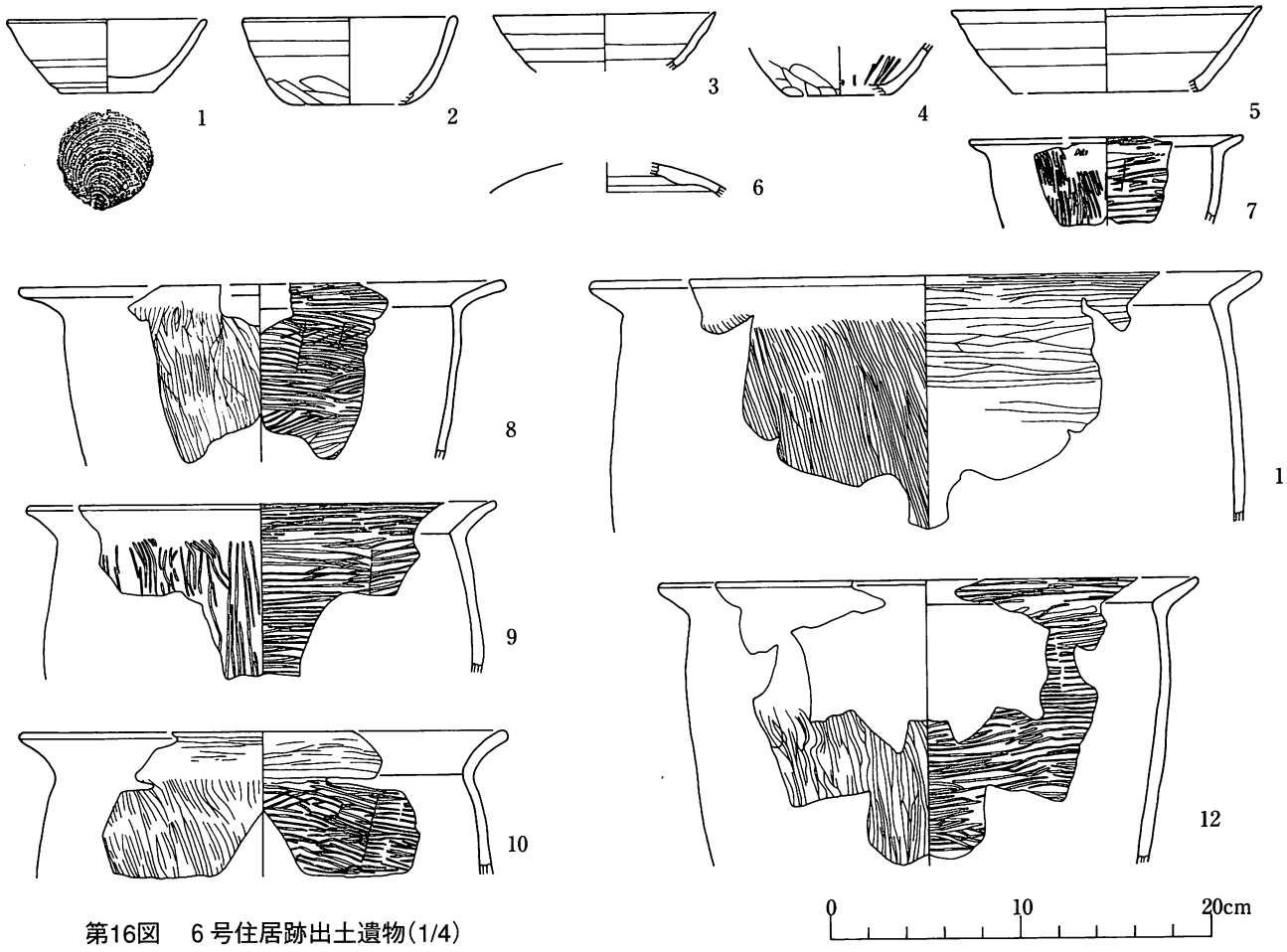
3は、体部下半部を欠損するものである。口径11.9cm、現存する器高は3.1cmである。

4は、体部上半部を欠損するものである。現存する器高は2.6cm、底径5.5cmである。また、内面には放射状に暗文が施される。外面はヘラ状工具による整形がなされる。

5は、灰白色を呈し底部を欠損するものである。口径16.6cm、器高4.4cm 、底径10cmである。



第15図　2・3・5・6・7号住居跡（1/60）・カマド（1/20）



第16図　6号住居跡出土遺物(1/4)

6は、坏の蓋である。(土師器か須恵器か) 現存する器高は1.8cmである。口径は推定15cm位であろうか。

7から12までは、甕である。

7は、体部下半部を欠損するものである。口径14.7cm、現存する器高は4.6cm で小型の甕である。外面は口縁部から体部にかけて縦方向に櫛歯状工具による調整がなされ、内面は口縁部から体部まで横方向に櫛歯状工具による調整が施される。口縁部は、くの字状に大きく外反し内面には体部と口縁部の境には稜線が明確に施される。

8は、体部下半部を欠損するものである。口径25.9cm、現存する器高は9.4cmで、外面には縦方向にハケメを有する。内面には、口縁部から体部にかけて横方向に櫛歯状工具による調整がなされる。

9は、体部下半部を欠損するものである。口径25.1cm、現存する器高は9.2cmである。外面は、櫛歯状工具による調整がなされ、内面は外面同様に櫛歯状工具による調整がなされる。

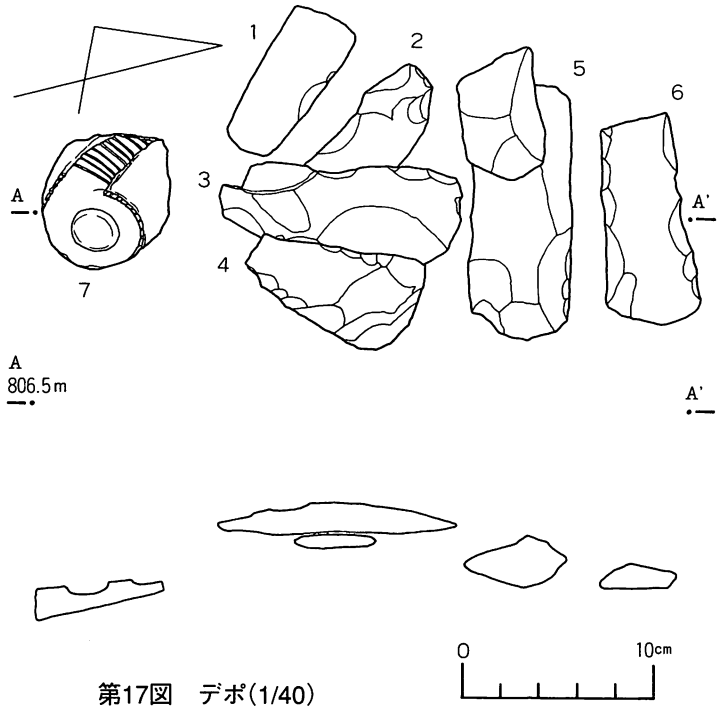
10は、体部下半部を欠損するものである。口径26.2cm、現存する器高は7.6cmである。外面口縁部は、横方向にハケメが、体部には縦方向にハケメが施される。また内面には、口縁部から体部にかけて横方向に櫛歯状工具による調整がなされる。

11は、体部下半部を欠損するものである。口径35.5cm、現存する器高は13.3cmである。外面体部には、縦方向にハケメを有し、内面には口縁部から体部にかけて横方向にハケメが施される。この甕は口径35.5cmを計測する大型の甕であり、小型の甕は7の口径14.7cmである。このように大小2種類の甕のタイプが存在している。

12は、体部下半部を欠損するものである。口径28.7cm、現存する器高は14.9cmである。外面は、口縁部から頸部の一部を除いた下半部にハケメを有し、内面には口縁部から体部にかけて、横方向に櫛歯状工具による調整がなされる。

第２節　デ　ポ（第17図）

1989年度から1995年度までのＡ・Ｂ・Ｃ区の調査において、デポが確認されたのはＢ区の１ケ所だけであり、その位置はＢ区１号住居跡の北側に存在する。確認された遺物は打製石斧６本、土器１片である。このデポは、遺構確認を行うために掘り下げたことによって発見されたものである。打製石斧の出土状況は、２本づつ対となるような姿で置かれており、北側の２本５，６は長辺をほぼ東西に向けられている。そして南側に位置する２本３，４は北側の５，６の打製石斧に直行するような形で置かれ、西側の２本１，２の打製石斧は３，４，５，６の打製石斧に対して斜め方向に置かれている。また、重なりあった打製石斧は、それぞれ隙間はない。



第17図　デポ(1/40)

５の打製石斧の上には、礫が１点石斧よりやや上で浮いた状態で出土しているが、本遺構に伴うものであるのかどうかは判断することができない。しかし本遺構に伴うものであるとするならば、目印的なものと考えられようが、礫の大きさからすれば目印としては小さすぎるような気がする。

２の石斧の出土状態は３の石斧の下に置かれ、４の石斧の長辺は３の石斧の上に置かれている。土器片は２の石斧のレベルよりさらに下の位置に存在する。

本遺構の掘り込み面については確認されなかったことにより、生活面の上に打製石斧および土器片が置かれたものと思われる。また土器片の出土から、本遺構は縄文時代中期中葉に位置づけされるものと考えられよう。

遺物説明　（第17図）

打製石斧６本と土器１片を含む７点の出土である。

１は短冊形打製石斧の欠損品で、刃部を欠いている。現存する長さは8.15cm、基部の幅は3.1cm で、重さは70gである。全体に簡単な調整が施されている。

２は短冊形打製石斧で、側縁には若干の抉りが認められ刃部を１部欠損する。現存する長さは12cm、基部の幅は3.8cm 、重さは80g である。

３は撥形打製石斧で、基部の一部が欠損する。現存する長さは13cm、基部の幅は3.9cm 、刃部の幅は5.2cm 、刃部の形は円刃である。重さは120gを計測する。

４は撥形打製石斧で、軟質の石材である。現存する長さは10.5cm、基部の幅は3.3cm 、刃部の幅は5.2cm 、刃部の形は円刃である。重さは140gである。

５は短冊形打製石斧で、現存する長さは12.7cm、基部の幅は5.2cm、刃部の幅は5.3cm、刃部の形は円刃で、重さは200gを計測し、６本の中では一番重量がある。

６は撥形打製石斧で、現存する長さは11.2cm、基部の幅は3.9cm 、刃部の幅は4.8cm 、刃部の形は斜刃で、重さは100gである。

７は口縁部を一部残す土器片である。色調は赤褐色を呈し、口縁部から下に一部煤の付着が認められる。胎土には砂粒が多量に含まれ、幅広の隆帯には刻み目が施されている。中期中葉の所産である。

第３節　土　坑（第18図）

６号土坑（水糸レベル=800.80m）

本土坑は、1990年度第２次調査で発見された遺構である。土坑が構築されていた位置はＢ－12グリッドで、平面形態は、不整楕円形を呈する。規模は155cm ×75cmで、深さは33cmを計測する。坑底はほぼ平坦であるが、東側の底には、大型の礫が突き出している。確認面から約20cm下には、礫層が存在しているものと考えられる。立ち上がりは、北側では緩やかで南側では段差を有しながら立ち上がる。東側ではタライ状を呈し、西側では袋状となる。時期は、小さな土器片が８点と少なく時期を決めるに至っていないが、縄文時代中期としておきたい。

特記事項として本土坑では、土器片の点数よりも黒曜石の剥片の方が非常に多く出土し、坑底および坑底から29cmまでの範囲で認められ、その数は13点である。また、溝と重複しているが、本土坑のほうが旧い。

８号土坑（水糸レベル=806.40m）

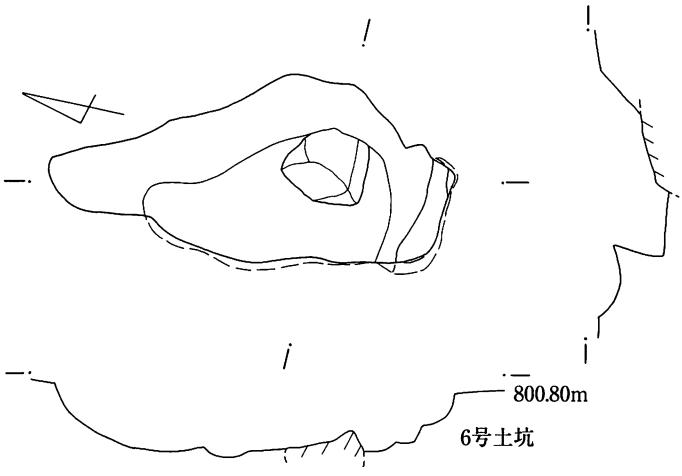
本土坑は、1990年度第２次調査で発見された遺構である。土坑が構築されていた位置はＣ－35グリッドで、平面形態は、楕円形を呈していたものと思われる。規模は長軸で120cmを計測し、短軸は５号住居跡と重複している関係で計測は不明である。深さは、確認面から約40cmを有する。坑底は平坦で、楕円形を呈する。立ち上がりは、南側では緩やかであるが、北側では直に近い。時期は、出土土器から縄文時代中期新道式期である。土層の堆積状態は、４．５層ではしまりのない層が認められ、木の根による攪乱と考えられる。特に７層は非常に厚い堆積で、この層中より土器が出土する。遺物の出土状況から、本土坑は５号住居跡より新しいものである。

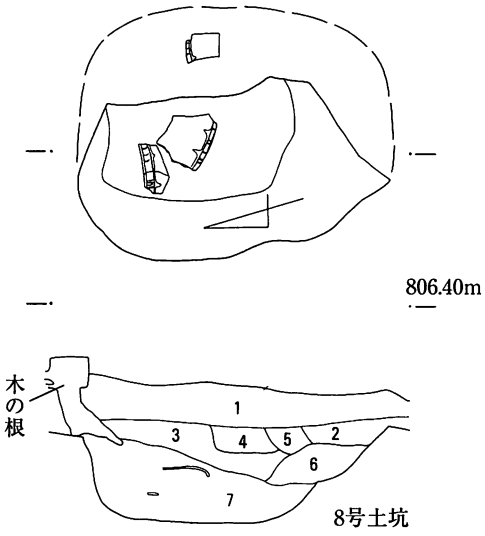
９号土坑（水糸レベル=806.60m）

本土坑は、1990年度第２次調査で発見された遺構である。土坑が構築されていた位置はＣ－32グリッドで、６号土坑のすぐ南に存在する。平面形態は、楕円形を呈し、その規模は長軸で168cm を計測し、短軸は110cmである。また主軸は、ほぼ南北にある。深さは、確認面から75cmを有する。坑底は、平坦でほぼ長方形を呈し、６号土坑の坑底で認められたように礫が存在している。特に、坑底の周囲の隅には礫が中央に突き出しており、残りの部分は壁に食い込んでいる。このように６号土坑から少し下った箇所では、礫層が高い位置に層をなしていることが明らかである。立ち上がりは、南北とも直に近い状態である。時期は、出土遺物が認められないため不明であるが、覆土から縄文時代中期としておきたい。

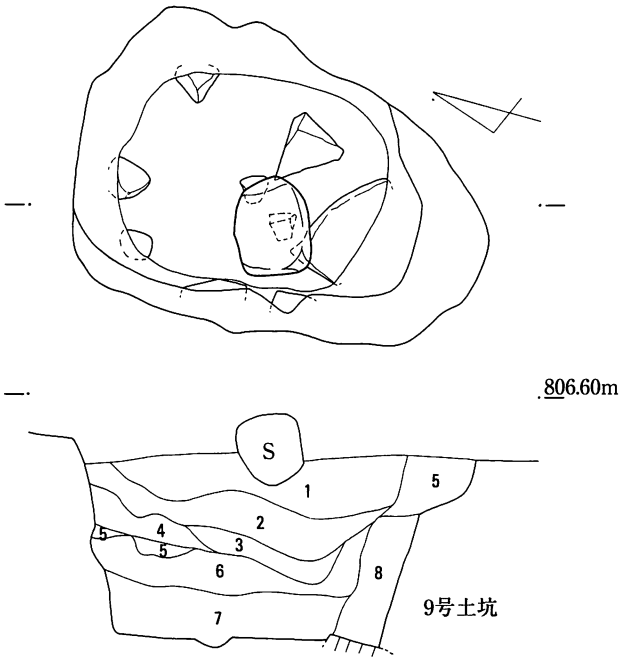
10号土坑（水糸レベル=805.20m）

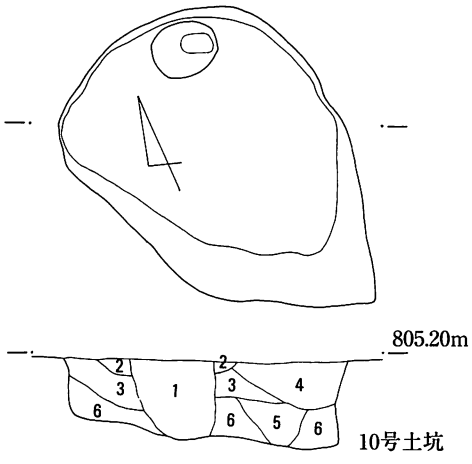
本土坑は、1990年度第２次調査で発見された遺構である。土坑が構築されていた位置はC.B-31グリッドで、平面形態は、楕円形を呈し、その規模は長軸で144cm 、短軸で95cmを計測する。主軸方位は、ほぼ南北にある。深さは、確認面から30cmを有する。坑底は、平坦で楕円形を呈し、北壁際で小穴が存在する。立ち上がりは、ほぼ直に近い。時期は、出土遺物が認められないため不明であるが、覆土から縄文時代中期としておきたい。





8号土坑
1－表土　2－暗褐色土　3－暗黄褐色土　4－暗黄褐色土（3より暗い）
5－暗黄褐色土（しまりなし）　6－暗黄褐色土（しまりあり：3より明るい）
7－暗褐色土　4. 5は、根による撹乱の可能性あり





9号土坑
1－暗褐色土　2－暗褐色土（1より明るい）
3－暗褐色土（焼土粒子少量混入）　4－暗褐色土（3より明るい）
5－暗黄褐色土（壁の崩落土）　6－暗褐色土（ローム粒子混入：3より明るい）
7－暗黄褐色土（全ての暗褐色土より暗い）

10号土坑
1－暗褐色土　2－暗褐色土（1より暗い：撹乱か）
3－暗褐色土（1より明るい）
4－暗褐色土（3よりしまりあり：3よりやや明るい）
5－暗黄褐色土（6より軟らかい）　6－暗黄褐色土

第18図　土坑(1/30)

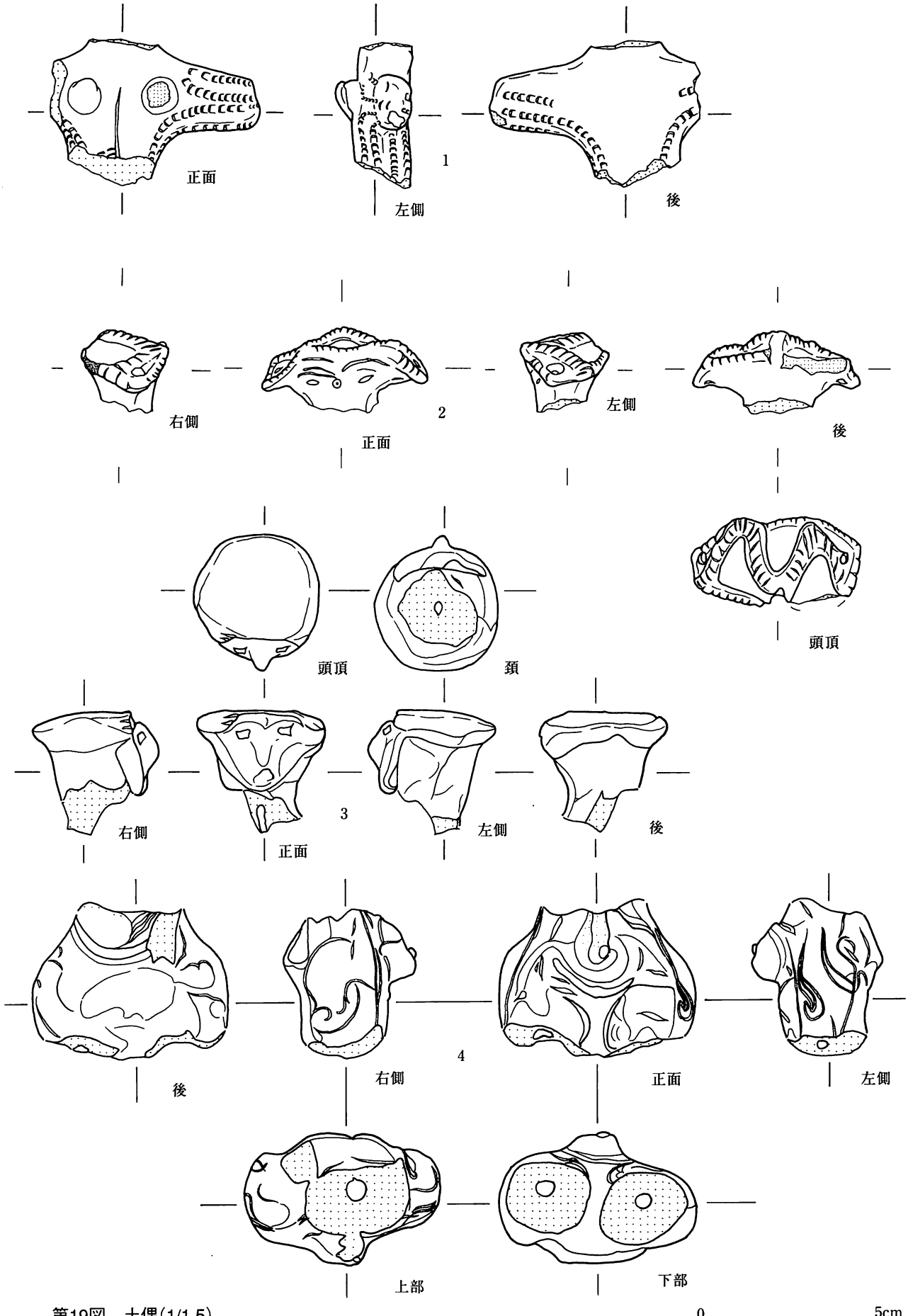
第４節　土製品（第19.20.21図）

Ｂ区３住－９（第19図－1）

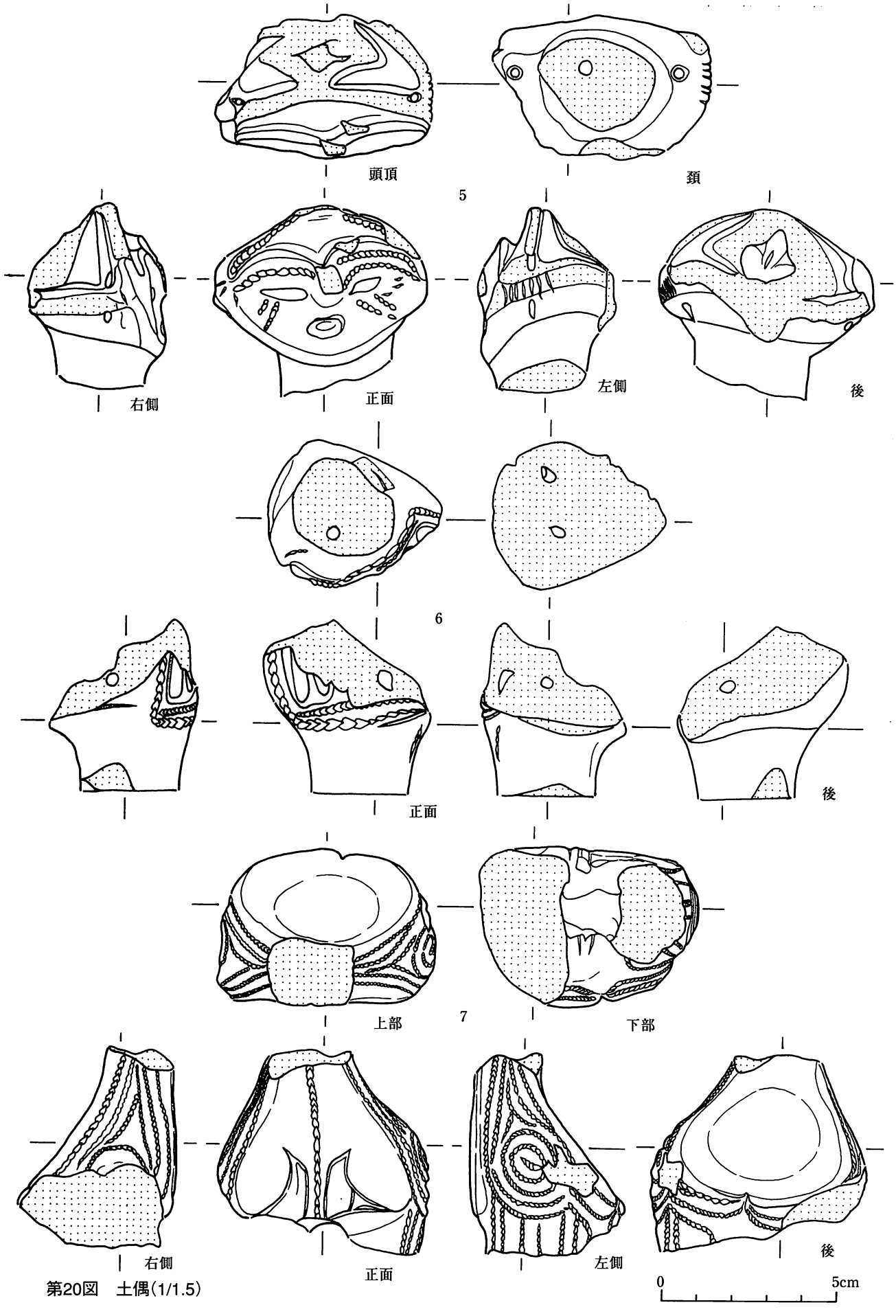
頭部・右腕・胴下半部以下を欠損する。腕から胴部にかけて連続する角押文が二重に施文される。胴部中央には正中線が、両胸中央から下腹部に向かって沈線が引かれる。背面は、連続する角押文が施される。

Ｂ区３住－８（第19図-2）

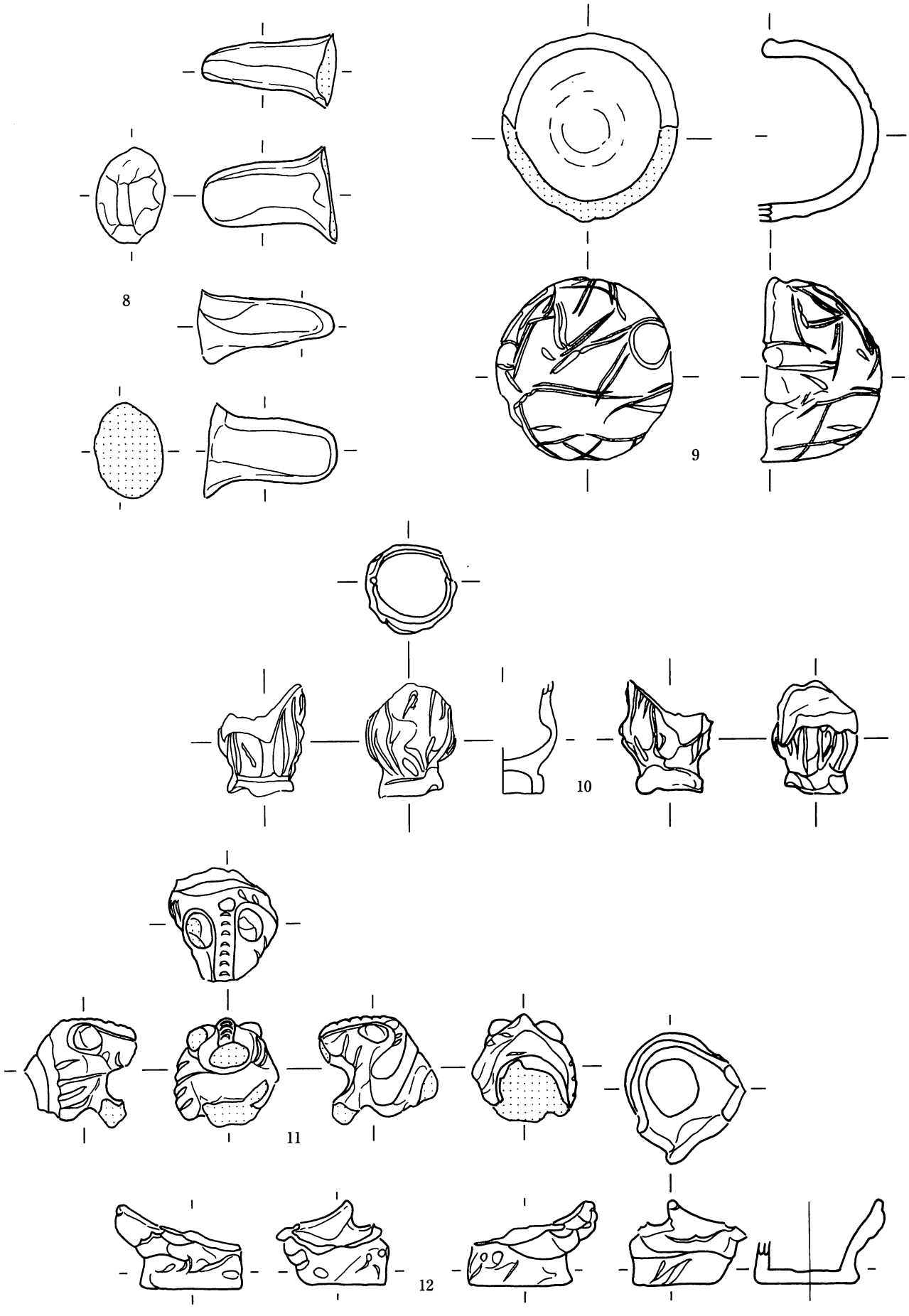
頭部の破片で、首から下を欠損する。両目および口は窪む。眉毛は沈線文で表現される。頭髪は蛇行し刻みが施される。また両耳に当たる箇所は、貫通されている。



第19図　土偶(1/1.5)



第20図　土偶(1/1.5)



第21図　土偶・土鈴・土製品(1/1.5)

C区19住ー77（第19図ー3）

首から下を欠損する。頭頂部は平坦をなす。鼻は貼り付けがなされる。眉はヘラ状工具によって沈線として描きだされている。また首のほぼ中央には胴部とを接合させる棒状の穴が認められる。顔面は、ひび割れの状況から粘土の貼り付けが行われたものと考えられる。全体的な色調は茶黒褐色を呈し、左側面は褐色である。残存する重量は、25ｇである。

C区19住ー175（第19図-4）（19号住居は井戸尻式期）

胴部の腰の部分である。正中線が垂下し、下端にはへそが表現されている。腰は丸く膨らみをもたせ、左の横には沈線文が渦巻き状に施される。正面の両足の付け根には、半円状の沈線文が描かれる。胴上半部と両足を接合させる棒状の穴が認められる。正面の色調は黒褐色を呈し、背面は褐色を呈している。左足の割れ口部は、接合面が剥がれたような状態で滑らかさが有る。色調は赤みを帯びた黒褐色である。胴部および右足の割れ口部は、黒褐色を呈する。残存する重量は、70ｇである。

C区21住ー415（第20図-5）（新道式期）

首以下を欠損する。顔面は平坦で、後頭部が膨らむやや半円形状を呈する。顔面はペン先状工具による連続刺突が施される。鼻が欠損するほかは、顔面が表現される。頭頂部はヘラ状工具によって抉られた痕跡が認められる。また耳に当たる箇所には貫通孔が施される。首と胴部を接合する箇所には棒状の孔が認められる。外面の全体的な色調は黒褐色を呈し、割れ口部は褐色および灰黒色を呈する。残存する重量は、88ｇである。また土偶の頭および首には、赤彩された痕跡が認められ、特に額には明瞭にその痕跡をとどめている。

C区36住-312（第20図-6）（新道式期）

腰の部分の破片である。沈線文とペン先状工具による文様が施される。腰と胴部を接合する箇所には、棒状工具による穴が認められる。全体的な色調は褐色を呈するが、正面及び割れ口部は黒褐色を呈する。残存する重量は、60ｇである。

C区表採（第20図-7）（新道式期）

胴上半部及び両足を欠損する。腰は極端に細くお尻を豊かに表現させる。正面には正中線がペン先状工具によって連続させられ、両脇には沈線文によって半円状に描かれる。また胴部から足にかけて連続するペン先状工具によって施文され、両腰には渦巻文が施される。お尻の中央は平坦でへこみ、やや垂れ下がって突き出している。外面の色調は赤褐色を呈し、割れ口部は黒褐色となっている。残存する重量は、121ｇである。

B区１住ー360（第21図-8）

腕の部分である。腕のつけ根は胴部から剥がれた様な接合面が残存する。全体的な色調は、やや黒みがかった赤褐色を呈し、残存する重量は、13ｇである。

以上１から８までは、土偶である。

C区26住P-1(第21図-9)

球状を呈し外面には沈線文が複雑に入り組んでいる。鰐口を思わせるような箇所が残存し、内面の色調は黒褐色の部分が多く、丁寧に成形されている。色調は半々で、褐色と黒褐色である。重量は、33ｇである。形態から土鈴と考えられる。

C区９住ー248（第21図-10）

小型でミニチュア土器である。外面には沈線文が縦位に施され、脚部が認められる。全体的な色調は、黒褐色を呈する。内面には指の痕が残存し、黒褐色を呈する。残存する重量は、9ｇである。

C区A-19G-21（第21図-11）

動物の顔が表現されている。両目の間には、隆帯によって鼻がつくられ刻みが施される。口は大きく開けられている。また右の顔には横位に沈線文が４本引かれ、獣をかたどった土製品である。時期は不明であるが、胎土等から、縄文時代に属するものと考えられる。全体的な色調は褐色を呈し、割れ口部は黒褐色を呈する。残存する重量は、23ｇである。

C区９住（第21図-12）

小型でミニチュア土器である。底部は平坦で、外面には輪積痕が認められる。また口縁部には、突起が付される。内面には、指の痕が残されている。全体的な色調は、やや赤みを帯びた褐色を呈し、残存する重量は、11ｇである。

第５節　出土石器（第22図～第50図）

1.石　鏃

Ａ・Ｂ・Ｃ区で、1989年度（第1次調査）から1995年度（第6次調査）までの出土した石鏃をここで一括した。第22図（P32）に図示したものは、石鏃の形態を分類したものである。また、第29図（P39）は石鏃・石匙・石錐・凹石及び石皿の計測箇所を表したものである。

石鏃については、次のような基準で分類を行った。

Ａ形態は、Ａ－１類とＡ－２類に分類される。

Ａ－１類　所謂ブーメラン型といわれるもので、全体的に体部は曲線を描き、脚部が広がるものである。また抉り部はやや深くつくられ、脚部の間は曲線を描くものとした。このタイプの数は非常に少なくわずか２点である（１．２）。

Ａ－２類　体部は直線的で脚部が広がるものとした。３は、脚部のあいだは直線的であり小型をなし、４はやや曲線的で大きさもほぼ3に類似する（３．４）。

Ｂ形態は、全体的に直線的で、脚部の間は広がるものとした。また先端部が広く、角度を増すものである。特に10.13.14.15.20.21.24.25.27.28.30.35.38.40.41.42.44の脚部の間は曲線的である。ただし不明のもの（23.31.39）も存在し、他のものについては直線的である（５から44まで）。特に13については、先端部分の両脇体部に抉り部と思われる剥離痕が認められ、類似するものも出土している（1994『甲ッ原遺跡　Ｉ』P-59の32）。

Ｃ形態は、Ｃ－１類とＣ－２類に分類される（45から64まで）。

Ｃ－１類　全体的に直線的で細身のものである。抉り部は浅いが、脚部がしっかりとしているものである。

Ｃ－２類　Ｃ－１類と類似するが、抉り部が浅く脚部が小さいものとした（52.55.56.62.63.64）。

Ｄ形態は、全体的に直線的で細身のもので、抉り部が深く直線的なものとした（65から69）。

Ｅ形態は、全体的に直線的で細身のもので、抉り部がやや深いものである（70～100）。また、96.98については全体的に直線的であるが、脚部の間が広いもので抉り部については、曲線的なものとした。

Ｆ形態は、F—１類からF—３類に分類される（101から135まで）。

Ｆ－１類　平基鏃に属するもので、全体的に曲線的である（101～111）。

Ｆ－２類　浅い抉りを有するもので、全体的に曲線的である（112～115）。

Ｆ－３類　116～118は、全体的に曲線的で、Ｆ－２類より抉りが深いものである。
119～135は、全体的に直線的で、抉りの深いものである（抉りはＣ－2.52.55.56.62.63.64に類似する）。

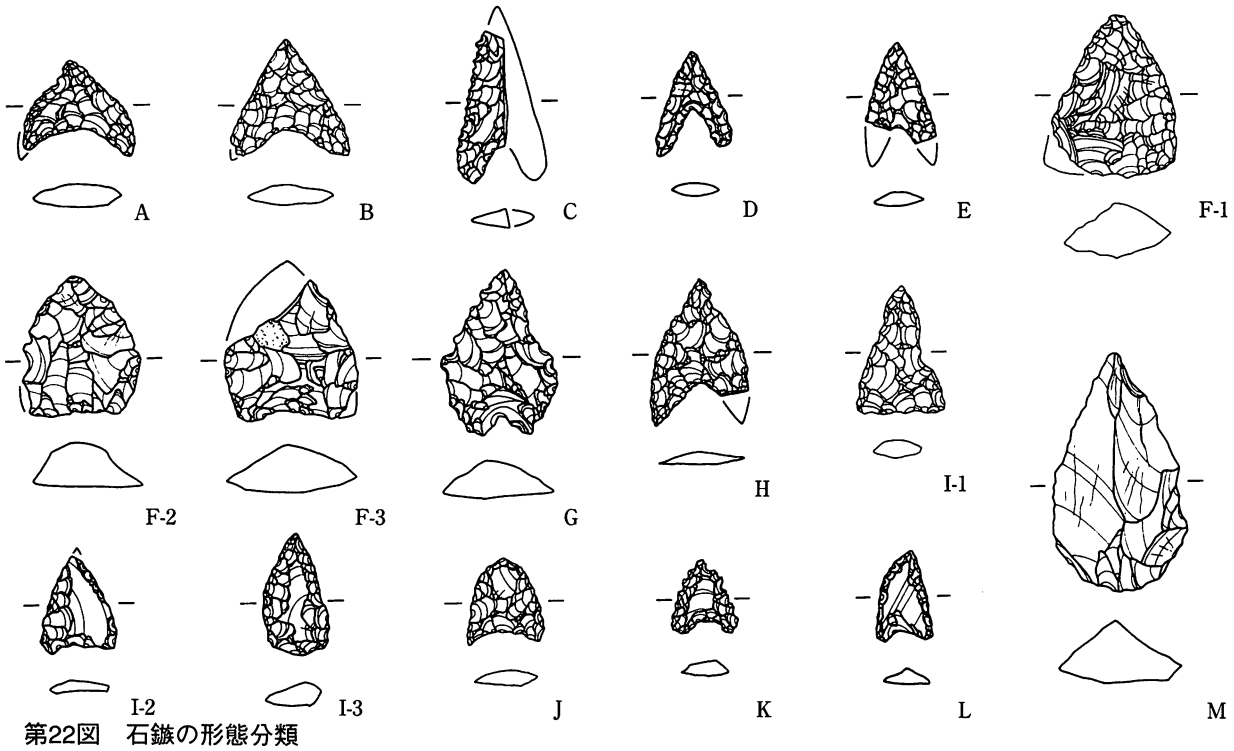
Ｇ形態は、全体的に曲線的で、ハート型に近いもので、抉りは浅く曲線的である（136～142）。

Ｈ形態は、全体的に曲線的で抉りは浅い（143～170）。特に147.153.154.161は、やや抉りは深い。143を除いては、体部はやや細身である。
Ｅ形態との違いは、全体的に直線的か曲線的かの違いである。

Ｉ形態は、I—１類からI—３類に分けられる（171から182まで）。

Ｉ－１類　全体的に直線的で平基鏃である（171～177）。

Ｉ－２類　全体的に直線的で抉りが浅い。脚部の間は開く（178～181）。



第22図　石鏃の形態分類

Ｉ－３類　体部は細身で無茎鏃である。(182)

Ｊ形態は、抉りは浅く、先端部の角度が開く（183～185)。Ｉ－２類のような形態である。

Ｋ形態は、小型で抉りは浅い（186から135まで)。

Ｌ形態は、先端は左右どちらかに傾き、抉りは浅いと思われる。体部は、細身の部類に含まれるものかもしれない（190.191)。

Ｍ形態は、凸基鏃で、石鏃の範疇に入るものかどうか疑問である。(196)

Ｎ形態は、基部欠損で、全体的な形態は不明である（192から195まで)。192は、182に近い形態をしており、Ｉ－３類に入る可能性がある。193は、体部は細身である。194は、体部は細身で、直線的である。195は、先端部は鋭角的で、体部は細身で直線的である。

2.石　匙

Ａ・Ｂ・Ｃ区で、1989年度（第1次調査）から1995年度（第6次調査）までに出土した石匙で、黒曜石製とチャート製を中心として今回報告を行った。

石匙の形態は、石鏃と同様に外見を中心として行った。形態は、Ａ形態からＦ形態まで分類することが可能である。また、形態分類として、従来の横型・縦型で行っており、各型をさらに分類した（第23図)。

横型のタイプは、Ａ類・Ｂ－１類・Ｂ－２類が該当する。

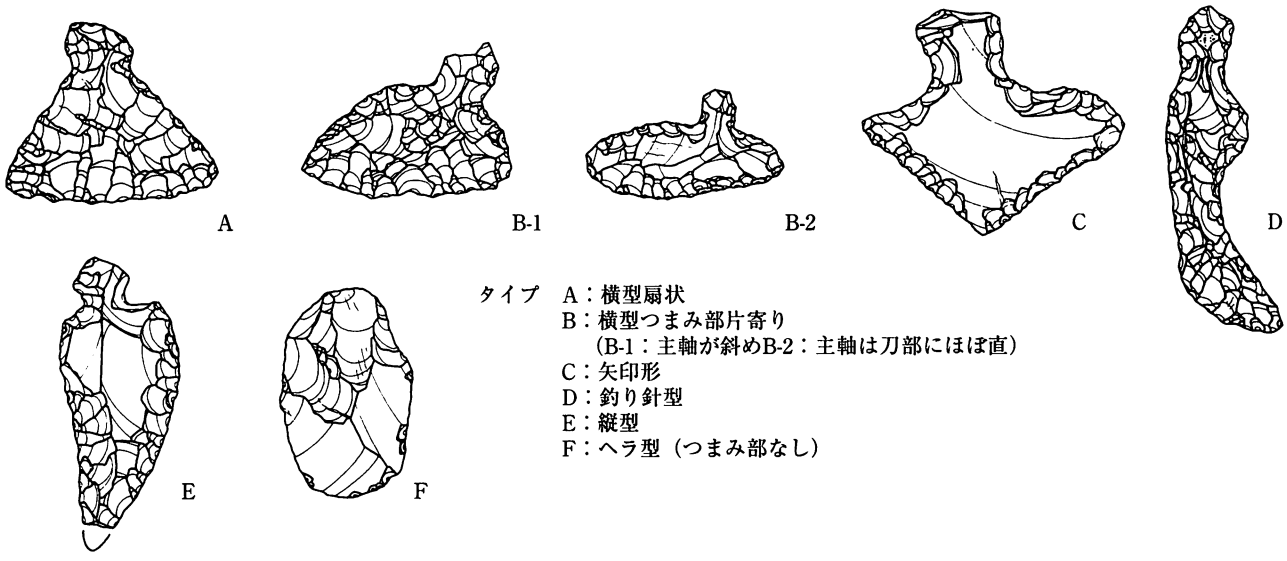
Ａ類　　このタイプは、横型の典型的な形態である。刃部は扇状に広がり、つまみは刃部の長さのほぼ中央に付けられる（横型扇状タイプ197から206まで)。

Ｂ類　　このタイプは、２分類される。分類基準は、つまみ部の方向とした。

Ｂ-1類　刃部は下部にあり、横型を呈する。つまみ部は、刃部に対して斜めの方向に付けられる（主軸に対して斜め207から213・215まで)。

Ｂ-2類　刃部は下部にあり、横型を呈する。つまみ部は、刃部に対してほぼ直角に付けられるものである（主軸に対して直214)。

縦型のタイプは、Ｃ類・Ｄ類・Ｅ類・Ｆ類である。このタイプは、さらに分類される。



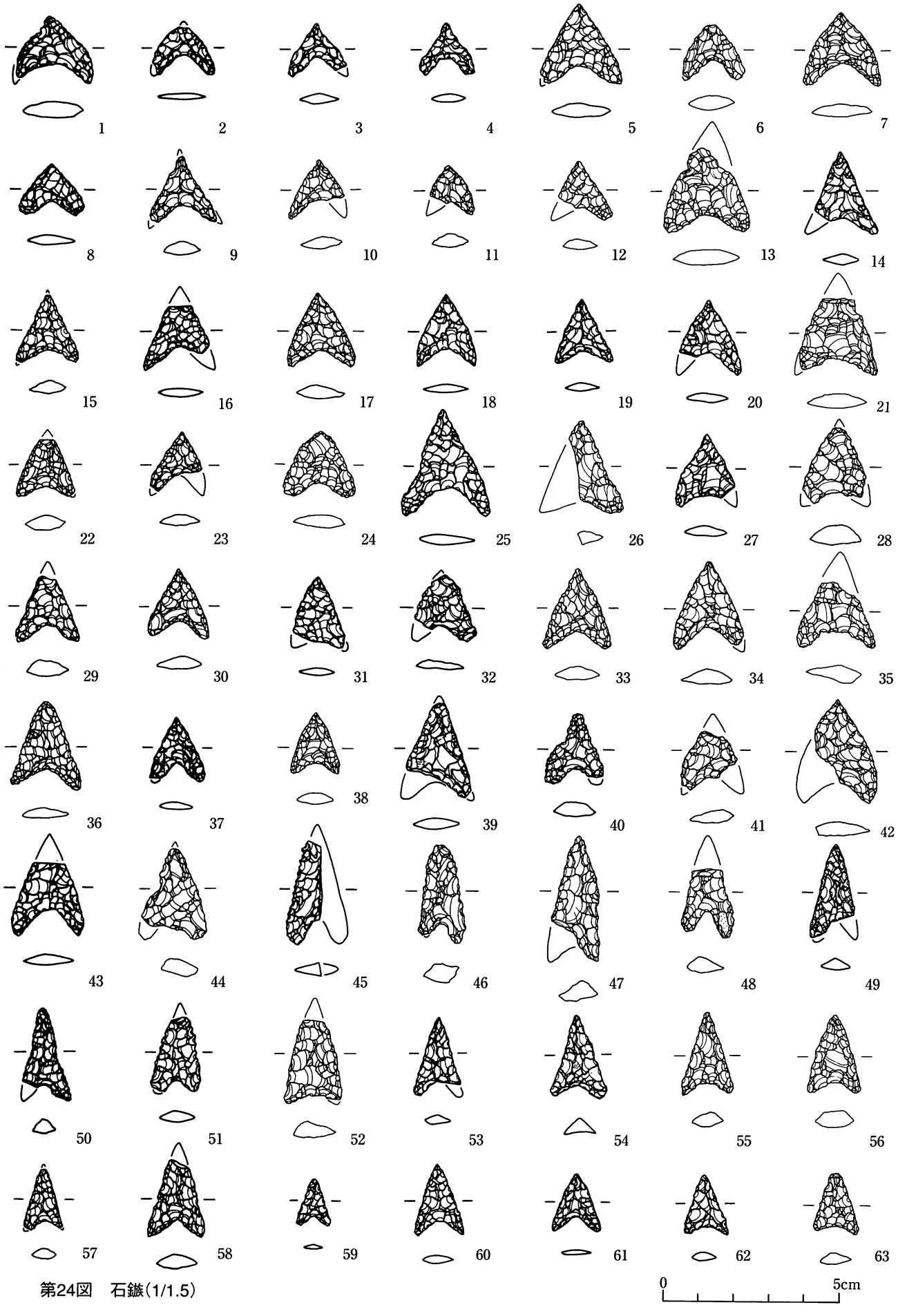
第23図　石匙の形態分類

C類　出土した石匙で、このタイプに属するものはこの１点だけである。縦型の基準として、つまみ部から垂線を引き、刃部が鋭角をなすものとした。特にこのタイプは、矢印型を呈しており、刃部の角度は約90°開く（矢印型216）。

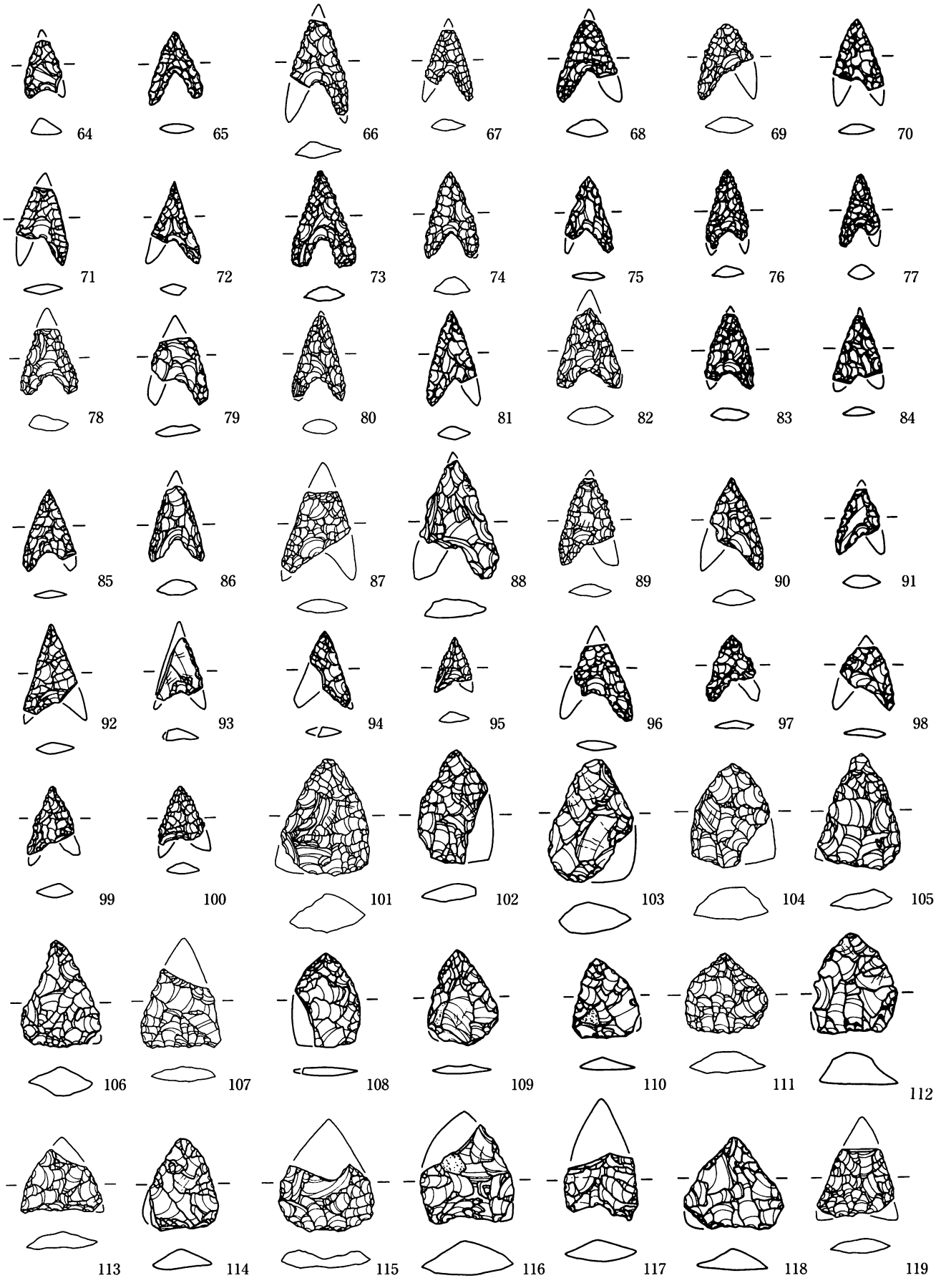
D類　このタイプは、本遺跡では２点出土している。刃部は曲線を描き、釣り針状を呈するものである。また刃部は、内弯する側面に付けられる。217では、つまみ部は両側からつくりだされ、直下では瘤状の突起が付けられる。218は薄型で、217同様先端は釣り針状を呈する。刃部もまた、内弯する側面に付けられる（釣り針型217.218）。

E類　このタイプは、縦型の典型的な形態である。刃部は、つまみ部が形成される抉りの箇所から先端までに付けられる。このタイプで、221と224は、やや異なった形態を示している。221は、つまみ部が刃部の形成されている方向で、緩やかに曲線を描くものである。224は、つまみ部が明確でなく、またつまみ部が大きくつくられているように見受けられる。この224のタイプは、次のＦ類に分類されるかもしれない（縦型219から226まで）。

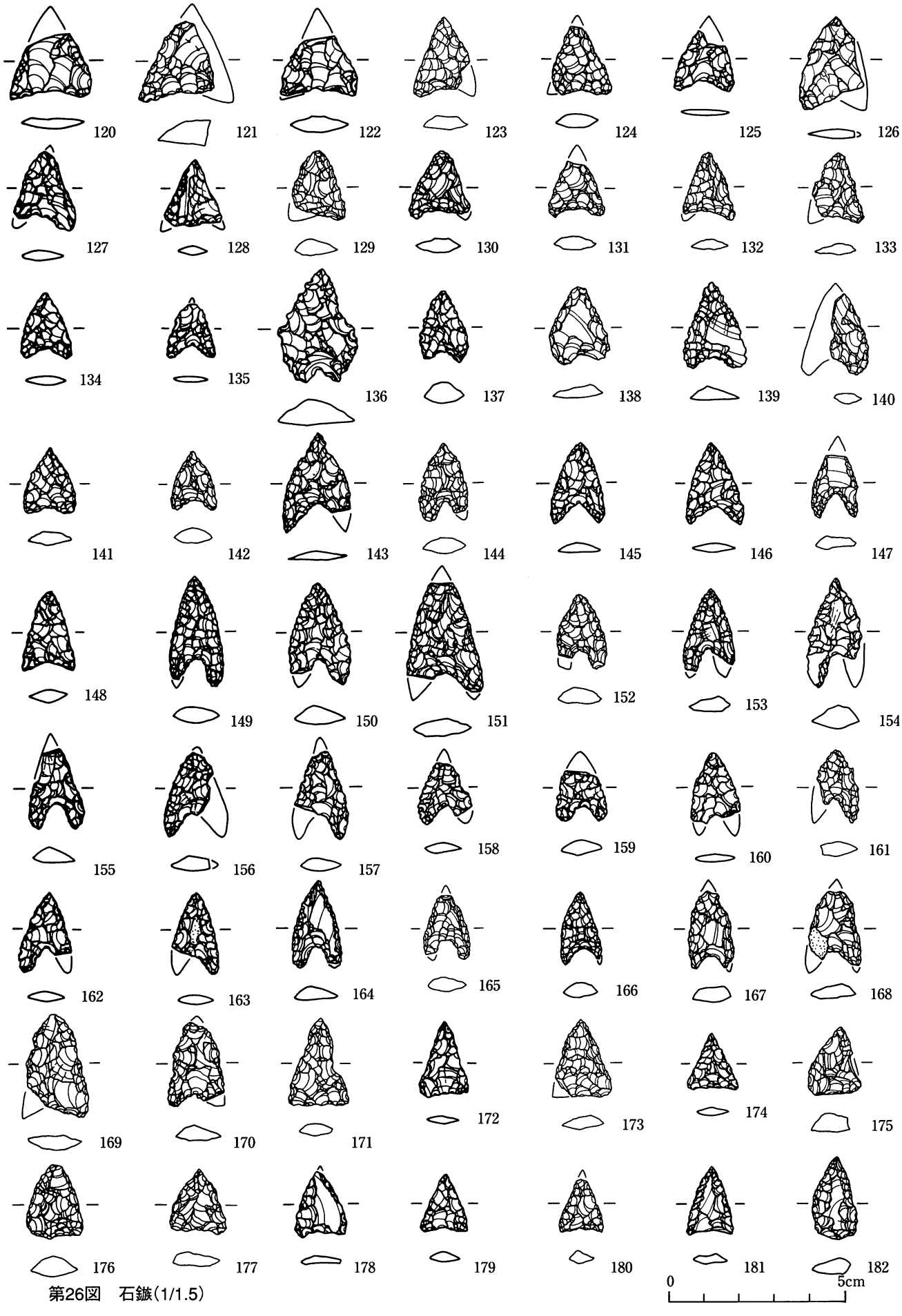
F類　このタイプは、つまみ部が認められず、ヘラ状をなすものである。227は、細かな剥離調整がなされず、ノミを思わせるタイプである。228は227と異なり、先端部から側面・基部に剥離調整が認められる。刃部は、徐々に薄くなる傾向が認められることから、幅の狭いほうが先端部とした。229は、主に刃部は先端にあり、先端部はゆるやかな曲線を描く。基部は先端部より狭く、228と逆となるが、228はもしかすると天地が逆の可能性がある（ヘラ型でつまみ部なし227から229まで）。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
0
5cm

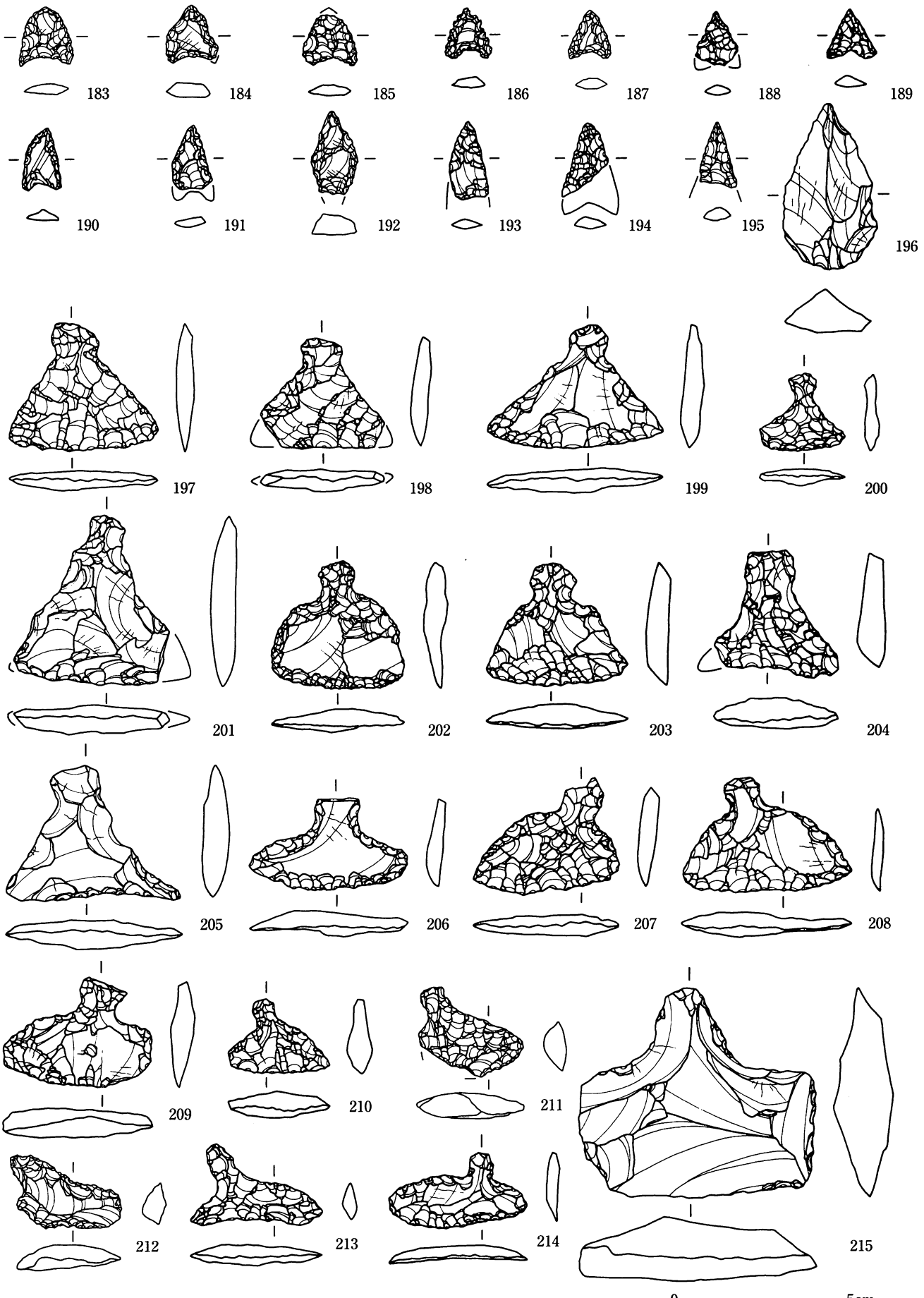
第24図　石鏃(1/1.5)


64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
0
5cm

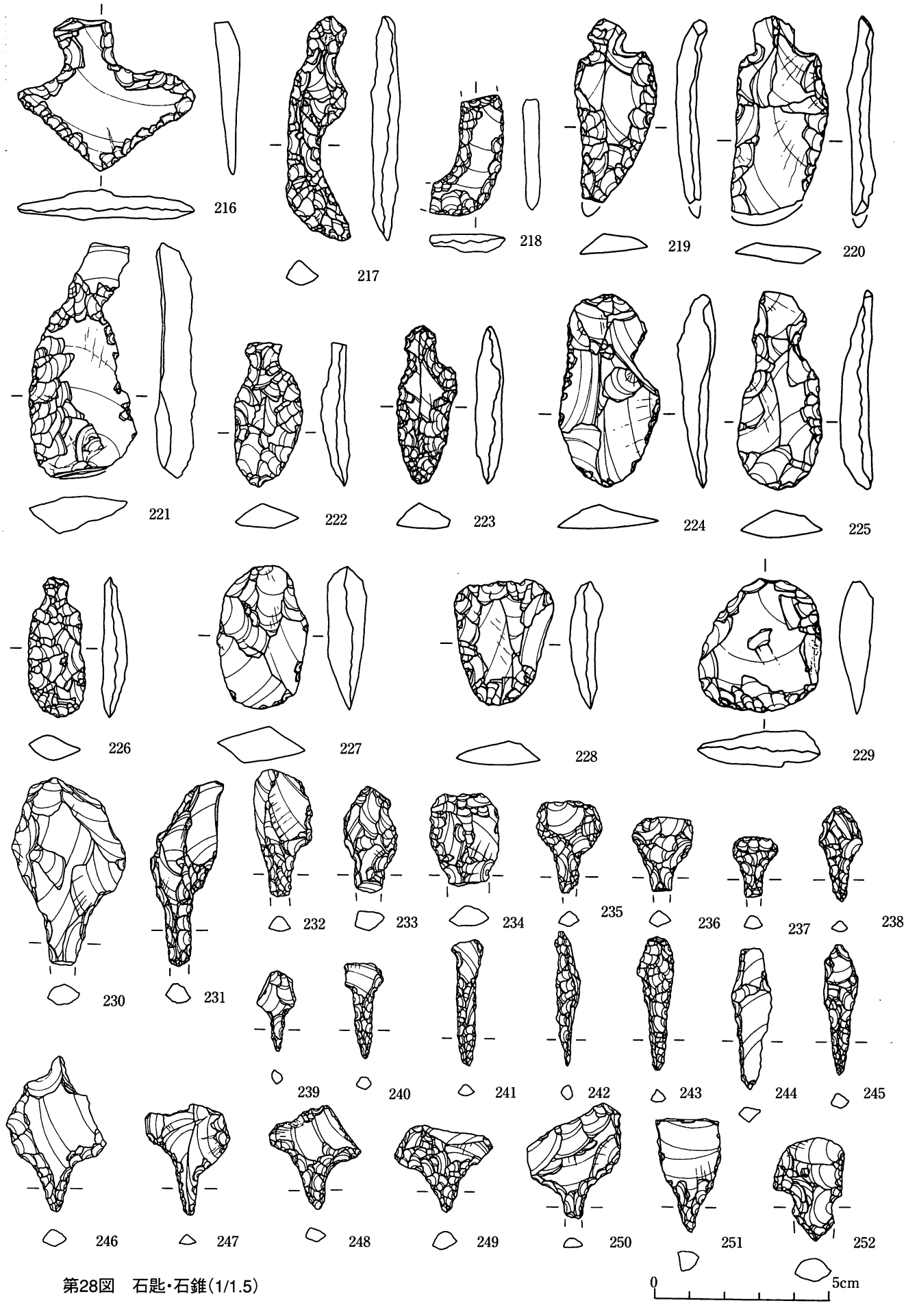
第25図　石鏃(1/1.5)


120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
0
5cm

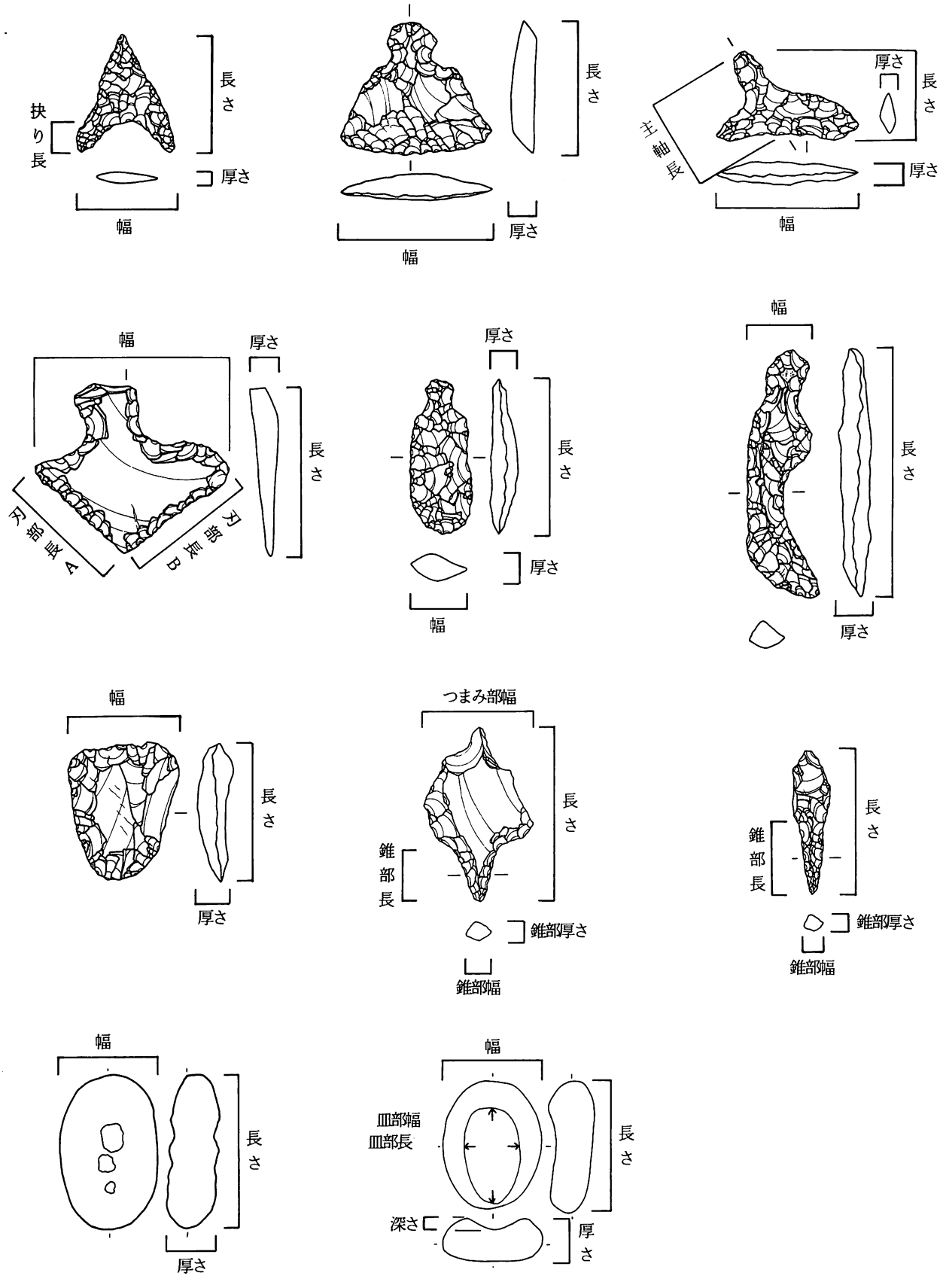
第26図　石鏃(1/1.5)



第27図　石鏃・石匙（1/1.5）



第28図　石匙・石錐(1/1.5)



第29図　石器計測部位一覧

石 鏃 の 計 測 表

(C—はC区，A—はA区，A,はA区を示す)　　(表—1)

石器NO	種別・場所	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	無欠損	欠損箇所	タイプ	抉り長
1	石鏃	黒曜石	19	21	4.5	0.91		基部	A	5
	C−15住	NO64								
2	石鏃	黒曜石	13.5	18	1.5	0.38		先端・脚部	A	6
	A−27住									
3	石鏃	黒曜石	15	17	3	0.41		脚部	A	5
	A−18住	NO31								
4	石鏃	黒曜石	15	16	2.5	0.35	○		A	5
	C−283土	NO4								
5	石鏃	黒曜石	22.5	23	4	0.96		脚部	B	5
	C−23住									
6	石鏃	凝灰岩	15.5	17.5	4	0.6		脚部	B	5
	A，B−26G	NO35								
7	石鏃	黒曜石	20.5	22	4	0.93	○		B	6
	A，143土	S−2								
8	石鏃	黒曜石	14.5	18.5	3	0.59	○		B	4
	A−15住	NO16								
9	石鏃	黒曜石	18.5	19	4	0.6		先端・両脚部	B	5
	C−21住	NO110								
10	石鏃	黒曜石	16.5	16	3.5	0.33		脚部	B	5
	A, A−11G									
11	石鏃	黒曜石	14	13	4	0.42		脚部	B	4
	甲B区									
12	石鏃	黒曜石	16.5	15.5	3	0.34		脚部	B	3
	A，河									
13	石鏃	黒曜石	24	24.5	4	1.42	○	修正か？	B	5
	A，4トレ									
14	石鏃	黒曜石	23	18	3	0.73		脚部	B	5
	A−15住									
15	石鏃	黒曜石	19	17.5	4	0.53		先端・脚部	B	4
	C−23住	ピット5								
16	石鏃	黒曜石	18	19	2.5	0.56		先端・脚部	B	6
	C−09住	NO43								
17	石鏃	黒曜石	20.5	20	4	0.77	○		B	5
	C−21住	NO288								
18	石鏃	黒曜石	20.5	17	2.5	0.61	○		B	5
	C，A−24G	風倒木								
19	石鏃	黒曜石	18.5	16	3	0.59	○		B	4
	A−31住									
20	石鏃	黒曜石	21	17.5	2.5	0.64		脚部	B	6
	A−01住	NO4								
21	石鏃	黒曜石	22	22	4	1.43		先端・脚部	B	5
	A，表採									
22	石鏃	黒曜石	16	16.5	4	0.59		先端部	B	3
	A−11土	NO1								
23	石鏃	黒曜石	16.5	15	3.5	0.38		両脚部	B	5
	C−21住	NO102								
24	石鏃	黒曜石	19	20.5	4	0.92	○		B	4
	A, B−10G									

(C, はC区)　　(表ー2)

石器NO	種別・場所	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	無欠損	欠損箇所	タイプ	抉り長
25	石鏃	黒曜石	30.5	25.5	3	1.56	○		B	8
	C, A－29G	NO16								
26	石鏃	黒曜石	26	15.5	4	0.9		体部一脚部	B	3
	A, C－12G									
27	石鏃	黒曜石	21	17	3	0.93		脚部	B	3
	A－27住	NO534								
28	石鏃	黒曜石	22	18	6	2		先端・両脚部	B	4
	C－24住									
29	石鏃	黒曜石	18.5	18	5	0.83		先端	B	5
	C－27住	ピット1								
30	石鏃	黒曜石	20	17	3.5	0.55		基部	B	5
	C－24住	NO431								
31	石鏃	黒曜石	20	15	2	0.55		両脚部	B	2
	A－33住									
32	石鏃	黒曜石	19	18	3	0.67		先端・脚部	B	4
	C－09住									
33	石鏃	黒曜石	23	19.5	4	0.78	○		B	5
	A, C－7G									
34	石鏃	黒曜石	25	20	4.5	1.19		脚部	B	7
	甲B区3住	NO3								
35	石鏃	黒曜石	18.5	22.5	5	1.3		先端部	B	5
	A, B－3G									
36	石鏃	黒曜石	24.5	20	3	0.95	○		B	5
	A, C－7G									
37	石鏃	黒曜石	18	16	2	0.41		脚部	B	5
	C－46住	S－5								
38	石鏃	チャート	17.5	14	3	0.62	○		B	3
	A	NO753								
39	石鏃	黒曜石	27	19	3	1.08		先端・両脚部	B	4
	C－45住									
40	石鏃	黒曜石	20	16.5	4	0.9		脚部	B	4
	C－09住	ピット								
41	石鏃	黒曜石	17	16	5	0.73		先端・両脚部	B	6
	C－21住	NO246								
42	石鏃	黒曜石	39	18	4	1.15		体部一脚部	B	6
	C－21住									
43	石鏃	黒曜石	20.5	20.5	3	0.97		先端	B	8
	C－105土									
44	石鏃	黒曜石	26	19	5	1.77		先端・脚部	B	4
	A, A－6G									
45	石鏃	チャート	29.5	10	4	1.23		先端	C	7
	A－25住	NO34						先端・基部		
46	石鏃	黒曜石	28	14	1.44	1.44		脚部	C	6
	C－29住	埋炉								
47	石鏃	チャート	36	14.5	6	2.18		脚部	C	5
	A－10住	NO10								
48	石鏃	黒曜石	20	15.5	4.5	0.83		先端	C	8
	C－29住	炉－1								

（表ー3）

石器NO	種別・場所	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	無欠損	欠損箇所	タイプ	抉り長
49	石鏃	黒曜石	27	12.5	4	0.79		両脚部	C	7
	A－26住									
50	石鏃	黒曜石	26	14	4	0.86		脚部	C	5
	C－06住	NO33								
51	石鏃	チャート	21.5	14	3.5	1.04		先端・脚部	C	3
	C, 表採	NO15								
52	石鏃	黒曜石	24	16.5	5	1.37		先端・脚部	C	2
	A,									
53	石鏃	黒曜石	23	14	3	0.59		脚部	C	5
	A－29住	NO413								
54	石鏃	黒曜石	24.5	16	4	0.94	○		C	4
	C－228土									
55	石鏃	黒曜石	23.5	15	4	1.08	○		C	4
	甲B区1住									
56	石鏃	黒曜石	22	15	5	1.09	○		C	3
	A－18住外									
57	石鏃	黒曜石	17	11	3	0.47		先端・脚部	C	3
	甲B区3住	NO375								
58	石鏃	黒曜石	21	16	4	0.76		先端	C	5
	C－18住									
59	石鏃	黒曜石	13	9.5	1	0.12	○		C	3
	C,表採									
60	石鏃	黒曜石	20.5	14	2.5	0.48	○		C	4
	C－45住	S－28								
61	石鏃	黒曜石	17	14	1.5	0.27	○		C	4
	A－26住									
62	石鏃	チャート	17	12.5	2.5	0.45	○		C	2
	A－32住	NO28								
63	石鏃	黒曜石	17.5	13	3.5	0.49	○		C	2
	C－24住	NO397								
64	石鏃	黒曜石	16	10.5	6	0.54		先端・脚部	C	2
	A－16住									
65	石鏃	黒曜石	20	15	3	0.52	○		D	9
	C－45住	S－26								
66	石鏃	黒曜石	26	15.5	4.5	1.1		先端・両脚部	D	11
	C－24住	ピット4								
67	石鏃	黒曜石	19	13.5	3	0.31		先端・脚部	D	8
	A, D－9G									
68	石鏃	黒曜石	22.5	16.5	4.5	0.8		先端・脚部	D	9
	C－14住									
69	石鏃	黒曜石	20.5	15.5	4.5	0.64		脚部	D	8
	A, C－12G									
70	石鏃	黒曜石	19.5	14	3	0.61		両脚部	E	8
	C, A－27G	NO14								
71	石鏃	黒曜石	21	14	3	0.65		先端・脚部	E	8
	A－35住									
72	石鏃	黒曜石	22.5	13.5	3	0.54		脚部	E	7
	C－36住	NO247								

（表ー4）

石器NO	種別・場所	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	無欠損	欠損箇所	タイプ	抉り長
73	石鏃	黒曜石	26	17.5	4	1.13	○		E	8
	C－09住	ピット5								
74	石鏃	黒曜石	23	15	5	0.81		脚部	E	7
	C－26住	NO559								
75	石鏃	黒曜石	21	13	2	0.53		脚部	E	6
	A－27住	NO472								
76	石鏃	黒曜石	21	11.5	3	0.68		脚部	E	5
	C－10住	NO98								
77	石鏃	黒曜石	19.5	11	4	0.32		脚部	E	5
	C－14住									
78	石鏃	チャート	18	16	4	0.89		先端部	E	5
	A－9土	NO22								
79	石鏃	黒曜石	19	15	3	0.64		先端・脚部	E	7
	A－23住	NO402								
80	石鏃	黒曜石	23	15	4	0.66		先端・脚部	E	6
	A, B－25G	NO21								
81	石鏃	黒曜石	26	14	4	0.83		脚部	E	7
	C－37住	埋炉								
82	石鏃	黒曜石	22	17.5	5	1.18		先端・脚部	E	5
	A, 表採									
83	石鏃	黒曜石	20.5	13	3.5	0.58		先端・脚部	E	4
	C－09住	NO277								
84	石鏃	黒曜石	19	13.5	2.5	0.48		先端・両脚部	E	5
	C, A－15G	NO13								
85	石鏃	黒曜石	22	14.5	2	0.55		脚部	E	5
	C, X－44G									
86	石鏃	チャート	20.5	15.5	4	0.82		先端	E	6
	C－19住	NO184								
87	石鏃	黒曜石	22	19	4	0.97		先端・両脚部	E	7
	A, 河									
88	石鏃	粘板岩	32.5	22	5	2.36		先端・脚部	E	9
	C－19住	NO128								
89	石鏃	黒曜石	24	15.5	3.5	0.84		先端・脚部	E	6
	A－10住									
90	石鏃	黒曜石	25.5	14	4.5	0.72		基部	E	7
	C－24住									
91	石鏃	黒曜石	18	12	3.5	0.6		先端・脚部	E	4
	A－33住									
92	石鏃	黒曜石	25	15	3	0.77		両脚部	E	5
	A－14住	NO36								
93	石鏃	黒曜石	17.5	12.5	3	0.45		先端・両脚部	E	5
	A－37住	NO69								
94	石鏃	黒曜石	21	11	3	0.43		体部一脚部	E	5
	A－30住									
95	石鏃	黒曜石	15	10.5	3	0.22		脚部	E	3
	甲B区1住									
96	石鏃	黒曜石	21	18	2.5	0.65		先端・脚部	E	7
	A－20住									

（表－5）

石器NO	種別・場所	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	無欠損	欠損箇所	タイプ	抉り長
97	石鏃	黒曜石	18	13.5	2.5	0.44		脚部	E	6
	C－45住									
98	石鏃	黒曜石	17	15	3	0.44		先端・脚部	E	6
	A－35住									
99	石鏃	黒曜石	18.5	13	4	0.62		両脚部	E	3
	C－46住									
100	石鏃	黒曜石	16	13	3	0.5		両脚部	E	5
	C－18住	ベルト								
101	石鏃	黒曜石	32	24	10.5	7.26		脚部	F－1	0
	A－26土	NO8								
102	石鏃	黒曜石	31	19	5	2.46		体部一基部	F－1	0
	C－16住									
103	石鏃	黒曜石	34	23	9	5.85		基部	F－1	0
	A－17土									
104	石鏃	黒曜石	28	22	9	4.6		脚部	F－1	0
	A, 表採									
105	石鏃	黒曜石	31.5	22.5	5.5	4.45		脚部	F－1	0
	A, B－6G									
106	石鏃	黒曜石	29	22	8	4.22		基部	F－1	0
	C－36住	NO256								
107	石鏃	黒曜石	21.5	22	4	1.66		先端	F－1	0
	A, C－10G									
108	石鏃	黒曜石	25.5	18	2.5	1.27		体部一脚部	F－1	0
	A－20住									
109	石鏃	黒曜石	26	19.5	2.5	1.61		脚部	F－1	0
	A－33住									
110	石鏃	黒曜石	21.5	18	3.5	1.41		脚部	F－1	0
	A－13住	ピット1								
111	石鏃	黒曜石	21.5	22.5	6	2.28	○		F－1	0
	A, B－11G									
112	石鏃	黒曜石	27	23	8.5	4.7		脚部	F－2	1
	A－01住	NO4								
113	石鏃	黒曜石	18	22.5	4.5	1.23		先端・脚部	F－2	1
	C－24住									
114	石鏃	黒曜石	25.5	19	5	3.18		脚部？	F－2	1
	C, 表採	NO28								
115	石鏃	黒曜石	18.5	26	5	2.61		先端	F－2	1
	C－31住	ピット3								
116	石鏃	黒曜石	22.5	26	9.5	5.63		先端・脚部	F－3	2
	A－01住	NO372								
117	石鏃	黒曜石	19	20	6	1.84		先端	F－3	5
	C－36住									
118	石鏃	黒曜石	26	27	6	3.7		脚部	F－3	1
	A－28住									
119	石鏃	黒曜石	19	21.5	4	1.73		先端・両脚部	F－3	2
	A, D－11G									
120	石鏃	黒曜石	18	23	3	1.48		先端	F－3	2
	A－33住	ベルト								

（表－6）

石器NO	種別・場所	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	無欠損	欠損箇所	タイプ	抉り長
121	石鏃	黒曜石	23.5	22	7.5	2.97		先端・脚部	F－3	3
	A－14住									
122	石鏃	黒曜石	17.5	22	4.5	1.44		先端・脚部	F－3	3
	C－45住									
123	石鏃	黒曜石	22.5	16.5	4.5	0.99		脚部	F－3	2
	A, A－10G									
124	石鏃	黒曜石	19.5	17	4	1.03		先端・脚部	F－3	1
	A－99土									
125	石鏃	黒曜石	17	17	2	0.66		先端	F－3	3
	A－33住	NO1								
126	石鏃	黒曜石	26.5	18	3	1.22		基部	F－3	3
	A－26土									
127	石鏃	黒曜石	22	18	3	1.06		先端・脚部	F－3	4
	A－27住	NO483								
128	石鏃	黒曜石	19	16.5	3	1.06		脚部	F－3	0
	A－27住	NO725								
129	石鏃	黒曜石	20	15	5	1.26		脚部	F－3	1
	A, 河	NO65								
130	石鏃	黒曜石	19.5	17.5	4.5	0.96		脚部	F－3	3
	C－13住	NO146								
131	石鏃	黒曜石	16	16	4	0.6		先端	F－3	2
	C－21住	NO158								
132	石鏃	黒曜石	19.5	15	3	0.6		脚部	F－3	3
	甲B区3住	NO58								
133	石鏃	黒曜石	20	15	3.5	0.76		脚部	F－3	2
	甲B区3住	NO33								
134	石鏃	黒曜石	18.5	14.5	3	0.71	○		F－3	3
	A－13住									
135	石鏃	黒曜石	15	14	2	0.37		先端	F－3	4
	A－10住									
136	石鏃	黒曜石	31.5	23	7	3.59	○		G	3
	C, Z－41G									
137	石鏃	黒曜石	20	14	6	1.42			G	4
	C－50住									
138	石鏃	黒曜石	22	17.5	4	1.39	○		G	3
	C－26住	NO736								
139	石鏃	黒曜石	24	18	4	1.07	○		G	3
	C－09住	NO72								
140	石鏃	黒曜石	23	11	3	0.66		先端一脚部	G	5
	A－13住	炉								
141	石鏃	黒曜石	19	15	4	0.79	○		G	1
	甲B区3住									
142	石鏃	黒曜石	17	13.5	4.5	0.59	○		G	3
	A, C－7G									
143	石鏃	黒曜石	28	19.5	2.5	0.91		脚部	H	8
	C－09住	NO464A								
144	石鏃	黒曜石	22	14	4	0.91		脚部	H	5
	A, D－10G									

（表ー7）

石器NO	種別・場所	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	無欠損	欠損箇所	タイプ	抉り長
145	石鏃	黒曜石	23	15.5	3	0.76	○		H	6
	C－281土									
146	石鏃	黒曜石	23.5	6.5	3	0.86	○		H	5
	A－29住	ベルト								
147	石鏃	黒曜石	18	13.5	4	0.48		先端	H	7
	甲B区1住	NO611								
148	石鏃	黒曜石	22.5	15	4	0.99	○		H	3
	A－17住	NO17								
149	石鏃	黒曜石	31	15.5	4.5	1.9		脚部	H	8
	C－13住	NO133								
150	石鏃	黒曜石	30	17.5	5.5	1.99		脚部	H	8
	C, X－43G									
151	石鏃	黒曜石	30.5	22	5	2.5		先端・両脚部	H	7
	C－09住	NO88								
152	石鏃	黒曜石	21.5	14.5	4.5	0.98		脚部	H	5
	C－21住	NO101								
153	石鏃	黒曜石	24	14	4	1.09		両脚部	H	8
	C－09住	NO58								
154	石鏃	黒曜石	31	16	7	1.78		脚部	H	10
	C, X－43G	NO25								
155	石鏃	黒曜石	23	16	4.5	1.1		先端	H	7
	C, 表採	B								
156	石鏃	黒曜石	24	13.5	4	1.02		先端・脚部	H	7
	C－150土									
157	石鏃	黒曜石	25	15.5	4	1.04		先端・脚部	H	7
	C, W－46G									
158	石鏃	黒曜石	17	16	3	0.59		先端・脚部	H	5
	C, B－12G	ピット2								
159	石鏃	黒曜石	14	14.5	4.5	0.78		先端	H	4
	C, A－18G	NO33								
160	石鏃	黒曜石	20.5	14	2	0.84		両脚部	H	6
	C－36住									
161	石鏃	黒曜石	21	12	4.5	0.56		基部	H	7
	C－24住									
162	石鏃	黒曜石	23	15	3	0.75		脚部	H	7
	A－26住	NO183								
163	石鏃	黒曜石	23	13.5	3	0.77		脚部	H	5
	C－39住									
164	石鏃	黒曜石	24.5	14	4	0.84		脚部	H	6
	C－14住	NO64								
165	石鏃	黒曜石	18	13.5	4	0.69		先端・脚部	H	5
	A－10住	ピット3								
166	石鏃	黒曜石	20	11.5	4.5	0.76		脚部	H	4
	C－13住	NO156								
167	石鏃	黒曜石	22	13	4.5	1.19		先端・脚部	H	3
	C－19住	NO138								
168	石鏃	黒曜石	21	15	4	1.15		先端・両脚部	H	4
	C－18住									

（表—8）

石器NO	種別・場所	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	無欠損	欠損箇所	タイプ	抉り長
169	石鏃	チャート	29.5	18	4	2.03		脚部	H	3
	A, 河									
170	石鏃	黒曜石	24	16	4.5	1.3		先端・脚部	H	4
	C−22住	ピット3								
171	石鏃	黒曜石	25	17	3.5	0.83	○		I−1	0
	A−138土									
172	石鏃	黒曜石	21.5	14	2	0.57	○		I−1	0
	C−36住									
173	石鏃	黒曜石	22	16	4	1.04		脚部	I−1	0
	A, C−12G									
174	石鏃	黒曜石	16	14.5	2	0.5	○		I−1	1
	A−13住									
175	石鏃	黒曜石	19.5	15	6	1.34		体部	I−1	0
	甲B区5住	NO3								
176	石鏃	黒曜石	21.5	16	6	1.74	○		I−1	0
	A, A−4G									
177	石鏃	黒曜石	19	16.5	4	1.11	○		I−1	0
	A, C−8G									
178	石鏃	黒曜石	19	15	2.5	0.73		先端	I−2	1
	A−35住	NO18								
179	石鏃	黒曜石	17	14	3	0.49	○		I−2	1
	A−28住	NO50								
180	石鏃	黒曜石	15.5	13	4	0.5		先端	I−2	1
	A−10住									
181	石鏃	チャート	20	13	3	0.77	○		I−2	2
	A−35住	NO231								
182	石鏃	黒曜石	23.5	12.5	4.5	1.15		基部	I−3	0
	C−13住									
183	石鏃	黒曜石	16.5	15.5	3	0.67	○		J	2
	甲B区3住	NO45								
184	石鏃	黒曜石	16.5	14.5	4	0.73		脚部	J	2
	C−13住									
185	石鏃	黒曜石	14	15	3	0.63		先端	J	2
	C−09住	NO464								
186	石鏃	黒曜石	14	13	3	0.37	○		K	2
	C−06住	NO7								
187	石鏃	黒曜石	13.5	12	3	0.33	○		K	2
	A, A−23G	NO116								
188	石鏃	黒曜石	15	12	3	0.31		両脚部	K	1
	A−17住									
189	石鏃	黒曜石	14	14	3	0.35	○		K	2
	A−12住	ピット2								
190	石鏃	黒曜石	17	11	3	0.56	○		L	2
	C−28住	NO36								
191	石鏃	黒曜石	18	11.5	3	0.6		両脚部	L	不明
	A−30土									
192	石鏃	黒曜石	23	12.5	5.5	1.94		基部	不明	不明
	C−16住									

（表ー9）

石器NO	種別・場所	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	無欠損	欠損箇所	タイプ	抉り長
193	石鏃	黒曜石	21.5	11	3	0.56		基部	不明	不明
	A－7土									
194	石鏃	黒曜石	20	12.5	3.5	0.62		下半部	不明	不明
	C－11住									
195	石鏃	チャート	18	10	4	0.53		基部	不明	不明
	C－24住									
196	石鏃	チャート	46	26	12	12.31	○		M	0
	A－01住	NO2								

石 匙 の 計 測 表

（A—はA区，A,はA区，C—はC区を示す）

（表ー10）

石器NO	種別・場所	石　材	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	無欠損	欠損箇所	タイプ
197	石匙	黒曜石	36	42	5	5.85	○		A
	A-01住	NO1391			5.5				
198	石匙	黒曜石	30.5	34.5	6	4.8		裾部	A
	A-01住	NO1499			6				
199	石匙	チャート	34	49	6.5	8.35	○		A
	A, A-18G	NO44			7				
200	石匙	安山岩	21.5	24	4.5	1.55		裾部	A
	C-45住	NO-S-16			4.5				
201	石匙	頁岩	47.5	43.5	7.5	13.87		裾部	A
	A, 区 表採				8.5				
202	石匙	チャート	35	37	6	6.35	○		A
	A-27住	NO246			6.5				
203	石匙	チャート	34	39.5	7	7.89	○		A
	A-01住	NO487			7				
204	石匙	黒曜石	35.5	34.5	8	7.66		裾部	A
	A-15住	NO44			8.5				
205	石匙	凝灰岩	38	49	8	10.53	○		A
	A-01住	NO1843			8.5				
206	石匙	凝灰岩	26	44	6	5.62	○		A
	甲B区1住	NO245			7.5				
207	石匙	黒曜石	32	40.5	6	6.44	○		B-1
	A, C-7G		34		6				
208	石匙	チャート	32	47	3.5	8.12	○		B-1
	A, 表採		32		7				
209	石匙	チャート	31	42	6.5	8.07	○		B-1
	C-205土		30		8.5				
210	石匙	黒曜石	20.5	28.5	7	2.03	○		B-1
	C-275土		21		7				
211	石匙	チャート	25	30.5	6	4.35		裾部	B-1
	C, B-12G	土坑-4	24		7				
212	石匙	黒曜石	20.5	29.5	7	3.15	○		B-1
	C-42住	ビット6	26.5		7.5				

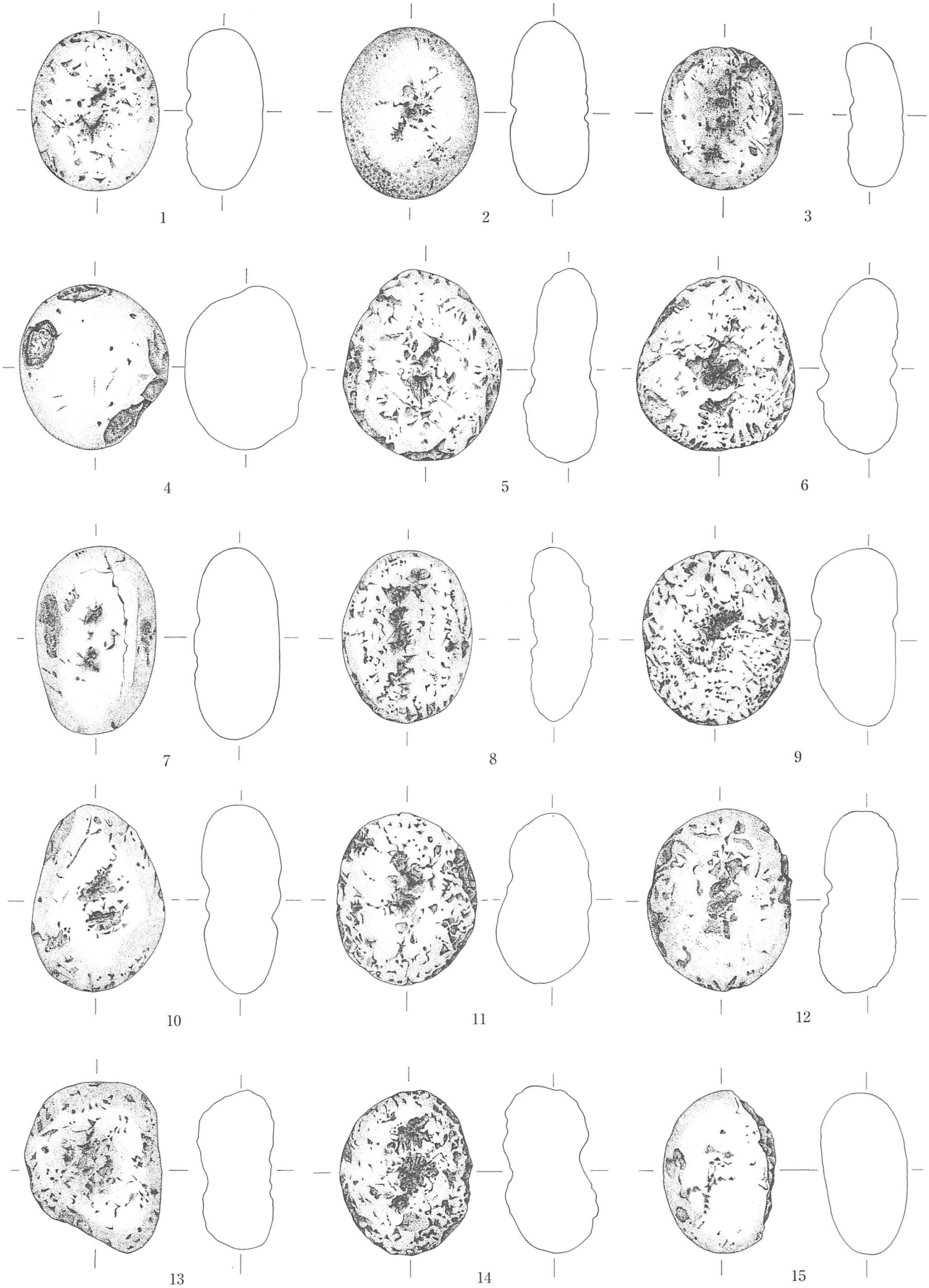
(C, はC区)　　(表ー11)

石器NO	種別・場所	石　材	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	無欠損	欠損箇所	タイプ
213	石匙	黒曜石	23	36.5	4	2.59	○		B-1
	A, 河		24		6				
214	石匙	チャート	21	39	4	2.89	○		B-2
	A-15住	NO43			5				
215	石匙	安山岩	58	65	16.5	51.64	○		A
	A, C-9G				18				
216	石匙	チャート	43.5	51	7.5	11.67	○		C
	C-304土	NO9	42.5		9	刃A32.5	刃B30		
217	石匙	黒曜石	64.5	19	9	7.03	○		D
	A-13住	NO-S-1		9.5	7				
218	石匙	黒曜石	34.5	22	5.5	3.51		先端部	D
	C, 表採				5.5				
219	石匙	チャート	52	23.5	9	8.34		先端部	E
	A-22土				6				
220	石匙	粘板岩	57	28	8	11.05		先端部	E
	A, C-6G				6				
221	石匙	黒曜石	67	31	12	17.73		先端部	E
	A-34住	NO113	54		10.5				
222	石匙	チャート	41	20	8	5.95	○		E
	A-17土				7				
223	石匙	黒曜石	45	17.5	7.5	5.03	○		E
	C-34住	NO1			7				
224	石匙	チャート	55.5	29	11	12.41		抉り部ヘラ状	F
	A-33住	ピット5			7				
225	石匙	凝灰岩	57	24	9	11.87	○		E
	A-01住	NO3			8				
226	石匙	黒曜石	40	16	7	4.42	○		E
	C-11住	NO53			7				
227	石匙	チャート	41	26	11.5	11.41	○	ヘラ状	F
	C-02住				10				
228	石匙	チャート	36	29	9	9	○	ヘラ状	F
	A, D-9G				7				
229	石匙	チャート	38	35.5	9.5	14.79	○	ヘラ状	F
	A-01住	NO1			10.5				

石 錐 の 計 測 表

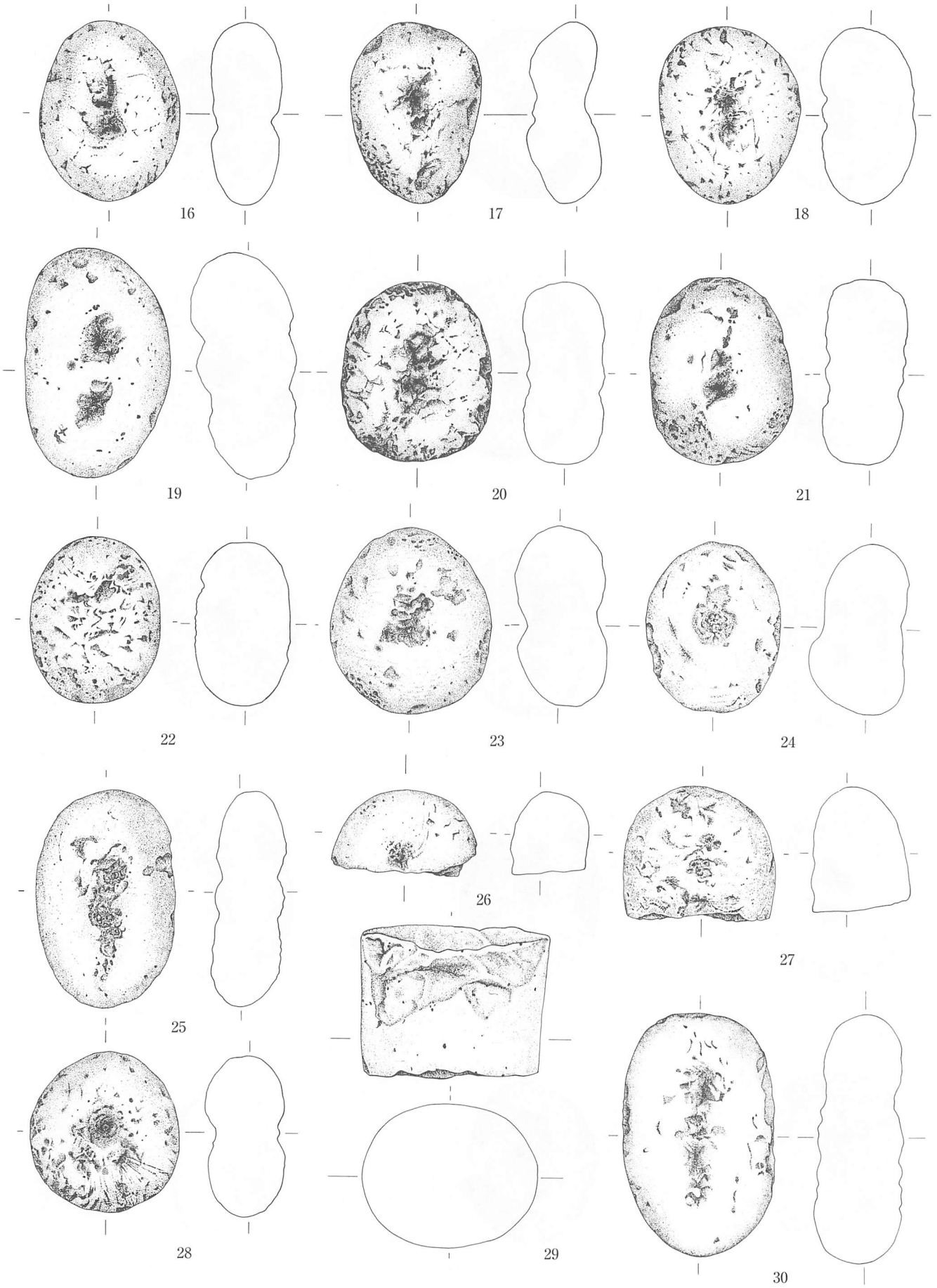
（表ー12）

石器NO	種別・場所	石　材	長さmm	つまみ部幅	錐部長さ	錐部幅	錐部厚さ	重さg	無欠損	欠損箇所	備　　考
230	石錐	粘板岩	103	32	14	9	6	19.1		錐部	
	A,B-6G										
231	石錐	黒曜石	52.5	18	20	7	5	6.07		錐部先端	
	A-18住										
232	石錐	黒曜石	37	17	13	7	4	5.65		錐部先端	
	C-09住										
233	石錐	黒曜石	31	15	7	8	6	3.56		錐部先端	
	A-33住	NO102									
234	石錐	黒曜石	27	20	5	12	6	4.62		錐部	
	C-28住	ピット4									
235	石錐	黒曜石	26	19	11	6	4	2.8		錐部	
	A-01住	NO2									
236	石錐	黒曜石	22	17	7	6	5	2.18		錐部	
	A,D-8G										
237	石錐	黒曜石	17	14	7	6	4	0.73		錐部	
	A-29住	NO242									
238	石錐	チャート	28	13	11	5	3	1.82	○		
	C-15住										
239	石錐	黒曜石	23	11	10	3	3	0.86	○		
	A-29住	NO217									
240	石錐	黒曜石	28	11	19	4	4	0.59	○		
	C-28住	NO42									
241	石錐	黒曜石	36	9	25	5	4	0.83	○		
	C-34住	NO17									
242	石錐	黒曜石	39	7	12	3	4	1.38	○		石錐かどうか
	C区　表採										疑問有り
243	石錐	黒曜石	38	11	19	4	4	1.8	○		
	A-29住										
244	石錐	安山岩	40	11	15	6	4	1.68	○		石錐のつまみ
	A-29住										部は不定形
245	石錐	黒曜石	37	10	19	5	4	1.46	○		
	C区　表採										
246	石錐	頁岩	45	26	13	7	5	8.75	○		
	A区	3トレンチ									
247	石錐	黒曜石	32	24	11	5	3	2.21	○		50と類似する
	A-01住										
248	石錐	黒曜石	30	24	12	6	4	3.02	○		50と類似する
	A-01住	NO35									
249	石錐	黒曜石	24	28	9	7	7	3.67	○		50と類似する
	C-45住										
250	石錐	チャート	31	27	12	5	3	4.86		錐部先端	50と類似する
	A-10土										
251	石錐	黒曜石	32	18	9	6	6	4.29	○		
	A,B-20G										
252	石錐	チャート	30	20	13	11	7	4.68	○		
	A-10住	ピット1									

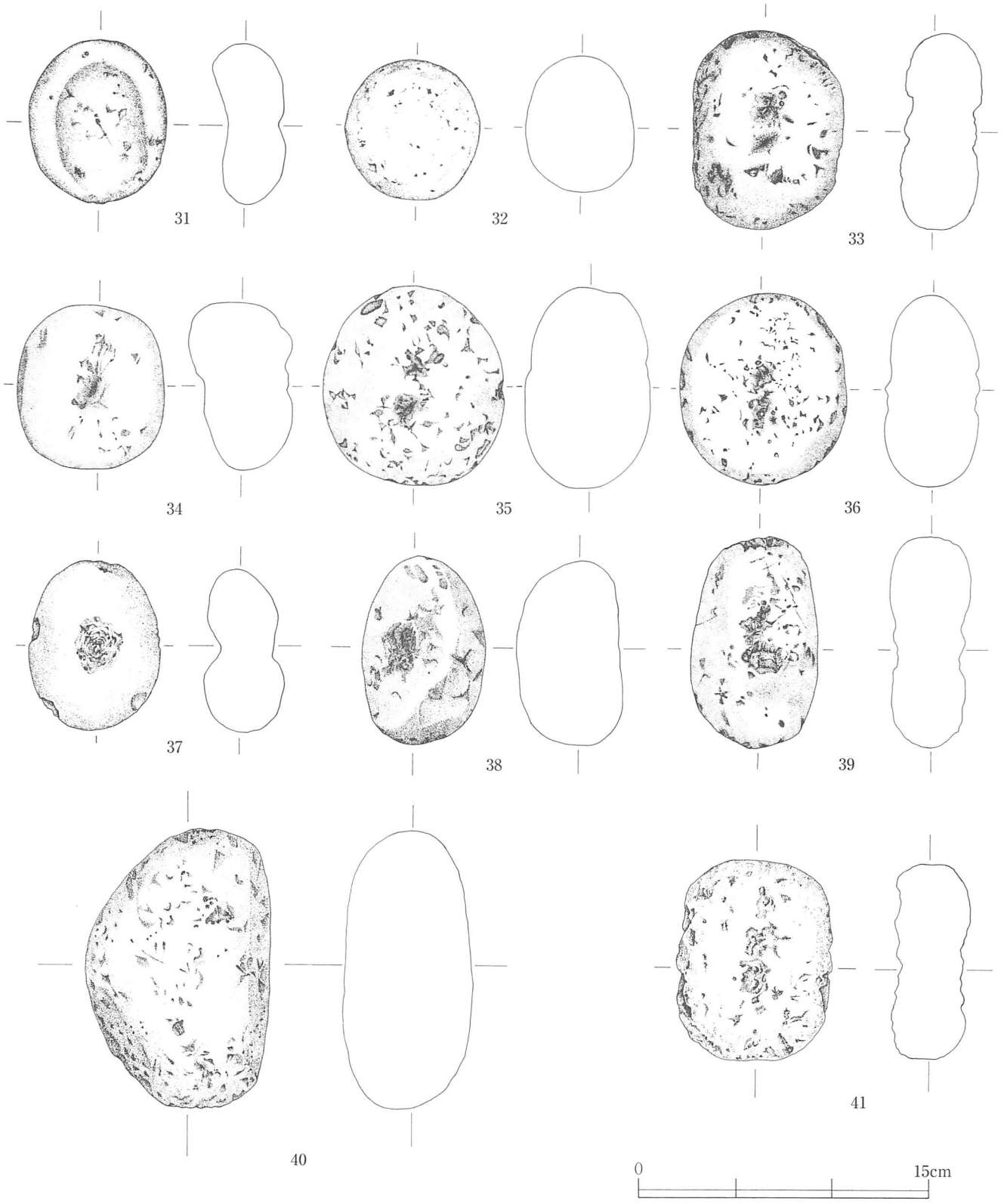


第30図　凹石・磨石（1/3）

0　15cm



第31図　凹石・磨石・石棒（1/3）



第32図　凹石・磨石・小型石皿(1/3)

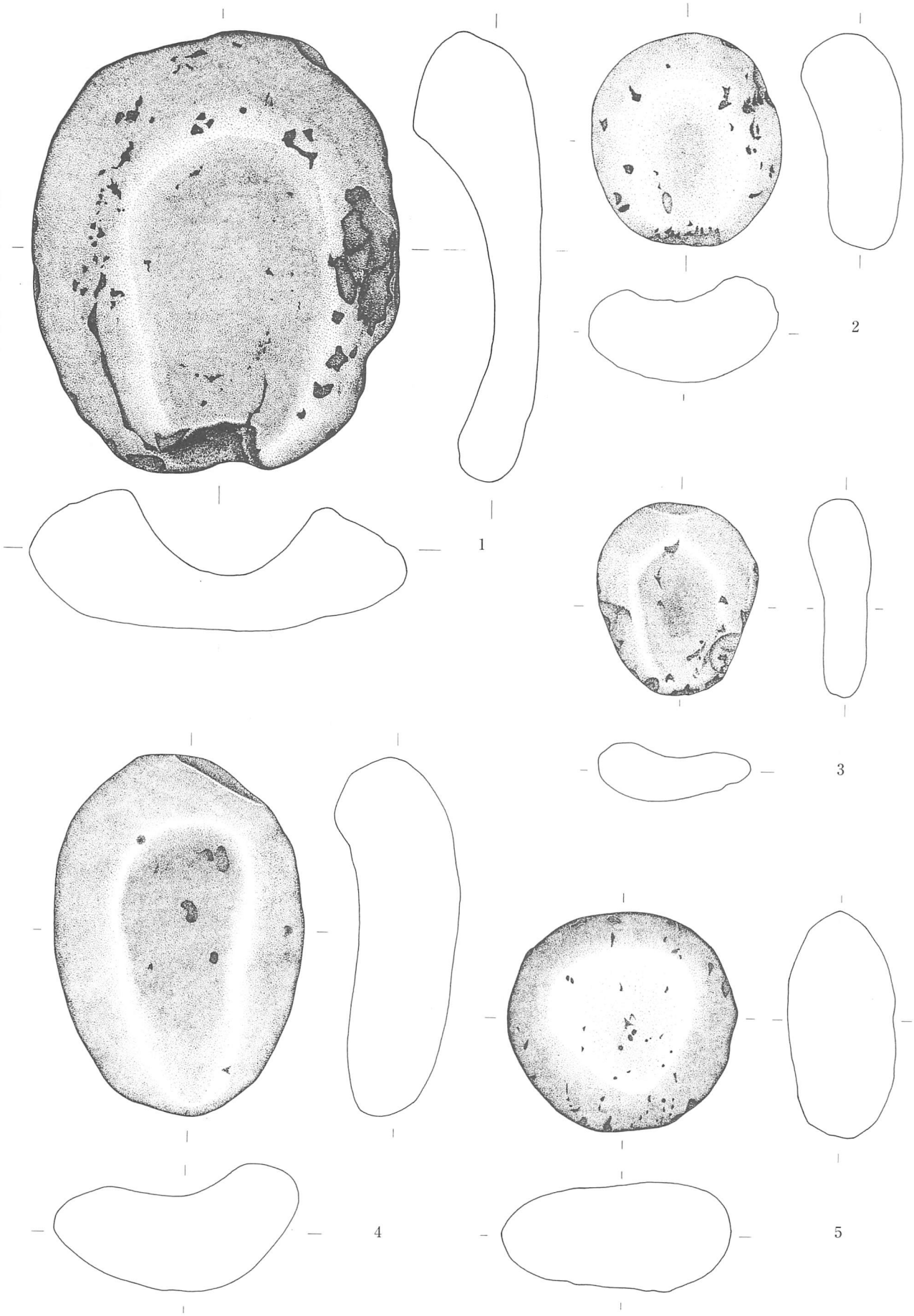
凹 石 の 計 測 表

(表ー13)

石器NO	種別・場所	位　置	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	無欠損	欠損箇所
1	凹石		88	71	42	366	○	
	C-06住	NO126						
2	凹石		95	77	43	437	○	
	C-08住	NO77						
3	凹石		79	68	31	252	○	
	C-09住	ピット5						
4	磨石		91	83	67	699		
	C-09住	NO302						
5	凹石		104	88	41	452	○	
	C-09住	NO494						
6	凹石		96	88	44	443	○	
	C-09住	ピット3						
7	凹石・磨石		103	68	47	529	○	
	C-10住	NO187						
8	凹石		96	73	34	342	○	
	C-12住							
9	凹石		96	81	45	510	○	
	C-13住	NO174						
10	凹石		103	74	44	412	○	
	C-16住	ピット18						
11	凹石		95	77	52	424	○	
	C-19住	NO62						
12	凹石		101	78	42	507	○	
	C-22住	NO9						
13	凹石		93	75	42	459	○	
	C-24住	NO366						
14	凹石		91	72	50	395	○	
	C-24住	NO390						
15	磨石		90	61	46	390		側縁部
	C-27住	ピット6						
16	凹石		101	78	37	417	○	
	C-36住	NO448						
17	凹石		101	74	40	373	○	
	C-37住	NO44						
18	凹石		99	79	52	494	○	
	C-37住	炉NO1						
19	凹石		127	82	53	682	○	
	C-8土	NO1						
20	凹石		100	84	44	599	○	
	C-27土							
21	凹石		103	80	45	627	○	
	C-55土	NO2						
22	磨石		93	73	53	516	○	
	C-102土							
23	凹石		104	90	50	676	○	
	C-120土							

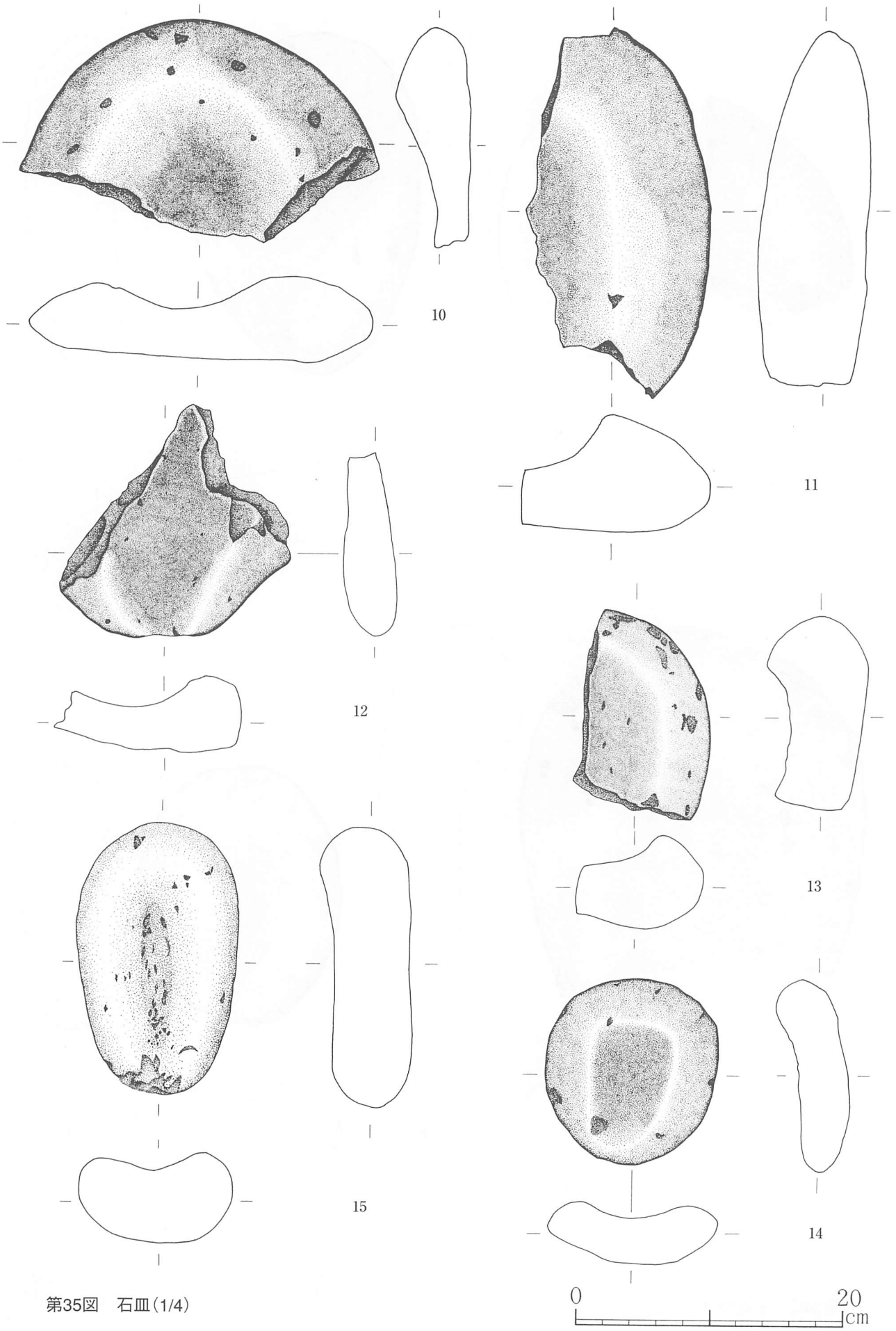
（表ー14）

石器NO	種別・場所	位　置	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	無欠損	欠損箇所
24	凹石		94	75	53	573	○	側縁部
	C-121土							
25	凹石		122	78	38	507	○	
	C-138土	NO2						
26	凹石		47	81	42	211		半分欠損
	C-151土	NO4						
27	凹石		72	85	53	531		約半分欠損
	C-162土	NO71						
28	凹石		89	83	42	452	○	
	C-22住							
29	凹石		136	84	48	846	○	
	C, 表採							
30	石棒		86	105	82	1,535		欠損
	C-14土	NO1						
31	小型石皿		84	72	34	277	○	
	A-01住	NO2011			26			
32	磨石		73	70	57	424	○	
	A-20住	NO2						
33	凹石		102	78	39	503	○	
	A-33住	NO1075						
34	凹石		84	77	54	503	○	
	A-7土	NO39						
35	磨石		102	93	65	780	○	
	A-85土	NO2						
36	凹石		99	85	48	566	○	
	A-104土	NO6						
37	凹石		87	70	41	306	○	
	A-158土	NO1						
38	凹石・磨石		97	64	54	422	○	
	甲B区1住	NO882						
39	凹石		109	65	40	449	○	
	甲B区1住	NO1181						
40	磨石		145	96	67	1,322	○	
	B, 表採							
41	凹石		104	80	39	511	○	側縁部
	表採							

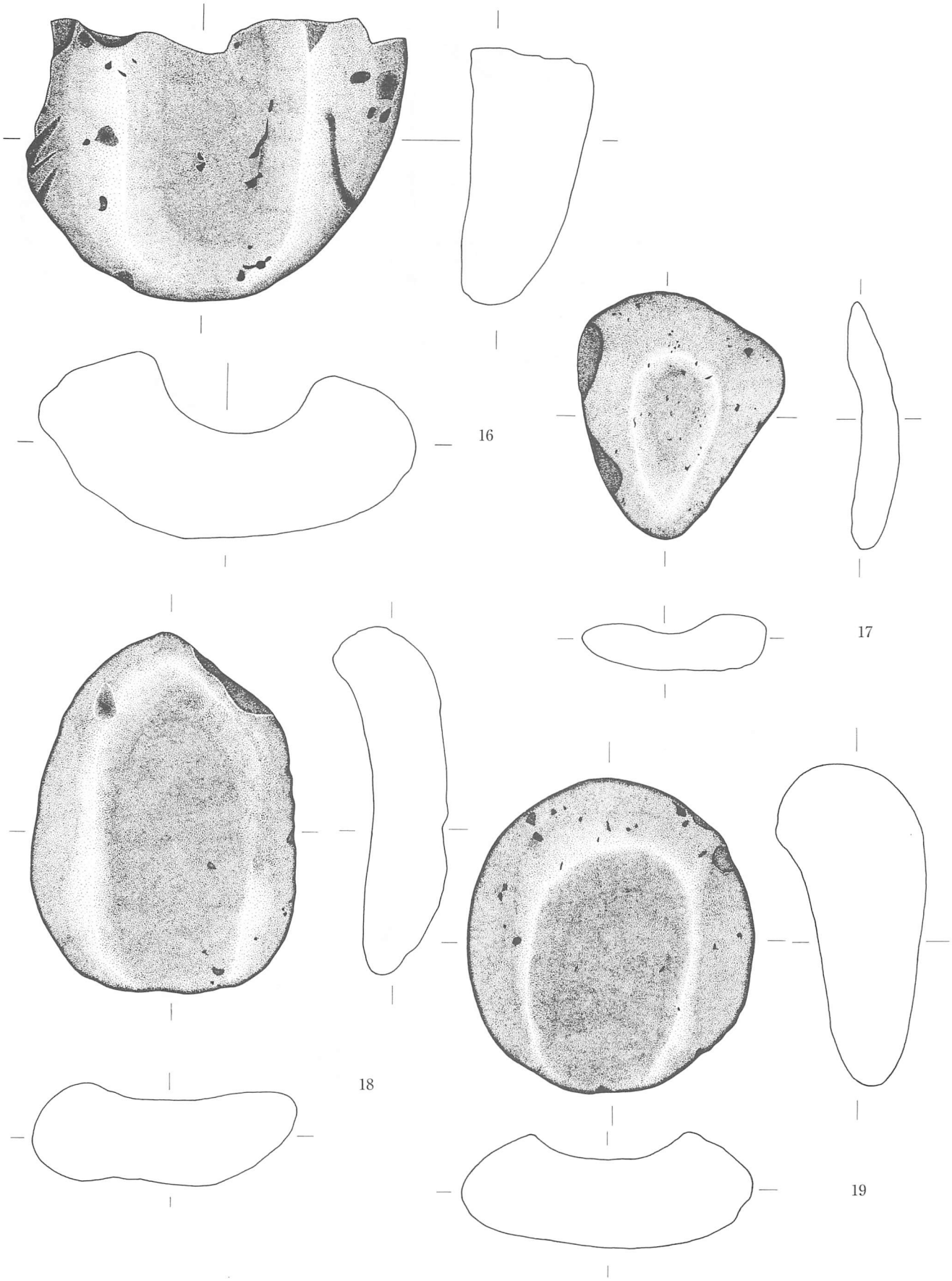


第33図　石皿(1/4)

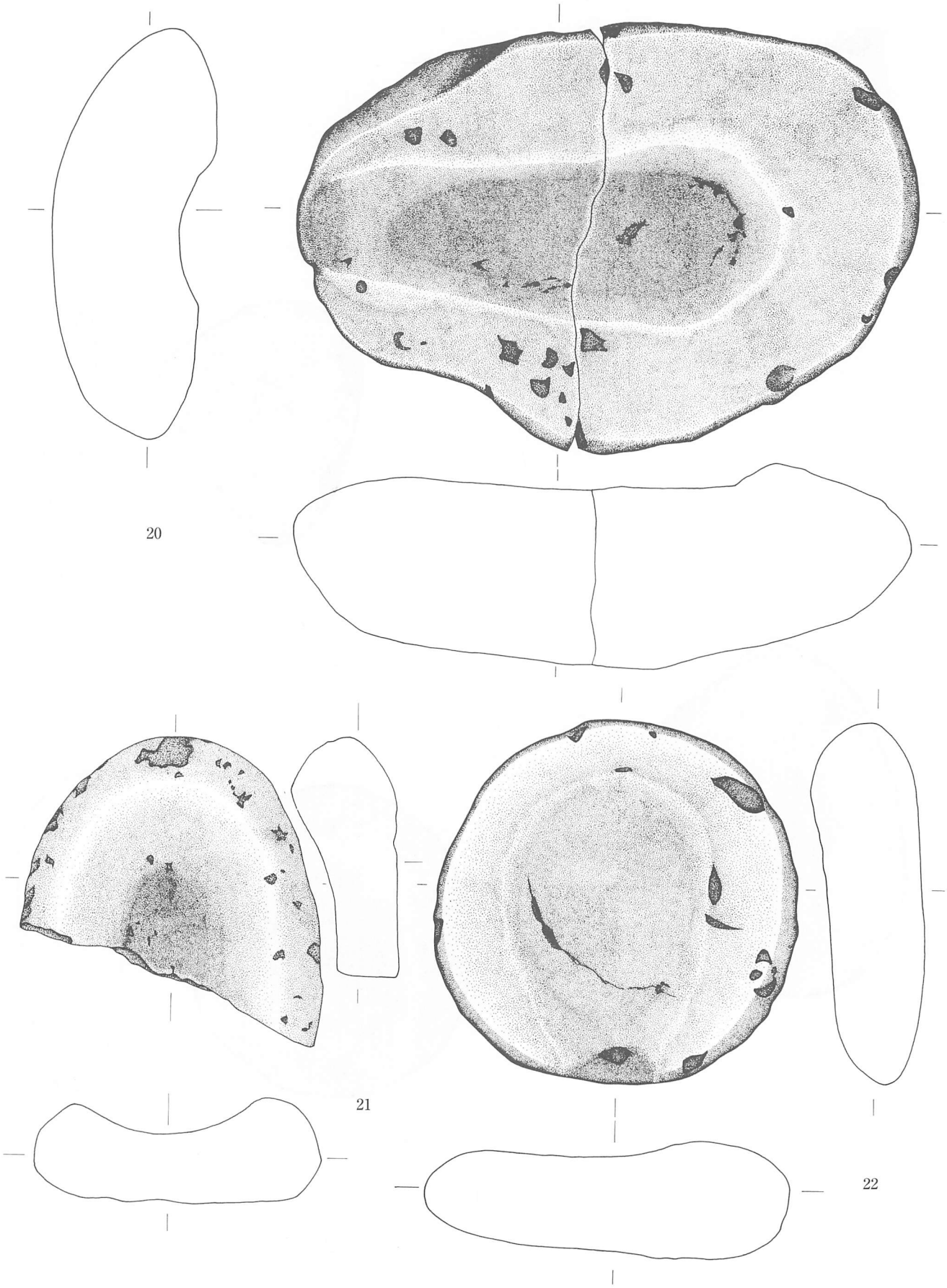
第34図　石皿(1/4)



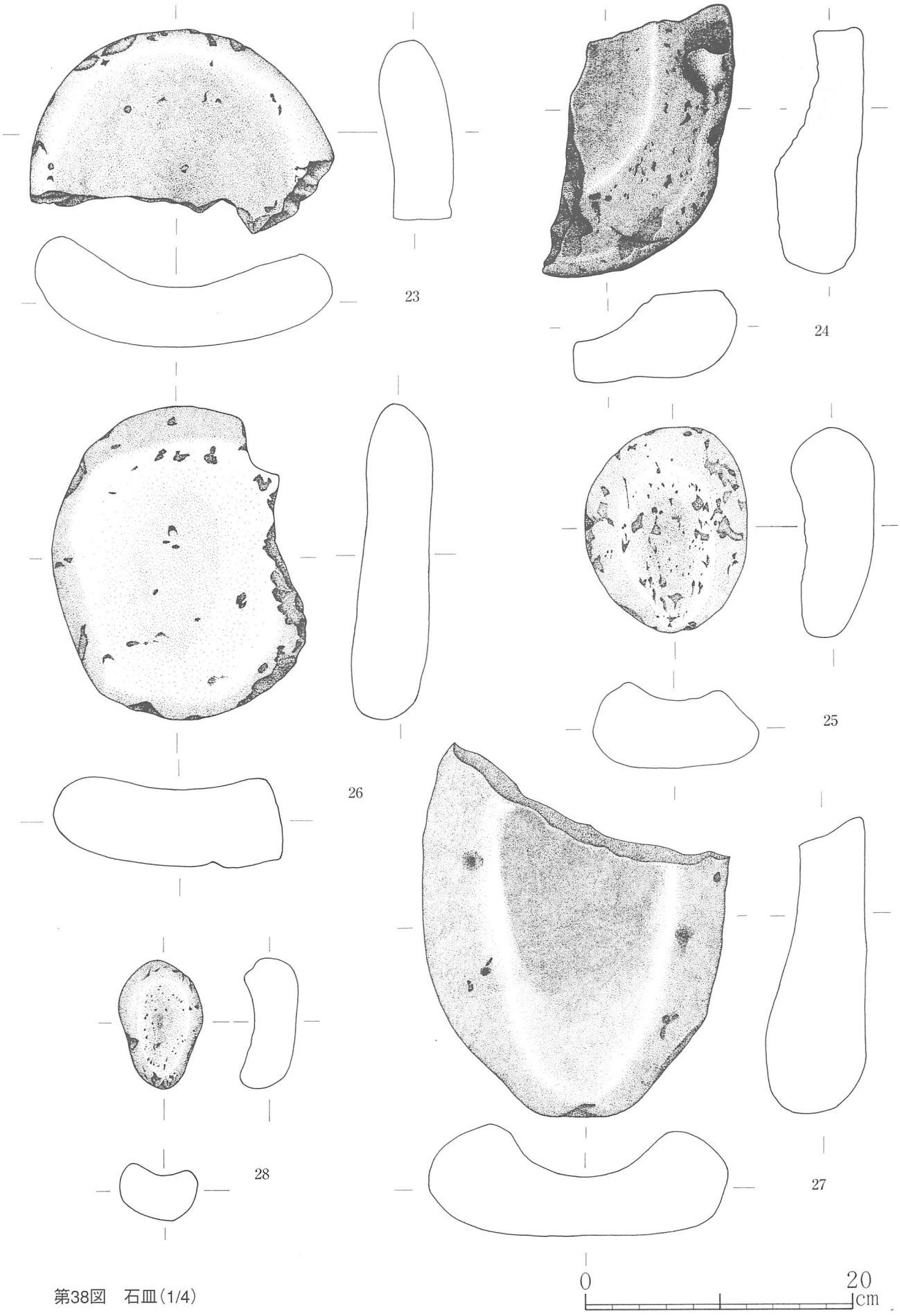
第35図　石皿(1/4)



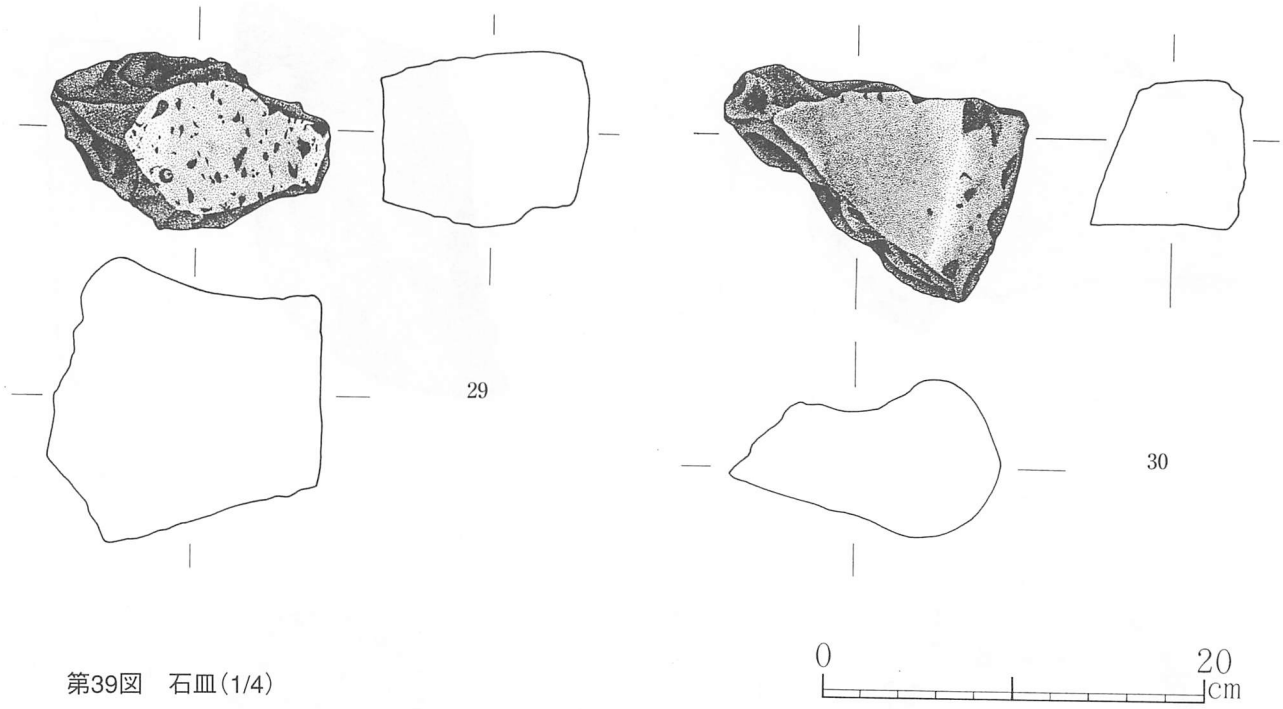
第36図　石皿(1/4)



第37図　石皿(1/4)



第38図　石皿(1/4)



第39図　石皿(1/4)

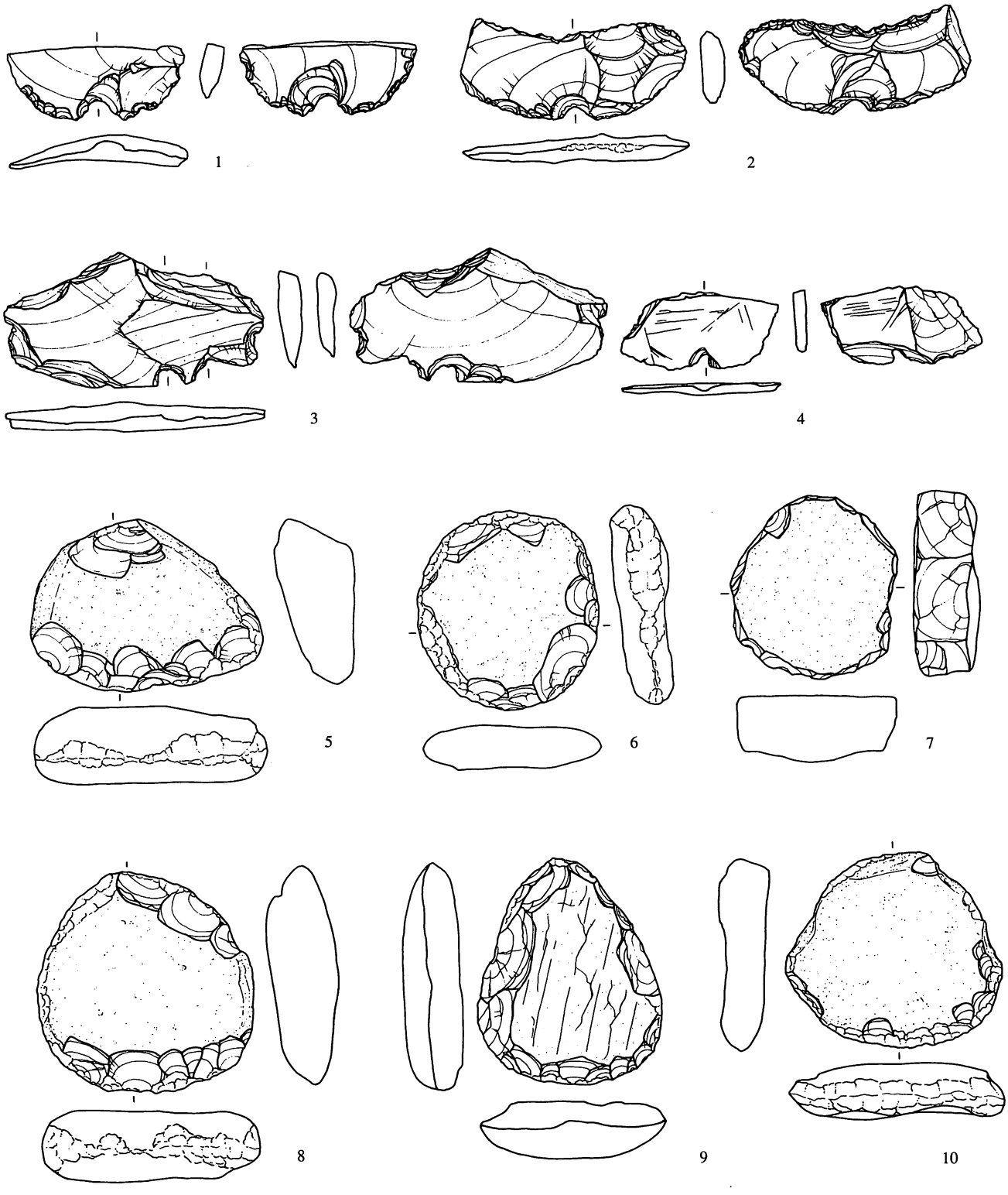
石 皿 の 計 測 表

(表ー21)(第33～39図)

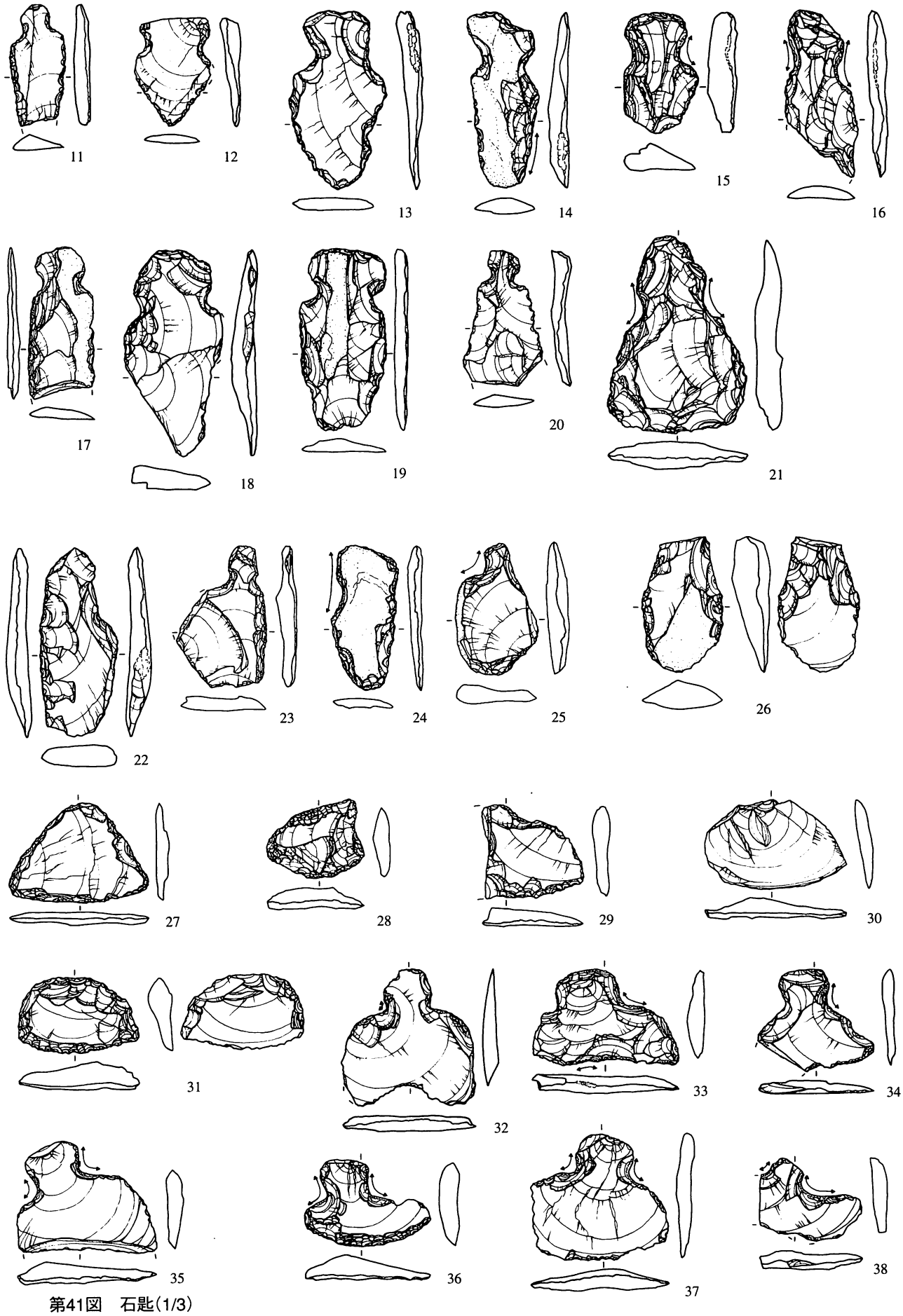
石器NO	種別・場所	長さ mm	幅 mm	皿部長さ mm	皿部幅 mm	皿部深さ mm	厚さ mm	重さ g	備　考
1	石皿	318	271	226	147	96	103	10,500	炉石として
	C-03住								使用される
2	石皿	153	139	118	78	14	77	1,900	無欠損
	C-09住　393								
3	石皿	139	110	111	61	8	42	600	無欠損
	C-09住　405								
4	石皿	260	183	213	97	17	93	5,300	一部欠損する
	C-12住　46								
5	石皿	161	166	/	/	/	80	2,600	皿部は平坦で
	C-21住　413								無欠損
6	石皿	146	141	84	110	19	67	2,000	3/4欠損する
	C-24住　459								
7	石皿	254	173	157	104	4	70	4,000	無欠損
	C-29住　39								
8	石皿	190	153	146	86	17	64	2,500	無欠損
	C-26住　728								
9	石皿	275	263	160	138	45	112	10,000	1/2以上残存する
	C-36住　410								
10	石皿	167	269	113	130	23	65	3,100	1/2以上欠損する
	C-43住　S-2								
11	石皿	275	138	195	65	41	86	4,000	1/2以上欠損する
	C-45住S-17								
12	石皿	170	174	/	96	23	55	1,500	2/3欠損する
	C-45住S-18		/						
13	石皿	157	90	108	56	19	70	1,600	3/4欠損する
	C-48住								

（表ー22）

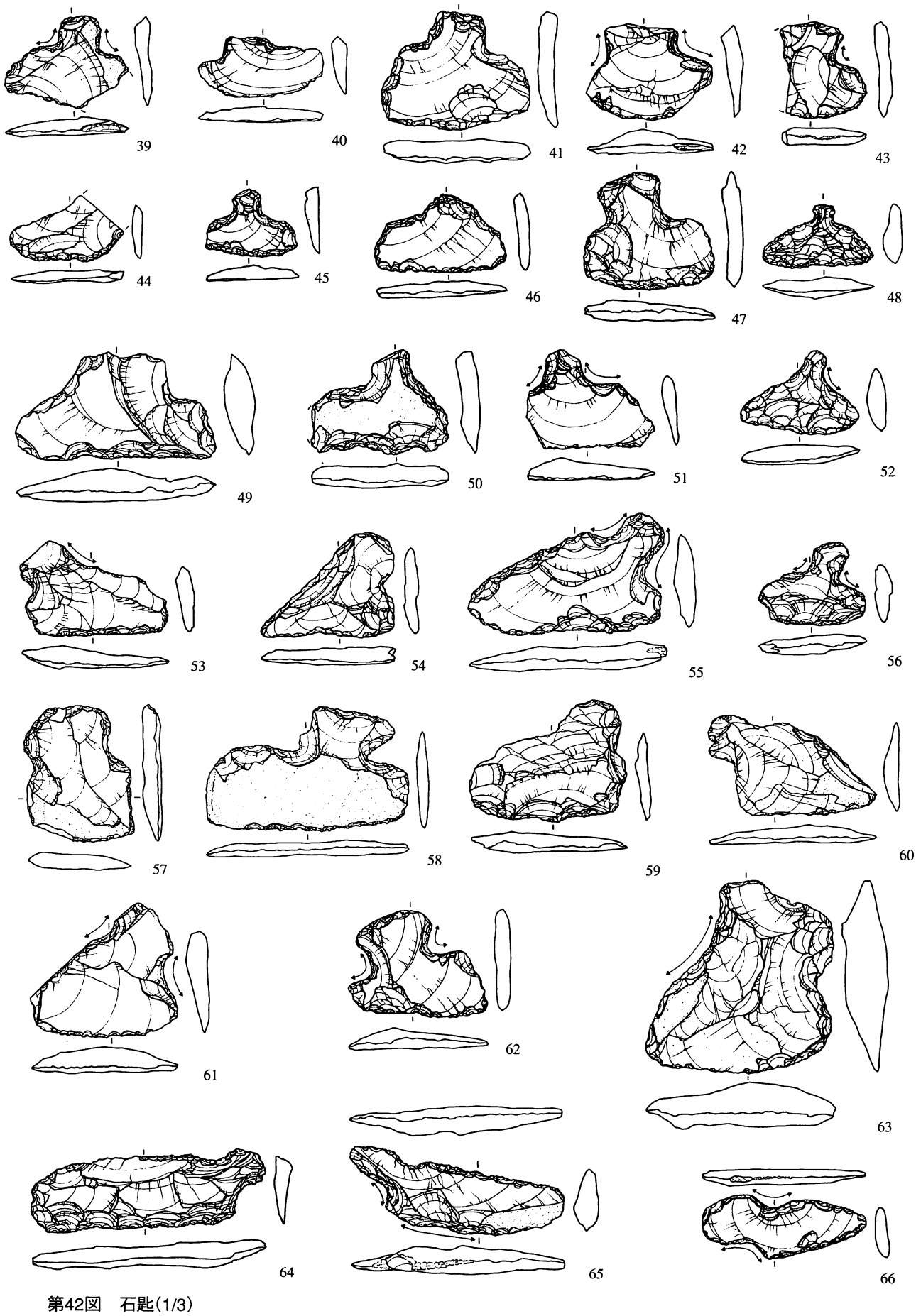
石器NO	種別・場所	長さ mm	幅 mm	皿部長さ mm	皿部幅 mm	皿部深さ mm	厚さ mm	重さ g	備　　考
14	石皿	139	127	92	62	11	44	1,000	無欠損
	C-45住　pit9								
15	石皿	202	117	173	76	11	67	2,100	一部欠損する
	C-73土								
16	石皿	205	253	168	132	51	133	7,600	1/2欠損する
	C-55土								
17	石皿	176	150	128	66	11	40	1,000	無欠損
	C,Z-35G-1								
18	石皿	255	190	232	121	10	67	4,600	一部欠損する
	C-127土								
19	石皿	228	207	176	117	19	79	5,600	無欠損
	C-202土								
20	石皿	451	370	352	123	20	119	20,500	土坑内で接合する
	C-220土								
21	石皿	223	219	137	154	24	128	3,500	1/2欠損する
	A-12住								
22	石皿	261	265	174	149	9	85	8,400	無欠損
	A-10住　238								
23	石皿	153	234	117	191	32	71	2,700	1/2欠損する
	A-13住13								
24	石皿	204	111	180	60	34	69	2,500	3/4欠損する
	A-13住　S-4								
25	石皿	153	121	121	65	11	58	1,500	無欠損
	A-21住								
26	石皿	237	173	191	118	9	68	3,700	一部欠損する
	A-33住　pit12								
27	石皿	285	228	207	137	39	81	6,500	一部欠損する
	A-33住　周溝								
28	石皿	96	63	73	40	6	48	100	無欠損
	A，B－10G								
29	石皿	/	/	/	/	/	147	1,700	一部のみ残存する
	A-116土								
30	石皿	/	/	/	70	17	82	1,500	一部のみ残存する
	A-198土								



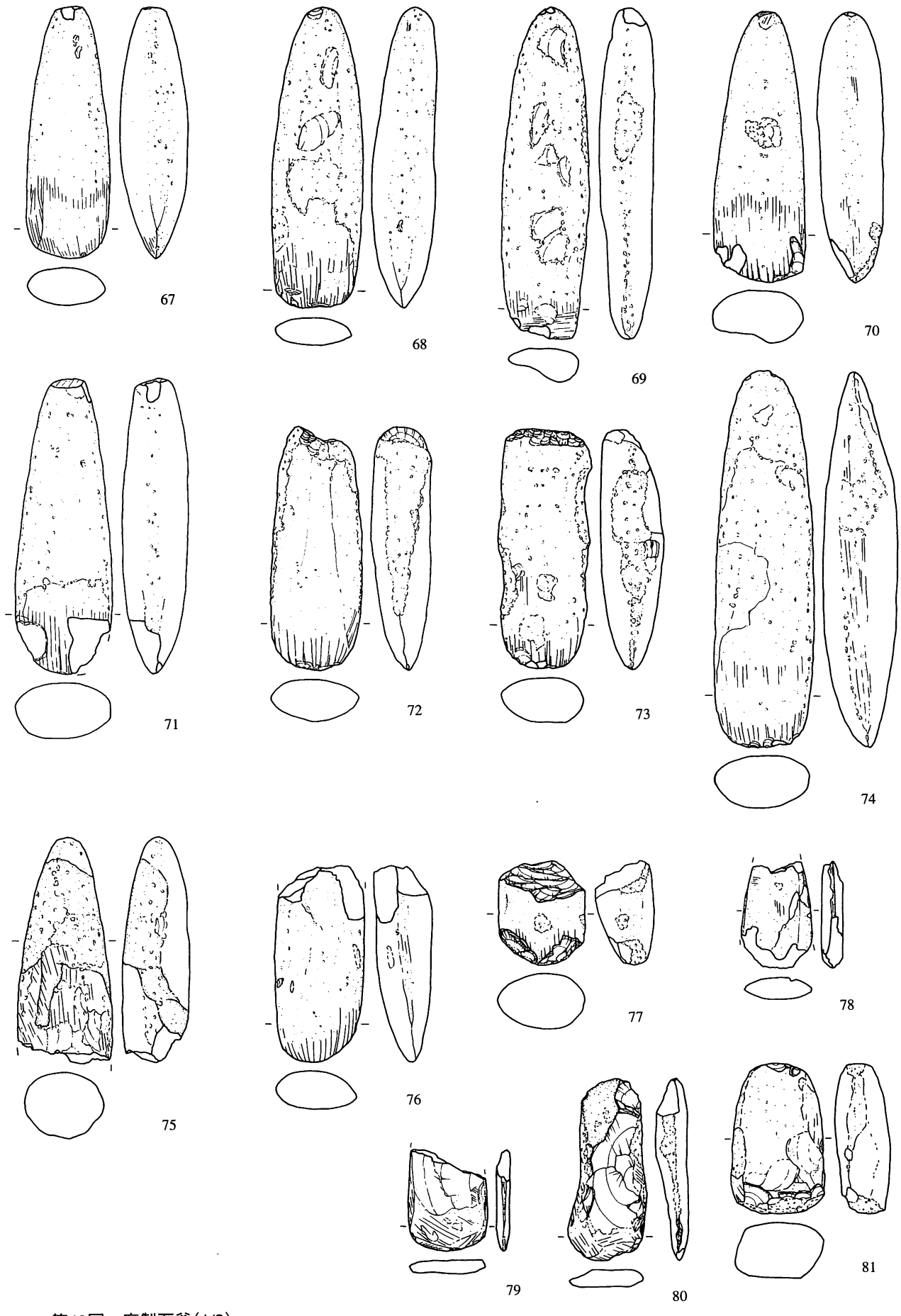
第40図　石器(1/2)


11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38

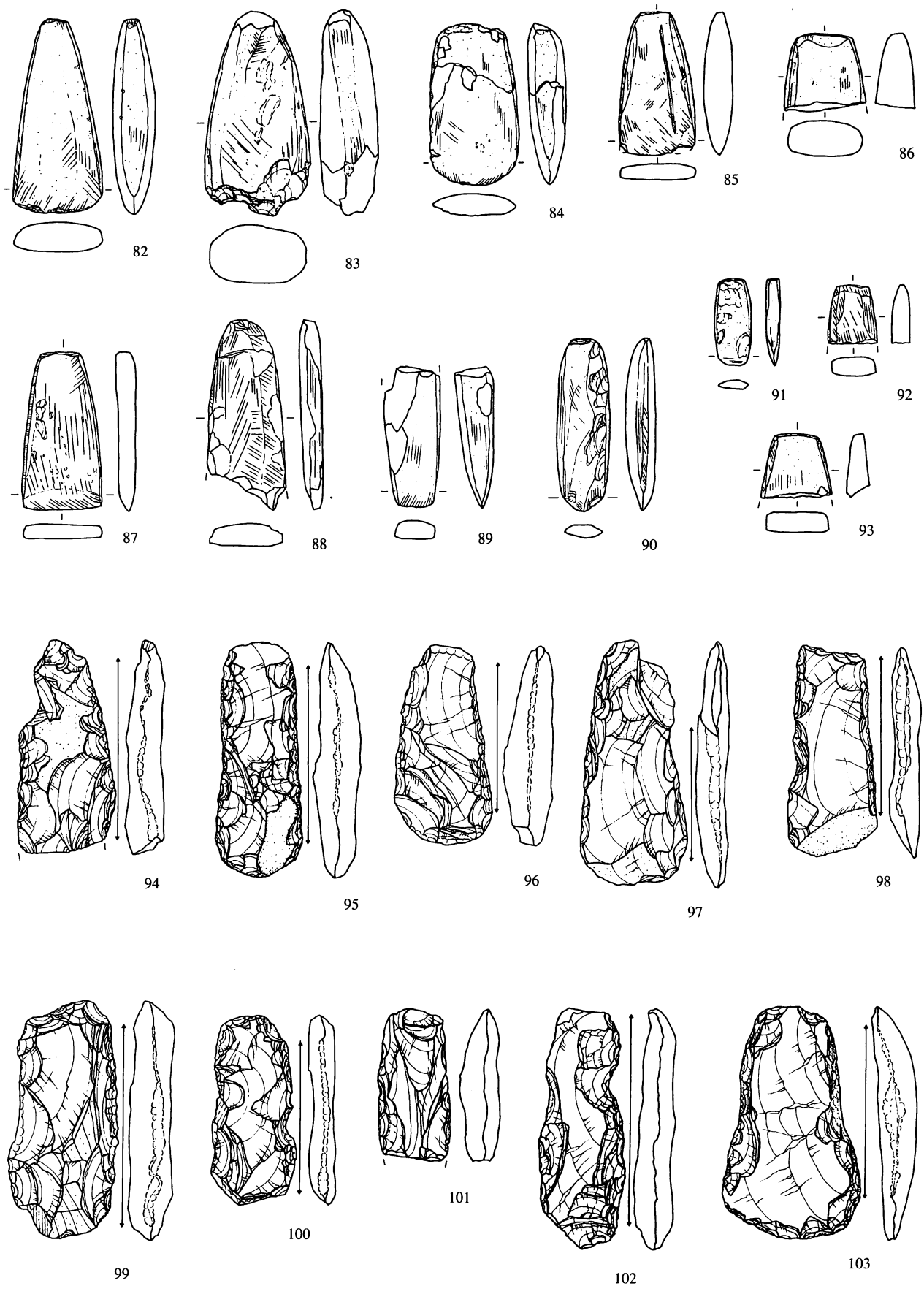
第41図　石匙(1/3)


39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66

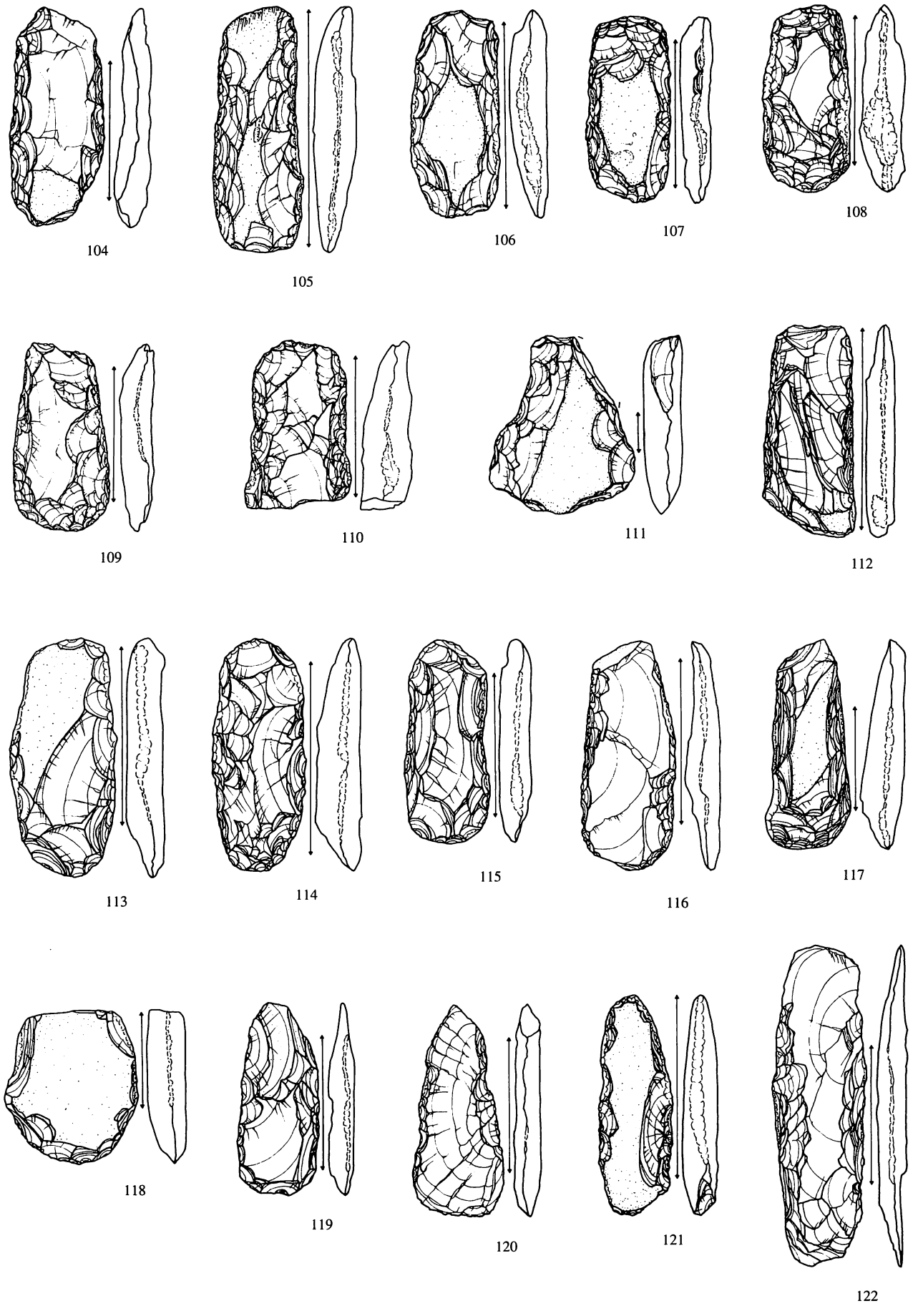
第42図　石匙(1/3)



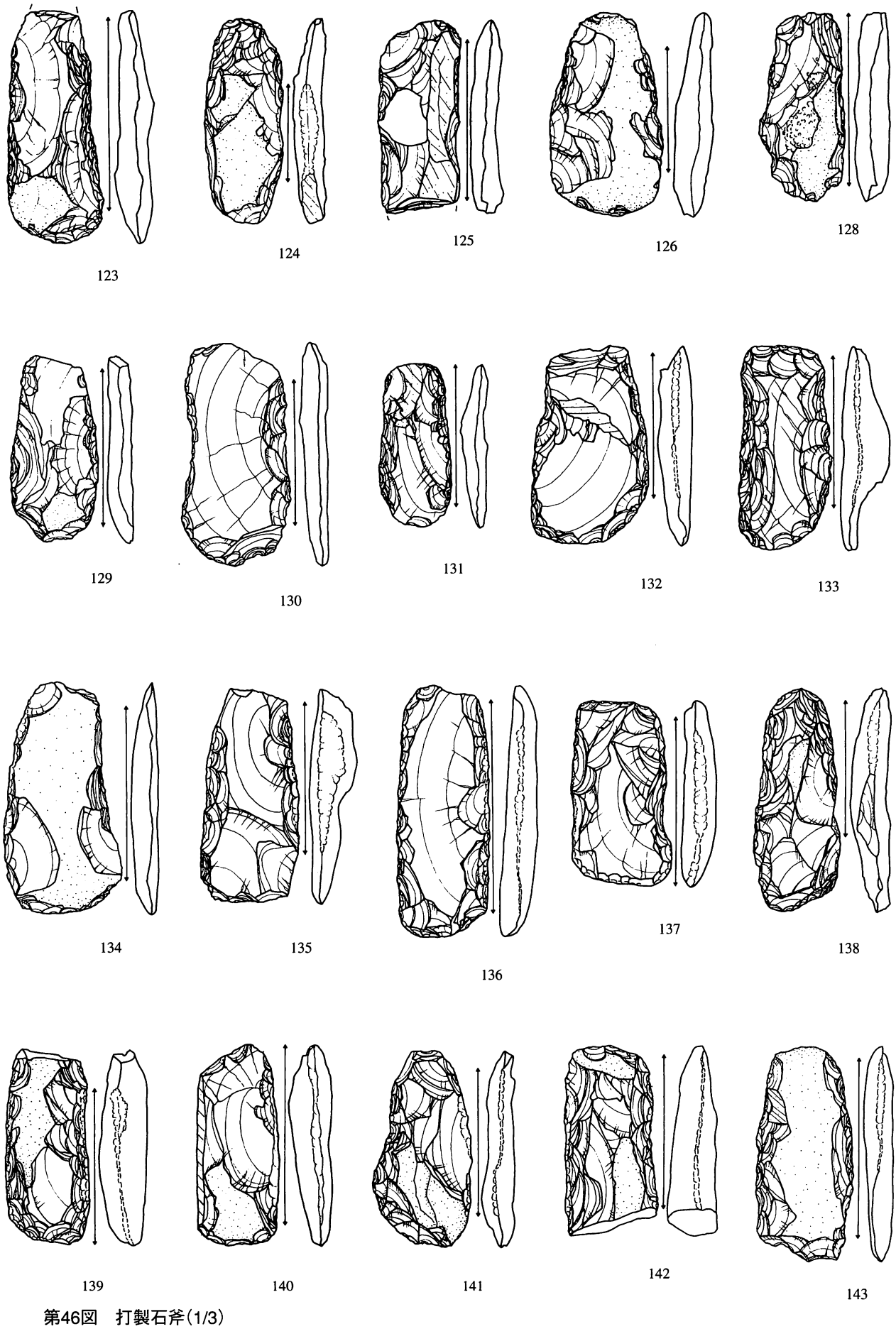
第43図　磨製石斧(1/3)



第44図　定角式磨製石斧・打製石斧(1/3)

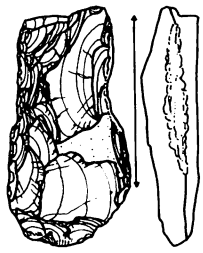

104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122

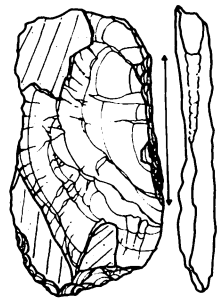
第45図　打製石斧(1/3)

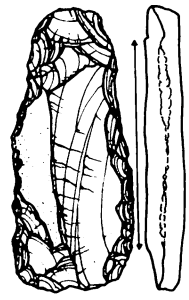

123
124
125
126
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143

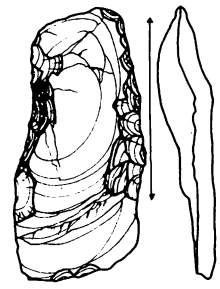
第46図　打製石斧(1/3)

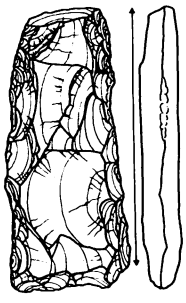
144

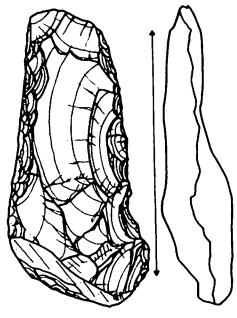

145

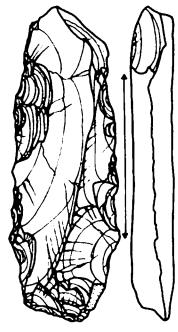

146

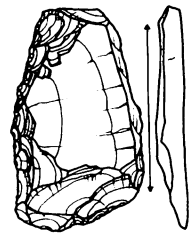

147

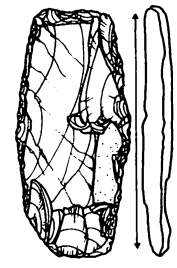

148

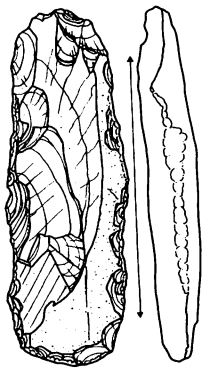

149

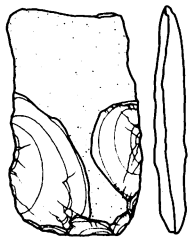

150

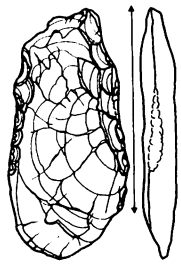

151

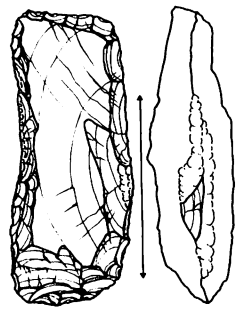

152

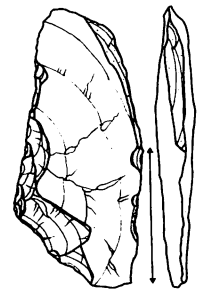

153


154

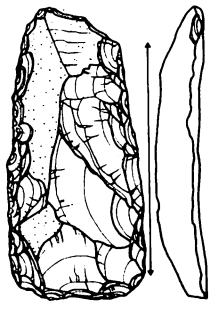

155


156

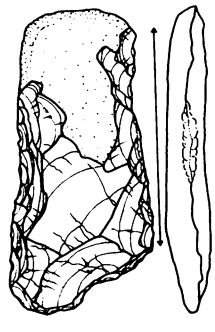

157

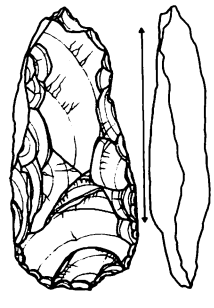

158

159

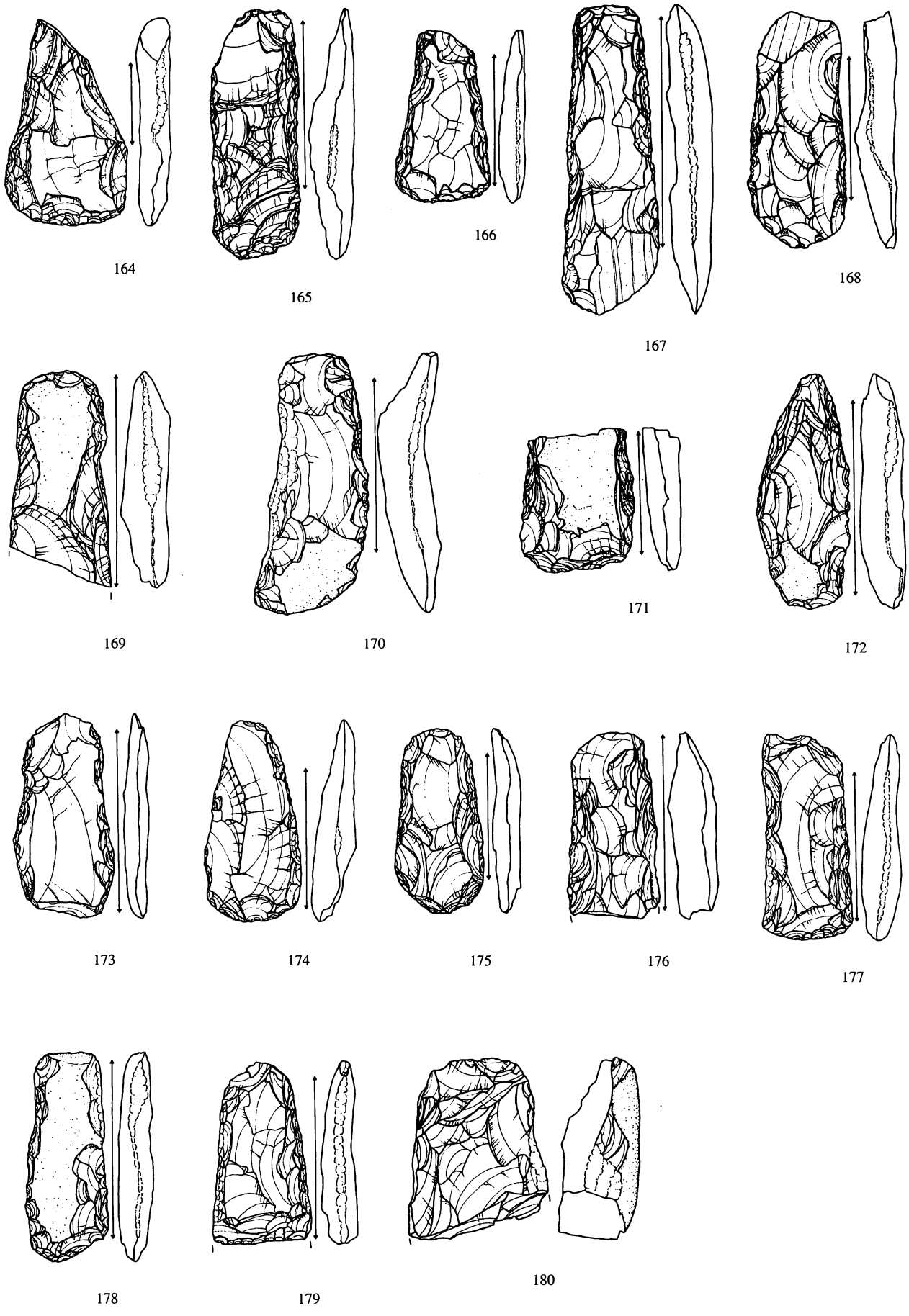

160

161

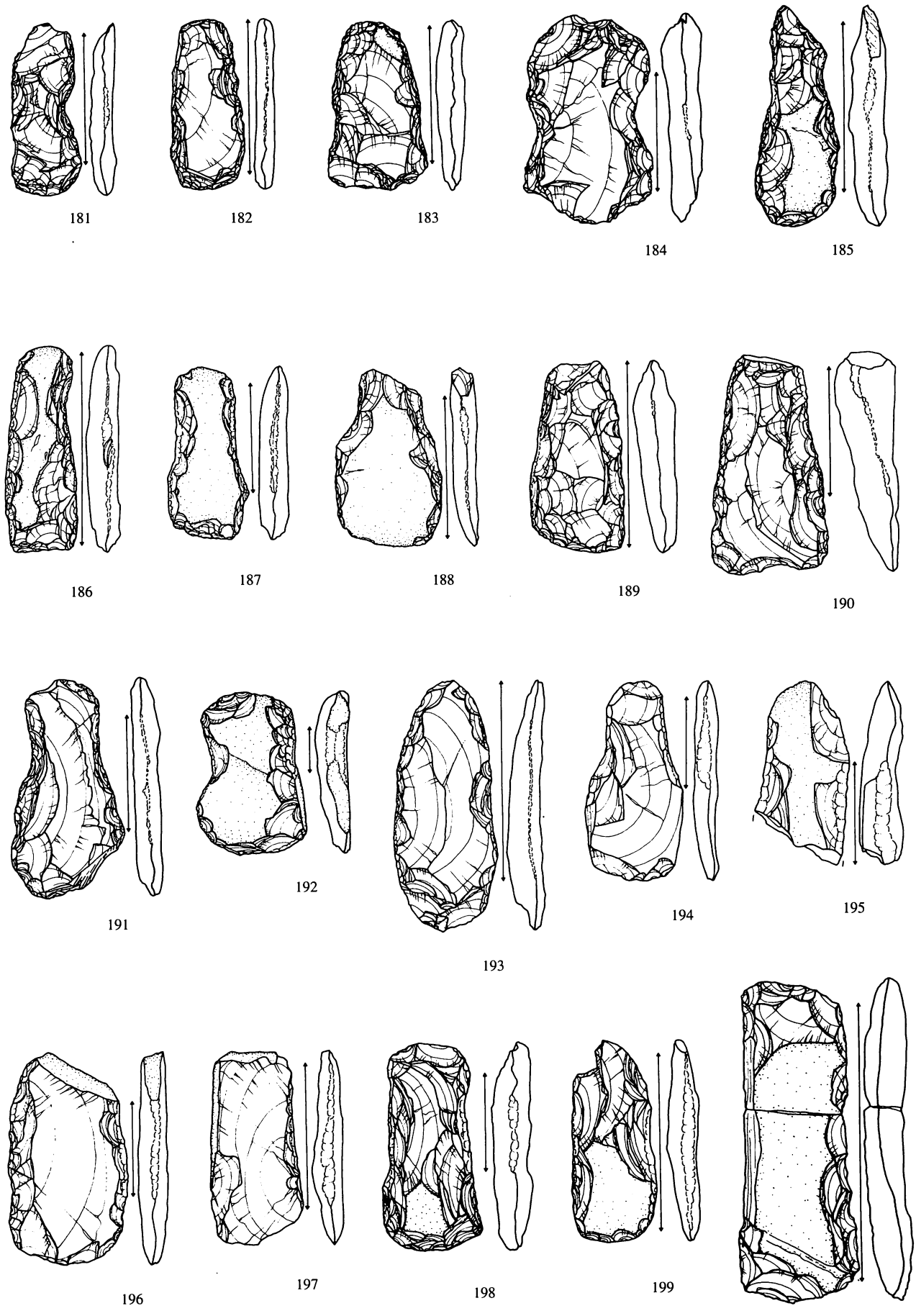

162


163

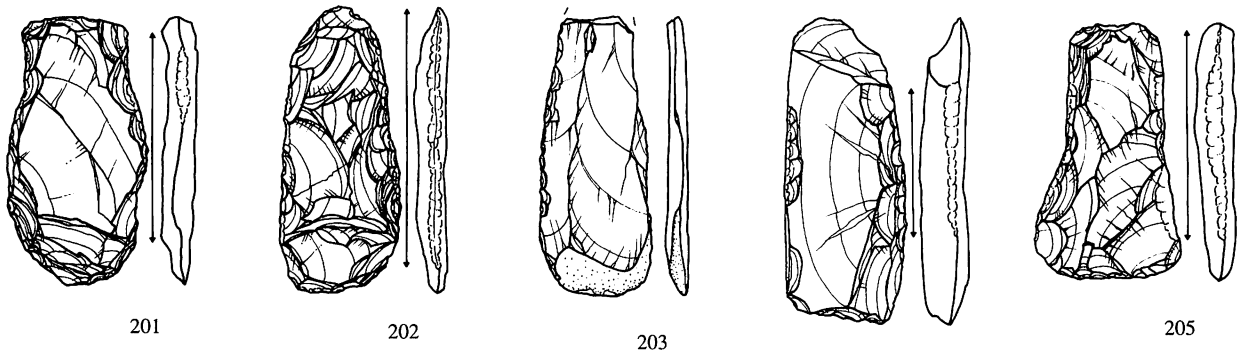
第47図　打製石斧(1/3)


164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180

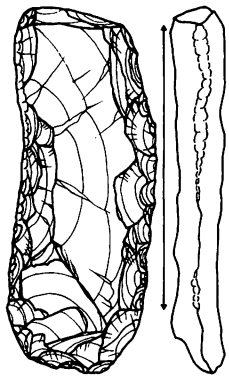
第48図　打製石斧(1/3)


181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200

第49図　打製石斧(1/3)



201　202　203　204　205



206

第50図　打製石斧(1/3)

石器・石匙・磨製石斧・定角式磨製石斧・打製石斧の計測表（表ー23）（第40ー50図）

石器NO	種別・場所	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備　　考
1	抉入り石器	19	60	7	15	
	C－24住172					
2	抉入り石器	25	78	8	26	
3	抉入り石器	34	89	8	37	
		28		6		
4	抉入り石器	22	54	4	7	
5	円盤状石器	58	79	27	160	
	A－27住					
6	円盤状石器	68	62	19	95	
	C－21住					
7	円盤状石器	64	55	23	120	
	A, C－6G					
8	円盤状石器	75	74	23	160	
	C－153土9					
9	円盤状石器	78	64	20	67	
	A, B－8G黒					
10	円盤状石器	65	73	19	102	
	C－175土3					
11	石匙	68	30	9	16	
	C－45住30					
12	石匙	61	32	10	23	
	C－195土					

石器NO	種別・場所	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備　　考
13	石匙	100	46	11	49	
	A, C－10G					
14	石匙	98	34	11	40	
	C－14住					
15	石匙	69	40	16	45	
	A, A－5G					
16	石匙	94	33	11	34	
	C－10住123					
17	石匙	86	37	8	20	
	B－1住479					
18	石匙	116	55	13	70	
	C, A－37G					
19	石匙	102	47	7	42	
	C, Y－40G					
20	石匙	76	45	10	18	
21	石匙	107	78	15	96	
	C－28住392					
22	石匙	105	43	12	58	
23	石匙	79	48	12	33	
	A－37住118					
24	石匙	82	35	8	25	
	A－35住23					
25	石匙	76	45	12	41	
	A, B－9G					
26	石匙	76	44	21	58	
	C－21住30					
27	石匙	56	78	8	30	
	C－55土					
28	石匙	39	53	9	24	
	C－156土3					
29	石匙	50	57	10	27	
30	石匙	51	79	8	30	
	A－192土					
31	石匙	40	69	14	38	
	B, B－22G					
32	石匙	76	76	8	42	
	C, Z－37G					
33	石匙	49	80	10	39	
	C－304土20					
34	石匙	55	64	7	21	
	C, A－20G					
35	石匙	46	79	9	50	
	C, Z－36G					
36	石匙	47	70	11	33	
	C, A－18G					
37	石匙	71	77	8	56	
	A－31住210					

石器NO	種別・場所	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備　　考
38	石匙	43	57	8	22	
	A－18住					
39	石匙	52	69	8	23	
	C－237土					
40	石匙	33	70	9	18	
	C－138土					
41	石匙	65	83	10	57	
	C－20住					
42	石匙	53	69	9	36	
	A－20住					
43	石匙	53	47	8	27	
	C－30住1					
44	石匙	30	62	5	13	
	A－33住565					
45	石匙	38	51	8	11	
	C－45住16					
46	石匙	43	73	7	24	
47	石匙	64	72	9	47	
	C－36住249					
48	石匙	34	60	11	17	
	C－20住11					
49	石匙	57	111	17	95	
	A, 2099					
50	石匙	57	76	11	52	
	C－13住121					
51	石匙	40	71	8	28	
	A, D－9G					
52	石匙	35	65	10	24	
53	石匙	36	81	9	34	
	C－50住3					
54	石匙	48	73	8	38	
55	石匙	52	110	12	84	
	C－9住4					
56	石匙	33	59	9	21	
	C－26住407					
57	石匙	75	57	10	50	
	C, 3トレ					
58	石匙	53	112	6	60	
	C－38土					
59	石匙	49	88	7	47	
	A－1住861					
60	石匙	49	93	8	41	
	C－251土					
61	石匙	57	82	12	63	
	C－20住					
62	石匙	57	78	9	43	
	C－24住156					

石器NO	種別・場所	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備　　考
63	石匙	106	106	23	242	
	C－26住445					
64	石匙	38	129	9	73	
	C－24住171					
65	石匙	35	119	14	62	
	C－9住458					
66	石匙	27	91		28	
	C－36住331					
67	磨製　石斧	138	43	38	361	
	C－58土					
68	磨製　石斧	166	42	35	459	
	A－39住63					
69	磨製　石斧	183	39	30	421	
	C－20住					
70	磨製　石斧	149	50	36	406	
	A－31住185					
71	磨製　石斧	161	53	37	465	
	A, D－11G63					
72	磨製　石斧	134	49	33	363	
	C－20住18					
73	磨製　石斧	131	55	35	381	
	C－36住74					
74	磨製　石斧	208	52	41	691	
75	磨製　石斧	125	53	38	348	
	C－6住55					
76	磨製　石斧	108	43	31	271	
77	磨製　石斧	58	49	32	137	
	A－35住222					
78	磨製　石斧	60	37	12	44	
79	磨製　石斧	57	43	8	29	
80	磨製　石斧	101	41	17	92	
	C－29住412					
81	磨製　石斧	83	48	29	233	
	A, B－10G3					
82	磨製　石斧	104	48	22	168	
	A, 河1025					
83	磨製　石斧	111	57	31	281	
	A－15土					
84	磨製　石斧	86	46	20	128	
	C－263土					
85	磨製　石斧	76	41	16	81	
86	磨製　石斧	43	44	21	65	
	A, A－24G55					
87	磨製　石斧	57	29	7	22	
	C－15住					

石器NO	種別・場所	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備　　考
88	磨製　石斧	69	28	8	25	
89	磨製　石斧	51	15	14	20	
	A－10住					
90	磨製　石斧	62	14	11	21	
91	磨製　石斧	31	11	5	4	
	C, A・B－9－13G					
92	磨製　石斧	21	18	6	4	
93	磨製　石斧	23	26	8	8	
	C－14住					
94	打製　石斧	115	51	21	136	
	B－1住877					
95	打製　石斧	127	47	25	171	
	B－1住879					
96	打製　石斧	107	52	27	162	
	B, デポ－1					
97	打製　石斧	132	57	17	131	
	デポ－2					
98	打製　石斧	112	48	16	109	
	デポ－4					
99	打製　石斧	128	57	24	212	
	デポ－5					
100	打製　石斧	101	45	14	87	
	デポ－6					
101	打製　石斧	81	39	21	84	
	デポ－7					
102	打製　石斧	130	46	20	139	
	B, A－13G					
103	打製　石斧	125	74	21	225	
	B, A－2G					
104	打製　石斧	119	53	19	137	
	C－2住					
105	打製　石斧	136	50	24	190	
	C－9住329					
106	打製　石斧	113	49	20	150	
	C－9住449					
107	打製　石斧	102	46	18	113	
	C－9住51					
108	打製　石斧	102	47	23	151	
	C－9住303					
109	打製　石斧	102	53	19	126	
	C－9住133					
110	打製　石斧	93	58	23	186	
	C－9住457					
111	打製　石斧	98	80	21	176	
	C－9住Pit6					
112	打製　石斧	117	49	16	122	
	C－9住402					

石器NO	種別・場所	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備　　考
113	打製　石斧	130	59	21	215	
	C－10住104					
114	打製　石斧	126	52	25	174	
	C－10住156					
115	打製　石斧	110	48	17	128	
	C－10住13					
116	打製　石斧	126	51	19	125	
	C－10住127					
117	打製　石斧	115	46	23	119	
	C－10住					
118	打製　石斧	84	75	21	184	
	C－10住119					
119	打製　石斧	105	44	15	85	
	C－10住120					
120	打製　石斧	117	50	15	97	
	C－12住Pit1					
121	打製　石斧	119	39	19	127	
	C－12住Pit1					
122	打製　石斧	177	51	17	166	
	C－12住39					
123	打製　石斧	128	53	20	159	
	C－12住Pit1					
124	打製　石斧	112	42	16	104	
	C－14住41					
125	打製　石斧	106	44	18	108	
	C－19住197					
126	打製　石斧	114	60	21	168	
	C－19住					
127	打製　石斧	106	47	19	121	
	C－19住炉4					
128	打製　石斧	103	45	14	83	
	C－21住					
129	打製　石斧	123	57	15	139	
	C－23住					
130	打製　石斧	91	40	19	52	
	C－24住504					
131	打製　石斧	109	64	19	163	
	C－26住					
132	打製　石斧	111	50	26	164	
	C－26住405					
133	打製　石斧	129	63	15	143	
	C－26住					
134	打製　石斧	118	54	22	184	
	C－26住81					
135	打製　石斧	137	53	19	193	
	C－26住389					
136	打製　石斧	103	55	18	163	
	C－26住炉1					
137	打製　石斧	123	48	21	129	
	C－26住937					

石器NO	種別・場所	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備　　考
138	打製　石斧	107	46	26	163	
	C－26住497					
139	打製　石斧	112	46	24	130	
	C－26住					
140	打製　石斧	109	55	18	106	
	C－26住					
141	打製　石斧	105	51	27	182	
	C－26住					
142	打製　石斧	118	49	16	138	
	C－27住2					
143	打製　石斧	154	60	26	234	
	C－30住					
144	打製　石斧	93	48	22	102	
	C－36住115					
145	打製　石斧	111	61	15	105	
	C－36住112					
146	打製　石斧	111	47	15	105	
	C－36住275					
147	打製　石斧	107	48	21	95	
	C－36住13					
148	打製　石斧	109	47	15	109	
	C－36住310					
149	打製　石斧	116	55	28	143	
	C－36住86					
150	打製　石斧	122	44	17	102	
	C－36住341					
151	打製　石斧	87	50	11	60	
	C－36住49					
152	打製　石斧	97	44	11	60	
	C－36住17					
153	打製　石斧	139	47	20	159	
	C－36住73					
154	打製　石斧	88	51	12	68	
	C－36住412					
155	打製　石斧	98	47	13	72	
	C－36住303					
156	打製　石斧	115	46	34	222	
	C－12土					
157	打製　石斧	110	48	16	75	
	C－24土					
158	打製　石斧	145	54	26	215	
	C－28土1					
159	打製　石斧	114	53	17	138	
	C－41土					
160	打製　石斧	108	47	14	100	
	C－47土					
161	打製　石斧	118	56	17	147	
	C－55土3					
162	打製　石斧	111	49	23	130	
	C－63土					

石器NO	種別・場所	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備　　考
163	打製　石斧	112	66	18	135	
	C－83土					
164	打製　石斧	134	46	25	160	
	C－113土					
165	打製　石斧	93	52	14	77	
	C－118土					
166	打製　石斧	167	51	25	239	
	C－125土					
167	打製　石斧	127	53	21	171	
	C－137土6					
168	打製　石斧	116	54	25	195	
	C－138土					
169	打製　石斧	139	53	28	245	
	C－151土5					
170	打製　石斧	77	62	20	122	
	C－153土10					
171	打製　石斧	126	50	24	175	
	C－178土1					
172	打製　石斧	111	53	13	96	
	C－206土					
173	打製　石斧	109	50	22	121	
	C－256土6					
174	打製　石斧	100	49	15	91	
	C－287土1					
175	打製　石斧	102	49	27	147	
	C－304土3					
176	打製　石斧	112	49	21	134	
	C, 3トレ					
178	打製　石斧	114	43	19	126	
	C,					
179	打製　石斧	99	54	19	124	
	C,					
180	打製　石斧	99	75	43	42	
	C, B－19G					
181	打製　石斧	93	38	13	59	
	A－14住49					
182	打製　石斧	92	40	11	60	
	A－14住Pit2					
183	打製　石斧	92	54	16	88	
	A－17住75					
184	打製　石斧	118	69	21	186	
	A－17住19					
185	打製　石斧	120	43	19	114	
	A－19住94					
186	打製　石斧	111	37	18	99	
	A－20住					
187	打製　石斧	99	44	16	93	
	A－21住					
188	打製　石斧	97	58	13	102	
	A－25住6					

石器NO	種別・場所	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備　　考
189	打製　石斧	104	50	23	136	
	A－27住407					
190	打製　石斧	119	63	32	217	
	A－27住715					
191	打製　石斧	119	61	14	117	
	A－27住782					
192	打製　石斧	87	58	16	191	
	A－33住98					
193	打製　石斧	136	56	19	154	
	A－33住Pit21					
194	打製　石斧	108	53	18	199	
	A, 河107土					
195	打製　石斧	99	50	24	130	
	A－200土					
196	打製　石斧	116	63	16	200	
	A, 河575					
197	打製　石斧	105	50	17	108	
	A, 河709					
198	打製　石斧	113	53	21	155	
	A, D－11G					
199	打製　石斧	110	46	17	106	
	A, C－10G1					
200	打製　石斧	175	65	21	367	
	A, C－10G52・53					
201	打製　石斧	104	50	13	88	
	A, C－10G54					
202	打製　石斧	112	47	13	83	
203	打製　石斧	109	44	9	53	
204	打製　石斧	120	48	18	147	
205	打製　石斧	101	57	16	104	
206	打製　石斧	143	54	18	218	

第6節　甲ッ原遺跡C区　土坑表（1993年度）（『甲ッ原遺跡Ⅱ』）

（◎は大型の礫・○は小型の礫）　（単位cm）（表―24）

土坑番号	長軸	短軸	長／短	深さ	時　　期	礫・石器	土器片等
1	111	94	1.18	56	加曽利E4	○	○
2				74			○
3				81			○
4	150	140	1.07	94		○	○
5	82	65	1.26	77		○	○
6	130	110	1.18	80	井戸尻　袋状	○	○
7	185	125	1.48	91			
8	91	89	1.02	33		○	○
9	112	90	1.24	38			○
10	87	85	1.02	48	井戸尻？		
11	85			62	中期　袋状		
12	93	87	1.07	55	曽利		
13	74	65	1.14	61	井戸尻	○	
14	112	72	1.56	94	曽利Ⅰ　石棒		
15	102	76	1.34	60		○	○
16	110	76	1.45	20		○	
17	102	90	1.13	26			
18	115	87	1.32	42		◎	
19	92	88	1.05	52	藤内	○	
20	71	65	1.09	14		○	
21	154	86	1.79	66	曽利Ⅰ	○	○
22	74	40	1.85	31	井戸尻	○	○
23	121	108	1.12	27	中期中＝＝後半	○	○
24	75	70	1.07	75	藤内　袋状	○	
25	90	52	1.73	55	五領ヶ台		
26	130	110	1.18	29	藤内	◎	○
27	140	97	1.44	32	藤内	○	○
28	112	75	1.49	17		○	
29	80			31			
30	115	80	1.44	24	藤内		○
31	183	112	1.63	36		○	○
32	105			39			
33	151	120	1.26	31	藤内		○
34	102	72	1.42	31		○	
35		80		12		◎	
36	138	110	1.25	30		◎	○
37	110			18	新道	◎	○
38	121	93	1.30	27	新道		
39		93		37	諸磯C	○	○
40	155	90	1.72	42			
41		60		21		○	
42				40		○	
43	75	60	1.25	12	新道		○
44	100	100	1.00	20		○	
45	100	100	1.00	22	藤内？		○

（単位cm）

土坑番号	長軸	短軸	長／短	深さ	時　　期	礫・石器	土器片等
46	72	72	1.00	20		○	
47	116	103	1.13	32	諸磯C	○	○
48	120	93	1.29	17		◎	
49	106	77	1.38	37	井戸尻？	○	
50	142	87	1.63	38	井戸尻		○
51	122	95	1.28	50			
52	140	136	1.03	25	藤内	◎	○
53				14		○	○
54	75	70	1.07	25		◎	
55	140	112	1.25	17	藤内？石皿	○	
56	111	90	1.23	51		○	
57	67	45	1.49	57		○	
58	39	35	1.11	30		○	
59	90	75	1.20		藤内		
60	85	77	1.10	22			
60	50	40	1.25	42			
61	110	110	1.00	17	藤内		
62	120	100	1.20	27			
63	132	110	1.20	23	藤内		
64	88	88	1.00	29	諸磯C出土		
65	104	80	1.30	23			
66	100	100	1.00	23			
67		80		14			
68		93		27			
69	104	92	1.13	51			
70	86						
71	53	50	1.06	9	藤内		○
72		95		10	藤内の浅鉢	○	○
73	147	114	1.29	31		○	
74	57	46	1.24	54			
75	75	60	1.25	17		○	
76	110	85	1.29	15	藤内	○	○
77						○	
78	194	125	1.55	32			
79	70	65	1.08	14	井戸尻		
80	69	56	1.23	21			○
81	65	65	1.00	18			
82	105	85	1.24	24	井戸尻		○
83	128	89	1.44	28		○	
84				20	井戸尻		
85	125	85	1.47	31		○	
86	113	97	1.16	35	井戸尻	◎	○
87	78	70	1.11	30	新道	○	○
88		88		28		◎	
89	160	85	1.88	16	五領ヶ台―狢沢	◎	○
90	147	98	1.50	15	藤内	◎	

（単位cm）

土坑番号	長軸	短軸	長／短	深さ	時　　期	礫・石器	土器片等
91	93	68	1.37	26	藤内	○	
92	170	110	1.55	18	新道		
93				38		○	
94	107	93	1.15	20		○	○
95	85	70	1.21	60		○	
96	76	62	1.23	96		◎	
97	106			11			
98	45	37	1.22	11	諸磯C		
99	132	107	1.23	19			
100	133	105	1.27	27			
101	80	78	1.03	22		○	
102		98		25		○	
103	120	120	1.00	34	藤内		○
104	70	70	1.00	33	五領ヶ台		
105	192	92	2.09	33			
106	114	95	1.20	51	藤内		
107	87	87	1.00	19	藤内		
108		97		36			
109	108	63	1.71	20	藤内	○	○
110		60		15	藤内	◎	○
111	75	55	1.36	27			
112	82	38	2.16	23	中期中葉（藤内？）		○
113	88	48	1.83	33			
114	103	93	1.11	28			
115	100	100	1.00	23	石皿	○	
116		112		21	藤内		
117	77	63	1.22	20			
118	120	87	1.38	21			
119	153	108	1.42	22			○
120	85	85	1.00	21			
121				27	藤内		
122	145	145	1.00	37			
123		144		25	藤内		○
124	165			22	諸磯C		
125				23			
126	63	55	1.15	56	曽利Ⅰないしそれ以降	○	
127	80	77	1.04	51	石皿	○	
128	56	56	1.00	41	藤内	◎	○
129	92	60	1.53	62	袋状	○	○
130	127	102	1.25	23	新道？		○
131	120	95	1.26	19	藤内		○
132	156	123	1.27	14	藤内	◎	○
133						◎	
134	80	80	1.00	45	中期中葉		○
135	82	78	1.05	18			
136					藤内	○	○

（単位cm）

土坑番号	長軸	短軸	長／短	深さ	時　　期	礫・石器	土器片等
137	227	140	1.62	25	藤内	○	○
138	115	100	1.15	38	藤内	◎	○
139	105	83	1.27	10			
140	110	90	1.22	34	中期後半？	○	○
141	85			21	藤内	○	
142	114	92	1.24	27	藤内	◎	○
143	144	100	1.44	10			
144	123	75	1.64	24	藤内		○
145	96	81	1.19	42		◎	
146	134	96	1.40	25			
147	100	70	1.43	54			
148	132	90	1.47	20		○	○
149	70	64	1.09	24			
150	245			25	藤内	◎	○
151	168	140	1.20	20	藤内？	○	○
152	49	42	1.17	15	曽利Ⅲ		○
153		110		26	井戸尻	○	○
154	126	77	1.64	38	井戸尻	○	○
155	45	45	1.00	11			
156	88	88	1.00	23	藤内		○
157	77	62	1.24	30	諸磯C	○	
158	120			11	五領ヶ台－狢沢		○
159	43	36	1.19	20	藤内		○
160	76	65	1.17	12	曽利Ⅱ		○
161		71		26			
162				32			
163	49	38	1.29	27	藤内		○
164	55	55	1.00	20			○
165		55		24	藤内－井戸尻		○
166		80		26	藤内		○
167	43	43	1.00		藤内？		○
168	124	103	1.20	32	中期中葉？	◎	
169	252	163	1.55	14			○
170							
171	108			29			
172		71		36			
173	105	97	1.08	53	諸磯C	○	○
174	130	111	1.17	70	諸磯C	○	○
175	61	47	1.30	58	藤内－井戸尻 袋状	○	○
176	90	78	1.15	46	諸磯C		○
177	108	95	1.14	45	諸磯C		○
178	53	42	1.26	47	藤内	○	○
179	122	117	1.04	65			
180	102	92	1.11	60			
181	96	78	1.23	45	井戸尻？		
181	65			42		○	○

（単位cm）

土坑番号	長軸	短軸	長／短	深さ	時　　期	礫・石器	土器片等
182	94	70	1.34	42	藤内	○	○
183	51			42	井戸尻？袋状	○	○
184				47	井戸尻		○
185	100			20	藤内（五領ケ台？）	○	○
186	151	120	1.26	12	井戸尻（拓本では籐内）	○	○
187							
188							
189	138	111	1.24	75		○	
190		110		36			
191	113	97	1.16	32		○	
192	94	89	1.06	42		○	
193	81	70	1.16	42	諸磯C？		
194	143	124	1.15	45	五領ヶ台（拓本井戸尻？）		○
195	116	110	1.05	33	諸磯C	○	○
196	142	117	1.21	44			
197					中期中葉？		○
198	118	115	1.03	86		○	
199	80	73	1.10	18	井戸尻		○
200	93	75	1.24	22		○	○
201	72	53	1.36	36	五領ヶ台		○
202	111	87	1.28	65	諸磯C 石皿		
203	125	80	1.56	25		○	
204	91	85	1.07	58		◎	
205	88	85	1.04	56			
206	83	79	1.05	48			
207		84		12	井戸尻		
208	100	93	1.08	43		○	
209							
210	92	90	1.02	33			
211				51	五領ヶ台		
212	112	92	1.22	44	諸磯C		
213	90	85	1.06	50	諸磯C		
214	86	79	1.09	35			
215	128	120	1.07	33			
216	91	83	1.10	35		◎	
217	123	120	1.03	40			○
218	69	68	1.01	36		○	
219				22	石皿	○	
220	131	108	1.21	25	藤内 石皿	○	
221	121	92	1.32	44	曽利Ⅳ		○
222	95	75	1.27	36	中期		○
223	100	99	1.01	48	諸磯C	◎	
224	112	93	1.20	60	藤内	◎	
225	128	115	1.11	49	井戸尻（拓本曽利Ⅳ）		○
226	103	94	1.10	59		○	
227	51	45	1.13	30		○	

（単位cm）

土坑番号	長軸	短軸	長／短	深さ	時　　期	礫・石器	土器片等
228	120	110	1.09	31	諸磯C 藤内あり		○
229	80	76	1.05	18	五領ヶ台？		○
230	111	90	1.23	47	曽利Ⅲ		○
231	100	80	1.25	43			
232	111	79	1.41	29			
233	80	68	1.18	26			
234	95	62	1.53	31	中期		○
235	78	54	1.44	12			
236	116	95	1.22	49	諸磯C		○
237	72	60	1.20	47	井戸尻（五領ケ台の拓本）	○	○
238	95	84	1.13	35			
239	95	81	1.17	31			
240	85	63	1.35	44			
241							
242							
243	41	33	1.24	77			
244	115	100	1.15	32	諸磯C	○	○
245	84	80	1.05	30			○
246	216	190	1.14	214	曽利？		○
247	147	77	1.91	27	五領ヶ台		○
248	82	73	1.12	78	井戸尻 袋状		
249		90		10		○	
250	123	93	1.32	14	五領ヶ台		○
251	140	130	1.08	41			
252	232	158	1.47	28		◎	
253	140	135	1.04	35			
254	168	162	1.04	32			
255	132	110	1.20	53			
256	108	102	1.06	40	五領ヶ台		○
257	111	87	1.28	35			
258	124	111	1.12	82	諸磯C		○
259	107	87	1.23	37			
260	68	61	1.11	30			
261	113	92	1.23	24	諸磯C？		○
262	80			12	五領ヶ台		
263	68	60	1.13	18			○
264	93	90	1.03	46			
265	85	76	1.12	57			
266	76	68	1.12	27		○	○
267	50	50	1.00	25	藤内？		
268	87	76	1.14	19		○	
269	78	68	1.15	18			
270	113	99	1.14	55			
271	95	90	1.06	22			○
272				20			
273	120	90	1.33	25			

（単位cm）

土坑番号	長軸	短軸	長／短	深さ	時　　期	礫・石器	土器片等
274	107			35			
275	108			45	五領ヶ台		○
276					諸磯C		○
277	102	91	1.12	20		○	
278	132	113	1.17	20		○	
279					諸磯C		○
280							
281	86	60	1.43	87	五領ヶ台 袋状		○
282					諸磯C		○
283	100	70	1.43	19	藤内		○
284	134	109	1.23	35	藤内	◎	○
285							
286							
287	113	65	1.74	15	新道－藤内		○
288		63		17		◎	
289	53	35	1.51	17	藤内		○
290	95	57	1.67	18	藤内－井戸尻		○
291							
292						○	○
293	130	115	1.13	5	藤内	○	○
294	104	90	1.16	13	藤内		○
295	90	87	1.03	40			
296				25			
297	124	88	1.41	28	藤内？		○
298	80	76	1.05	30		○	○
299	80	58	1.38	24		○	
300		103		37	藤内		○
301	80	60	1.33	13	狢沢－藤内		○
302							
303		46		13		○	
304					藤内－井戸尻（拓本狢沢）	○	○
305	41	32	1.28	8			
306	103	86	1.20	17		○	○
307	62	49	1.27	30		○	
308	153	93	1.65	20			
309	140	110	1.27	22			
310	84	62	1.35	58	曽利Ⅳ		○
311	100	80	1.25	100			
312	65	61	1.07	65			
313	60	44	1.36	26			
314	51	43	1.19	28			

第Ⅳ章　甲ツ原遺跡の住居跡から出土した遺物のレベル分布図について

1）B区1号住居跡の遺物出土レベルからみた遺物分布図（第51～53図）

（遺跡のレベル分布図は、眼標高からのマイナスレベルで行った）

本住居跡は、B区C.D-33.34グリッドに位置しており、縄文時代の住居跡はこの地点で最北端に存在する。八ケ岳の南麓に所在する当遺跡は、ゆるやかな南傾斜地に集落が営まれ、住居跡はその傾斜地につくられている。その関係で、確認面もやはり傾斜することとなる。

また、1989年度には、八ケ岳東南麓の遺跡分布調査により、1号住居跡のほぼ中央に試掘坑が設定された関係上、遺物の分布において希薄となる図（第52図6-1）もある。このような状況の中で、1号住居跡の分布を見ていきたい。

1号住居跡は、大形の礫を壁として利用され、この礫は確認面から突き出した状態である。このことからも、住居がつくられるための規制が働いていたことが窺える。本住居跡の時期は、藤内式期である。

各分布図で右側の図は、一定レベルの範囲内での遺物分布図である。

さて、遺物出土レベルから見た遺物分布図は、どのような状態であるのか述べてみたいと思う。

1段階は床面から約25cm上までの遺物分布図で、1-1の分布図には、完形品及び完形に近い土器も取り入れてみた。完形品・完形に近い土器は、床面から0～24cmと幅が認められ、特に口縁部が床面に食い込んでいるものもある。これらの土器で、7個体については床面から0～6cm上で出土しており、そして7個体の土器は、住居に伴うものと解釈することができる。1段階は、195.5～170.0cmまでの遺物レベル分布図である。

住居の北側と南側の床面の高さは、北側が高く南側の壁に近づくにつれ低くなっており、床面の高さが相違していることが1段階の断面図から読みとることができる。出土遺物は、東側で認められる。

2段階では、195.5～165.0cmまでの遺物分布図である。住居跡の中央より東側で、土器片の分布が認められる。入口部は、柱穴の間隔の開いている南側を想定することができ、入口部周辺では遺物の分布が非常に少ない。2-1は、169.9～165.0cmまでの遺物分布図である。遺物は、炉を中心として東側に分布している。この段階で注目されるのは、一部の柱穴に遺物の分布が見られるということである。この時点で遺物の分布が認められる柱穴は、本住居跡に伴う柱穴である可能性はやや少ないと考えられる。

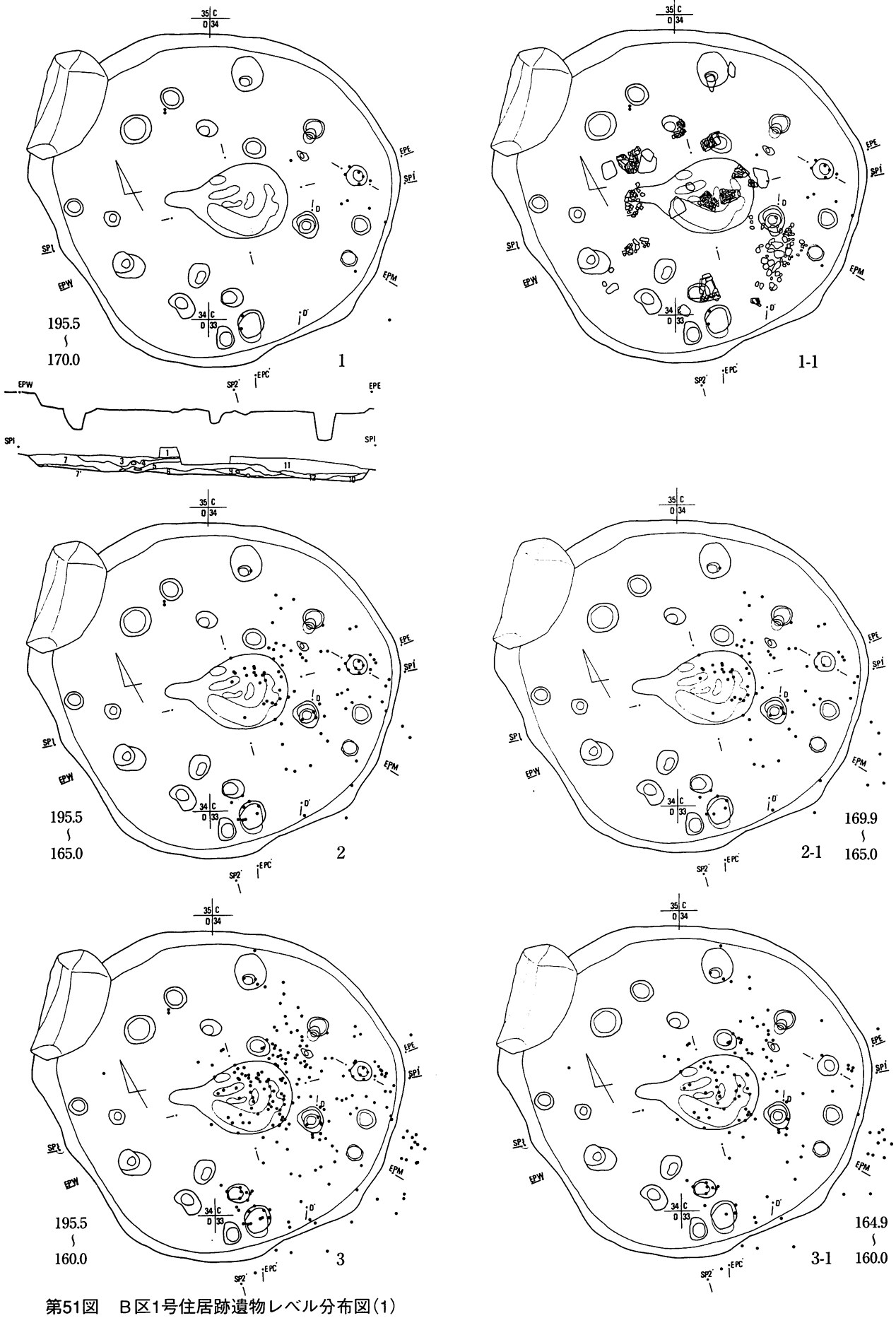
次の段階では、遺物の分布はさらに増えるものの、住居跡の東側にその分布が認められ、入口部を想定した箇所にも分布が見られる。この時点ではまだ主柱が存在していた可能性があるとともに、屋根材の存在も考えられる。遺物分布のレベルは195.5～160.0cmの範囲で、3-1は164.9～160.0cmのレベル分布図である。

4段階は、195.0～155.0cmまでの分布図である。炉を中心とした遺物の広がりが見られる。前段階で住居の屋根材が朽ち果てたものと考えられ、さらに崩壊が進んだものと思われる。特にこの段階では、住居の南側ないし東側から土器片が投げ捨てられたものと考えられる。その理由として、屋根材の崩壊によって入口部付近に遺物の分布が濃密に認められることと、住居の中央でも認められることである。

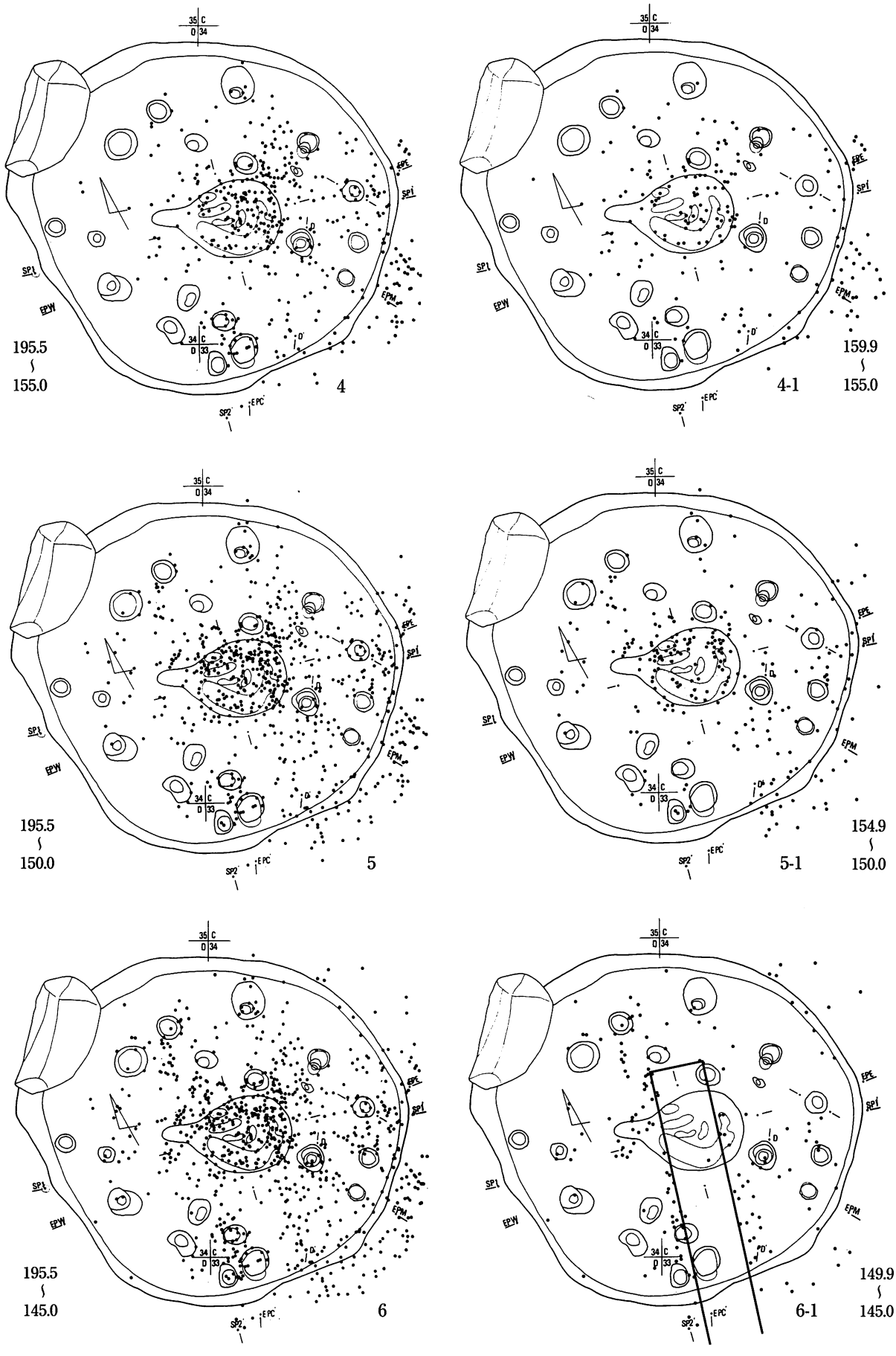
5段階では、さらに炉を中心として遺物の分布が認められる。遺物分布レベルは、195.5～150.0cmである。そして住居跡の南東方向では、遺物の分布がより一層濃く分布する。住居外の入口部周辺においても遺物の分布は濃い。またこの段階で、北壁側の遺物のほとんどは、床直ないし、床直付近の遺物である。特にこの段階になると、住居の主柱穴と考えられる箇所に、遺物の分布が見られる。このことから主柱材は崩壊し朽ちた結果であることが読みとることができる。

6段階の6-1では、炉の中心にほとんど遺物は分布せず、炉の周辺で認められる。また遺物分布は、入口部付近で炉に向かっていく出土状況が窺えるが、入口部の中央に存在する遺物の左側の空間は、試掘調査によってできた試掘坑の空白部である。

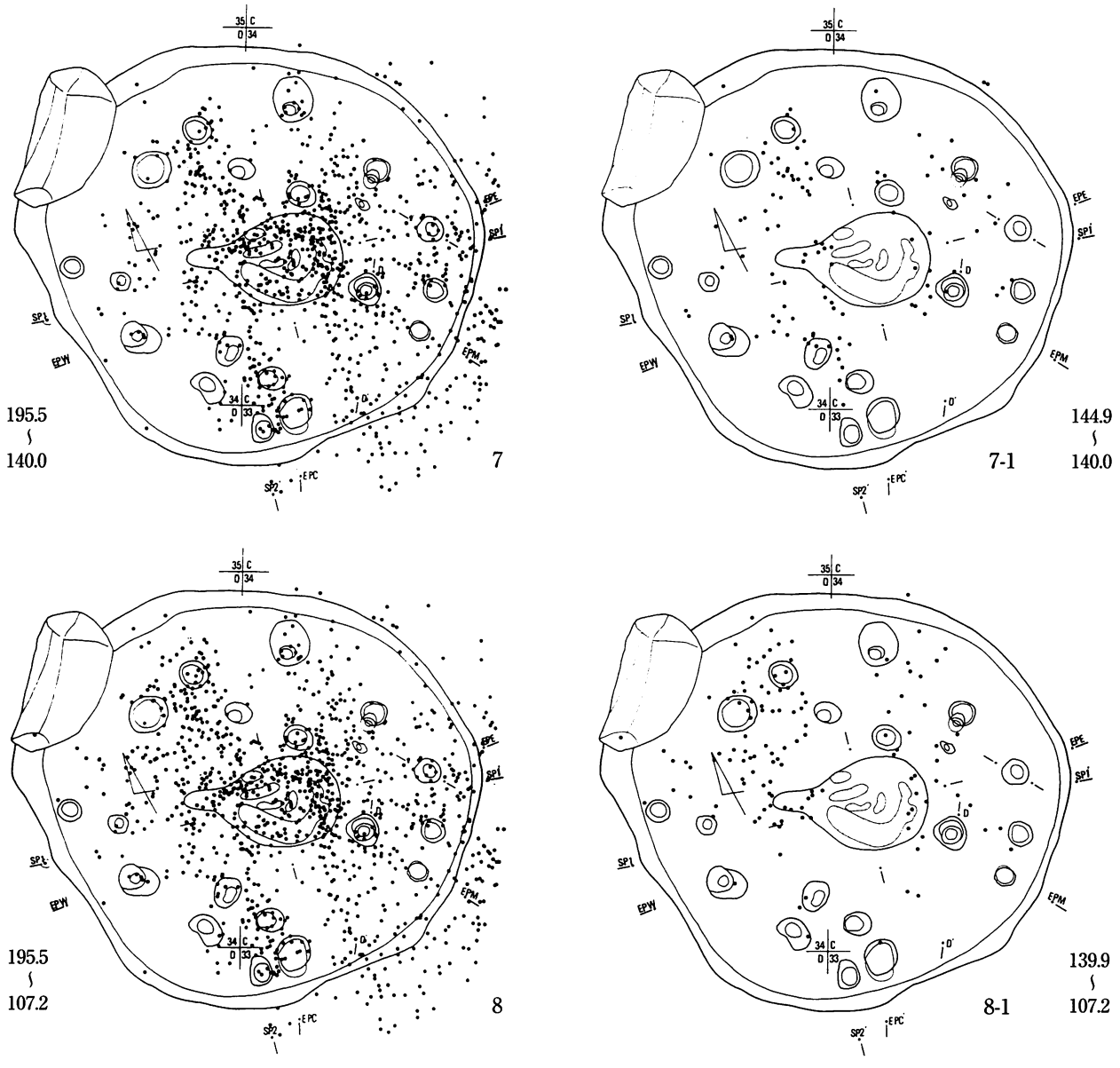
大型の土器片・ほぼ完形の土器の分布図



第51図　B区1号住居跡遺物レベル分布図(1)



第52図　B区1号住居跡遺物レベル分布図(2)

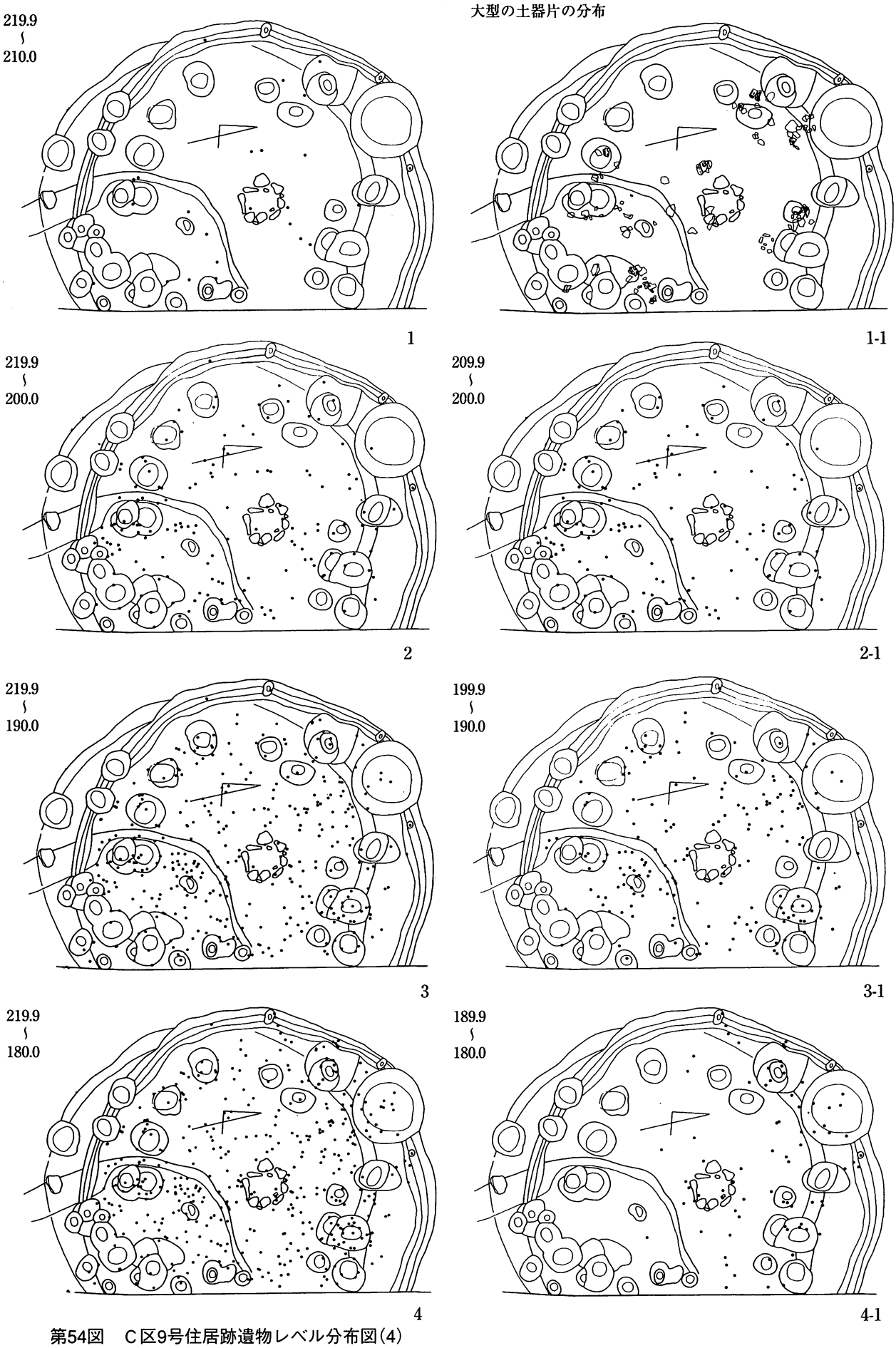


第53図　B区1号住居跡遺物レベル分布図(3)

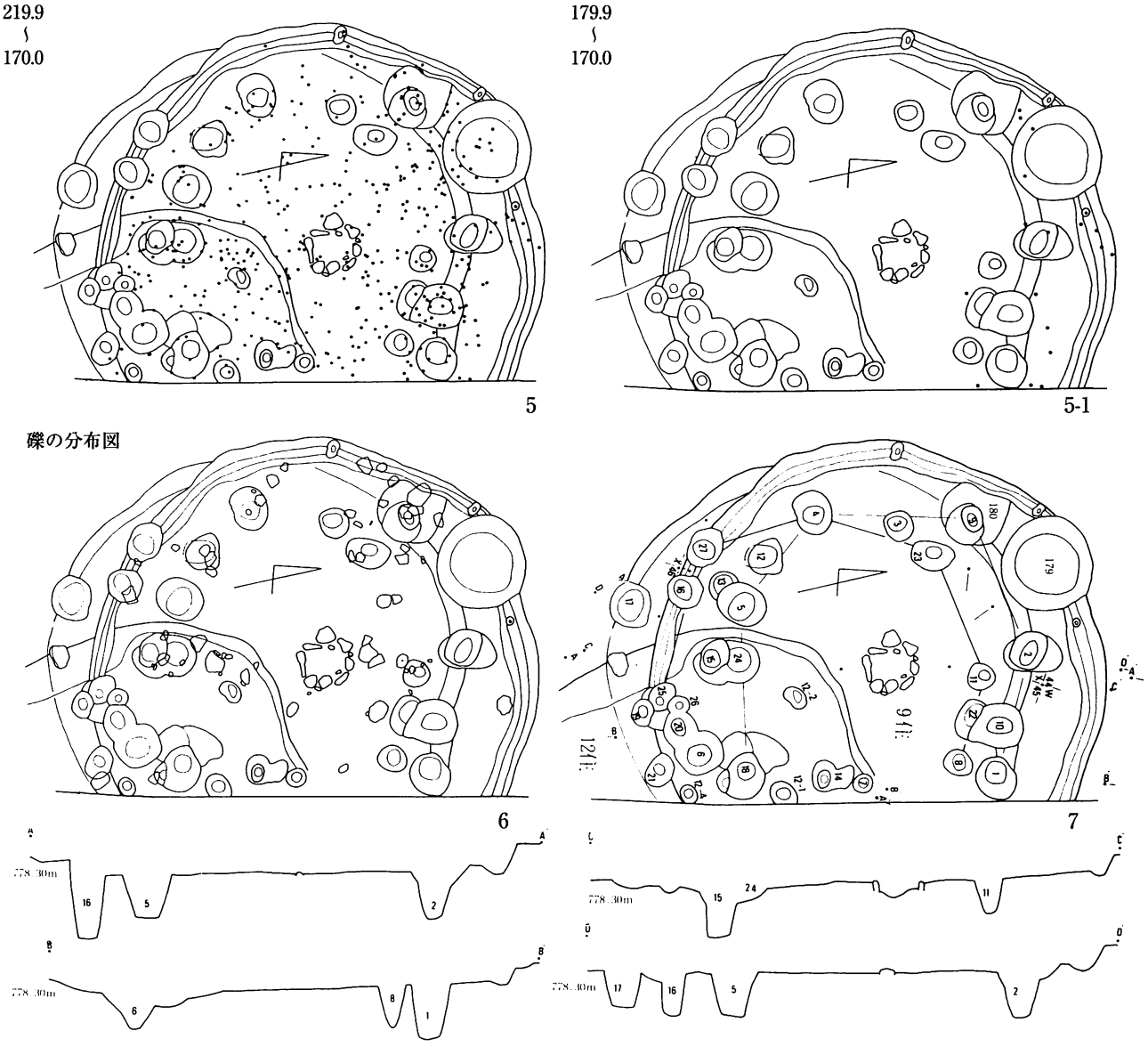
7段階の7-1では、6段階と同様、炉の中心に遺物はほとんど分布せず炉の周辺で分布し、ドーナツ状に遺物は広がる。

8段階の8-1で、遺物の出土は、住居の床面及び地山の傾斜によって高い位置にある箇所で分布している状況である。遺物の分布レベルは、139.9～107.2cmまでのものである。

このような結果から、住居が放棄された段階から埋没してしまうまでの状況を、遺物の分布でとらえてみたわけであるが、住居は放棄された段階では、柱や屋根材は存在していたものと考えられる。そして、時間の経過とともに屋根材の崩壊によって空間が広がり、住居内へ遺物が投げ捨てられていったものと思われる。土器片の投げ捨てが継続されていき、ある時期がきた時、5段階で主柱材が朽ち果てその箇所に遺物が分布することとなり、最終的に遺物の分布は少なくなっていくようである。また炉石については、住居を放棄した際、抜き取られた可能性を持っており、それは2段階の分布図では、炉石が設置された箇所に遺物が分布していることである。



第54図　C区9号住居跡遺物レベル分布図(4)



第55図　C区9号住居跡遺物レベル分布図(5)

2）甲ツ原遺跡C区9号住居跡の遺物出土レベルから見た遺物分布図について（第54.55図）

（遺物のレベル分布図は、眼標高からのマイナスレベルで行った）

本住居跡は『甲ツ原遺跡Ⅱ』で報告されており、報告できなかったことについて今回掲載した。

1段階は、住居が放棄された後の遺物分布図で、床直付近の遺物出土状況図である。点数は少なく、炉の周辺にやや分布が認められる。9号住居跡（井戸尻式期）は、12号住居跡（諸磯C式期）と重複しており、12号住居跡の上に建てられている関係上、12号住居内に含まれている遺物は、9号住居出土遺物であると断定することはできないが、9号住居の床面のレベルより低いものについては、12号住居の遺物と判断することは可能である。また9号住居内の出土遺物の点数は極めて少ないことから、生活していた際の遺物と受け取れる状況を示している。1-1は完形に近い土器及び大形の土器片と礫の分布図である。

2段階の遺物分布図において、床面よりおおよそ20cm位までの出土遺物の状況である。この時点で遺物はかなり多く出土し、炉の周辺または付近では散漫な状況を示し、住居のほぼ中央の炉の周辺を除いた壁または柱穴までの空間に遺物の分布が認められる。この2段階で明らかなことは、遺物はほとんど住居内の空間に存在しているものの、柱穴の上、特に平面図の底にあたる部分に位置する箇所では遺物がほとんど認められていないことである。

それは、たとえば2-1の1から10までの柱穴（第55図7の柱穴番号参照のこと）で、平面図に示してある柱穴の底の部分に遺物の散布が認められていないということである。出土遺物の散布状況および出土量から見ても、平面図の柱穴の上に遺物が位置していても良いのではないだろうか。遺物分布のレベルは、219.9～200.0cmまでのものである。

その後3段階では、床面からおおよそ30cm位までの分布状況を示したものである。この3段階も2段階と同様な状況が窺える。炉の周囲を除いた壁までの空間に遺物の分布が認められる（第54図3-1）。この時点において、柱穴10の上には遺物が出土しており、また9、4、24も同様な状況を示している。しかし、この段階になってもなお、1、2、3、18、15、8の上には遺物が分布していないことが明らかである。

4段階では、地山が南傾斜している関係上、住居の北側に遺物は分布する。

5段階も4段階と同様な分布を示す。

このように4、5段階では、このレベルではもはや住居の南側部分において、計測不能の状態（地山が傾斜していることで、北側ではまだ覆土が存在し、南側には覆土がない状態を意味している）となっている。

さて、これらの状況から1段階において、本住居で生活を営み、その後住居を放棄したころの状況を示しているものと考えられる。この1段階では住居の柱材・屋根材はまだ存在していたのではないかと考えられる。

そして2段階では、遺物の分布状況から住居の中央付近に遺物は少なく、その外側に遺物の分布が認められている。しかし、柱穴1、10、2、9、3、4、24、15、6、18、8、23までの柱穴の底に位置する部分に遺物の分布が認められていないということは、この段階まで柱は存在していたものと考えられる。ただし、1、10、2、9、3、4、24、15、6、18、8、23までの柱穴全てが9号住居跡の柱であったと断定することはできないわけであるが、その可能性を秘めている。そして、この段階では屋根材が朽ち果ててしまったことを意味しているのではなかろうか。

3段階では、さらに遺物出土量は増す。この段階は、2段階と同様な遺物分布状況を示す。特に、柱穴が配置された箇所に多く認められるようである。住居の中央あるいは中央付近は周辺より出土量は少ない。そしてまたこの段階では、柱穴10、9、4、24は柱が朽ちたものと考えられるのではなかろうか。それは前段階では、柱穴上に遺物は分布していなかったことによるものである。

しかし、なお柱穴1、2、3、18、15、8の上には依然として遺物の分布が認められておらず、やはりこれら6本の柱は立っていたものと考えられるのである。

4、5段階では、遺物分布状況はほとんど変化を認めることはできない。

このような結果から、9号住居を放棄する時点で家財道具は全て持ち出され、その後2段階の頃、9号住居跡は屋根の崩壊が始まり、住居の上屋には空間（隙間）ができ、遺物は住居の中央付近を除いた周辺に集中し、更にある柱は倒壊し、ある柱は直立したままとなり、ますます住居には空間（隙間）が広がり、遺物が侵入してきたものと解釈したい（炉は壊されることなく、生活の最終段階までの姿を保っている）。

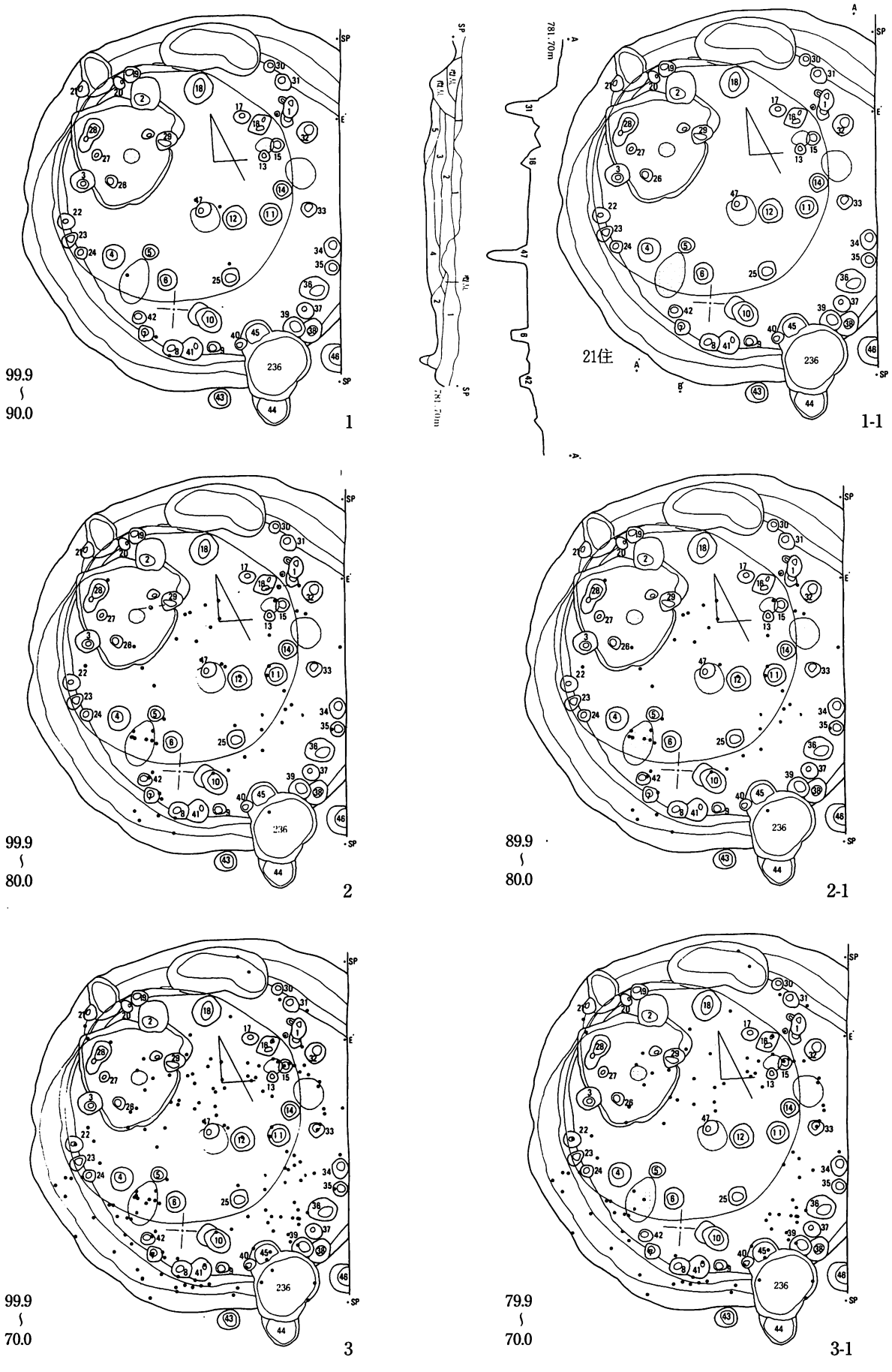
3）甲ツ原遺跡C区21号住居跡の遺物出土レベルから見た遺物分布図（第56・57図）

（遺物のレベル分布図は、眼標高からのマイナスレベルで行った）

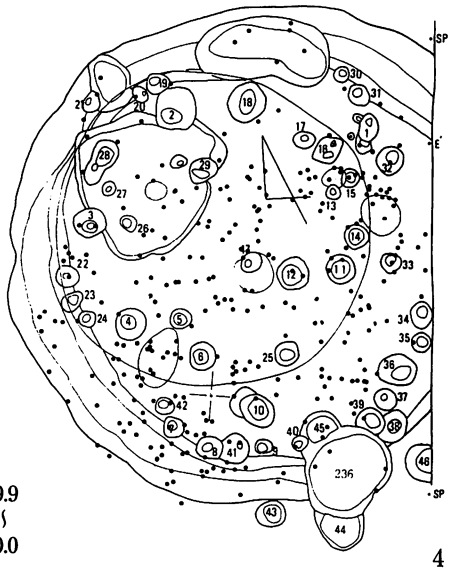
本住居跡は『甲ツ原遺跡Ⅱ』で報告されており、報告できなかったことについて今回掲載した。

1段階は、99.9～90.0cmまでの分布図で、非常に少ない遺物量を読みとることができる。住居跡の時期は、前期の諸磯C式期である。また本住居跡は住居内にさらに旧い住居が存在し、その中に含まれている遺物は、どちらの住居の遺物であるかを判断することはできない。本住居も他の住居と同様、傾斜地につくられたもので、1-1の断面図によって理解されることと思われる。

2段階は、99.9～80.0cmまでの分布図である。床面から約20cmまでの分布であり、他の住居の遺物分布図とあまり変化は認められない。やはり南傾斜している関係で、遺物は住居の南側部分に多く見られるが、壁付近の遺物はほとんど存在せず、わずかに数点が周溝の上に認められるにすぎない。その理由としては、他の住居の

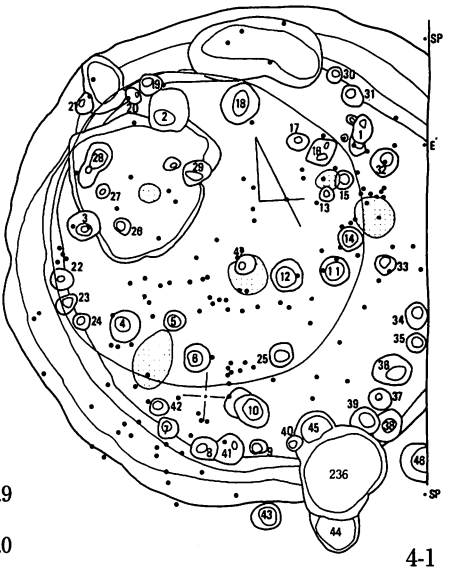


第56図　C区21号住居跡遺物レベル分布図(6)



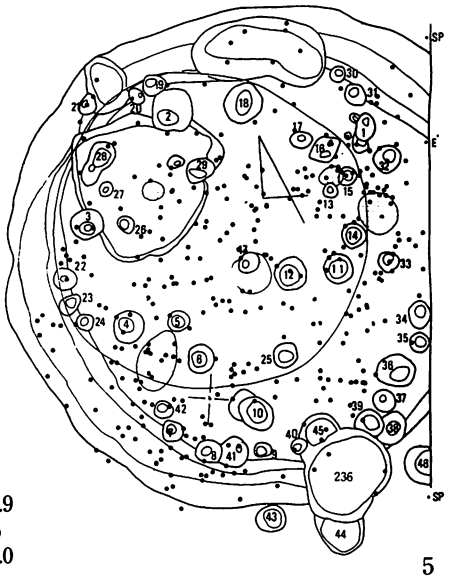
99.9
～
60.0

4



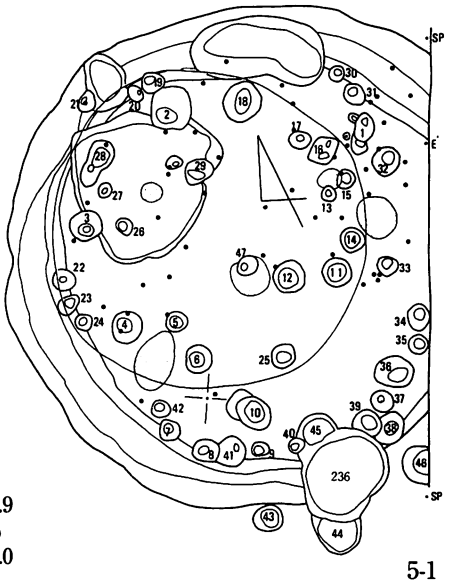
69.9
～
60.0

4-1



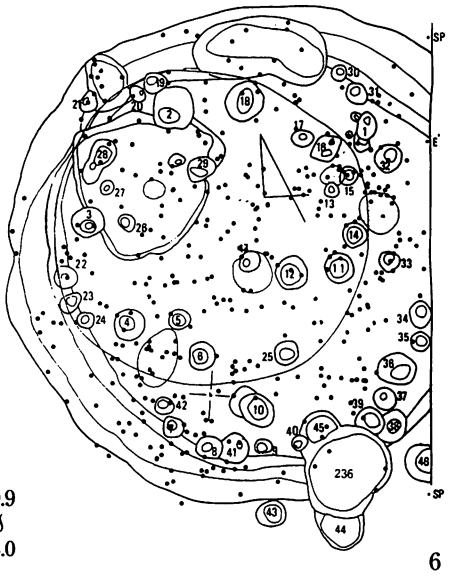
99.9
～
50.0

5



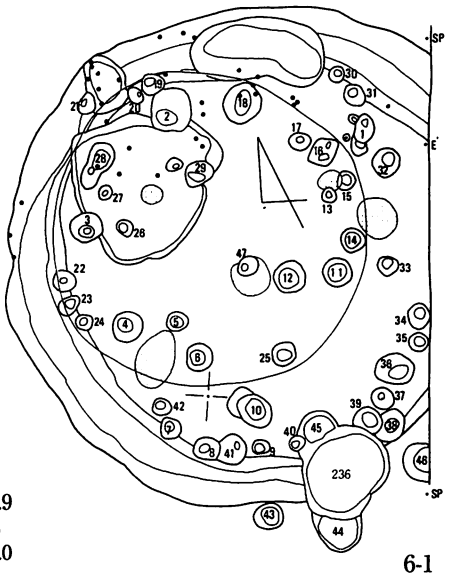
59.9
～
50.0

5-1



99.9
～
34.0

6



49.9
～
34.0

6-1

第57図　C区21号住居跡遺物レベル分布図(7)

遺物分布図から遺物が存在しているこの位置が住居の入口部にあたるためであろう。また遺物の分布は、主に住居の柱穴がめぐっている内側に存在している。

3段階は、99.9～70.0cmまでの分布図である。住居の中央付近に遺物の分布が見られるとともに、柱穴の周囲にも分布が認められ、3-1でよりはっきり示されている。この段階では、柱はまだ健在であり、直立していたことが推測される。しかし、遺物の分布状況から、屋根材として使用されていた材が崩壊し、空間（隙間）が広がっていったものと判断される。

4段階は、99.9～60.0cmまでの分布図である。3段階よりもさらに住居の中央に遺物が分布し、住居の空間を埋めている。また4-1から、部分的に遺物が集中している箇所も幾つか見受けられると同時に、この段階において遺物の分布状況は、前段階で認められた空白部の箇所に遺物が分布することによって、3段階の終わり頃から4段階の始めの頃に、柱が崩壊したのではないかと考えられる。

5、6段階は、住居の確認面の傾斜による遺物分布図と解釈される。これは、他の住居と同様な傾向を示している。また、土層図から住居の東壁側には撹乱があり、耕作によって遺物が撹拌された結果、出土遺物が少なかったものと考えられる。

4）3軒の住居跡から出土した遺物のレベル分布図について

3軒の住居跡の遺物出土レベルの分布図について記してきたが、ここで若干の問題点をあげておきたい。

遺物の分布状態は、水平レベルでの処理であるため、床面の傾斜を考慮していないことにより、このような分布レベルの結果となってしまったのであるが、傾斜に沿った遺物の分布状態であれば、さらに良い結果が得られたものと考えられるのであるが、現在のところこの方法で処理していくこととなった。

遺物のレベル分布図については、1-床面の高さが一定でないことにより、低い床面の箇所で遺物の分布が広がり、高い床面では低い床面のレベル分布が示された後、そのレベル分布図が示されてしまう。

2-遺物の属性を行っていないので遺物の種類（土器・石器・礫等）、或いは、遺物の時期的な広がりが不明となってしまったことである。

しかしながら、利点も存在するものと思われる。

1-今までの方法（断面への投入）ではわからなかったことがさらに明らかにされることである。それは、断面への投入は、たとえば住居の中央の遺物と壁際の遺物とが、断面では中央部に分布されてしまうことである。

2-土層図を見た場合、若干の凹凸は認められるものの、土層のほとんどがほぼ水平な堆積状態を示しており、土層図に遺物を投影することもかなり無理があるといえるのではなかろうか。明らかにその層の中に存在することはないにもかかわらず、層中に遺物が投影されてしまうことである。

3-遺物の水平分布は、レベル毎に分割することによりどのような広がりで遺物が分布しているのかが明らかであり、住居が放棄されて崩壊するまでの過程がこの分布から読み取ることが可能である。また、住居内に別の遺構が存在している可能性のある住居についても、この方法で知ることができうるかもしないのである。この作業を始めるきっかけとなったのは、まさにこのことを考えたことであったのだが、作業途中で別の結果が見えてきたことによって中断されることとなってしまった。

さて、3軒の分布図を比較してみたい。時期的なこととして、前期（諸磯式期）・中期（藤内式期）・中期（井戸尻式期）において、住居を放棄した時点から埋没するまでの過程で、概ね変化が認められないこと。また、3軒とも埋没していく過程で、柱がある時期（段階）まで直立していただろうということ。住居床面から約20cm位上までは、あまり破片的な遺物は存在しないこと（出土点数が少ない）。ただし、B区1号住居跡のように、ほぼ完形品が床直から6cmまでに存在しているものもあり、置き去りされた遺物としてとらえられる住居も存在していた。特に、諸磯式期の住居跡では遺物の分布に若干の変化が認められる。それは21号住居の2段階で、住居のほぼ中央に遺物が分布していることである。どのような状況下であれば、このような分布となるのか、または前期の住居の構造が、中期の住居とは異なったものなのかは判断することはできないが、可能性として屋根

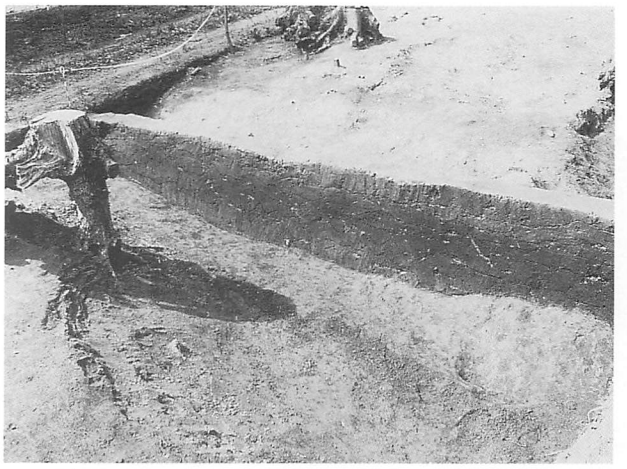
の高さが中期に比べて低く、屋根の上に土を盛ったと考えるならば、盛った土の中に遺物が混ざり屋根の崩壊と同時に遺物が住居の中央に位置したためであろうと考えることができよう。屋根は確認面から上に出ているわけであるが低いであろうとする根拠は、甲ツ原遺跡において前期の諸磯式期は、中期の住居に比べ確認面から床面まで深いことがあげられるが、確認面は黄褐色土のローム層でとらえている関係であるかもしれない。しかし、現実に畑の場合、耕作されているため確認面を黄褐色土にせざるを得ず、この場合ほとんど中期のものについては壁を確認することが困難であるか、確認されてもわずかな高さしか壁を認めことができない。

このようなことから、諸磯式期の住居は確認面から深く細い柱（柱穴の規模から、中期の太い柱を使用しない）を使用していたことが想像され、確認面から屋根までは高くはなかった可能性があり、屋根の角度が大きく開いていたことが考えられる。

今回、住居跡が放棄されてから埋没するまでの過程で、柱が立っていただろうと推測することで終わったが、この作業を行ってみて感じたことがある。それは、柱がどれくらいの期間持ちこたえられることができるのか、また各段階の埋没過程がどれだけの時間を要するものなのか不明な点である。これらの疑問点を踏まえ、新たにこのような作業を行っていきたいと考えている。

図　　版

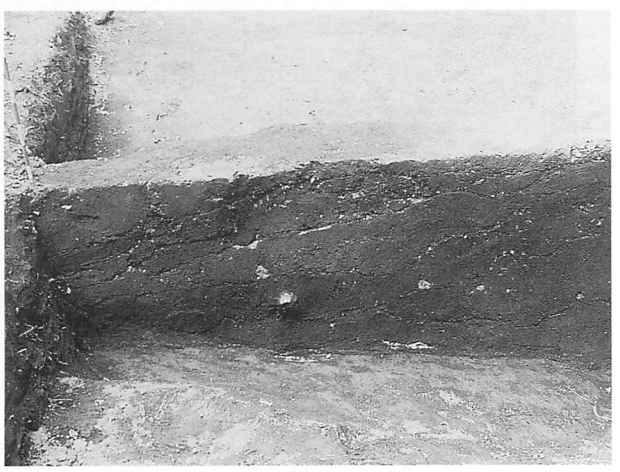
B区河　A･B-0～8G　全体



B区河　A･B-3G　土層断面

B区河　A･B-2G　K～L　階段状の跡

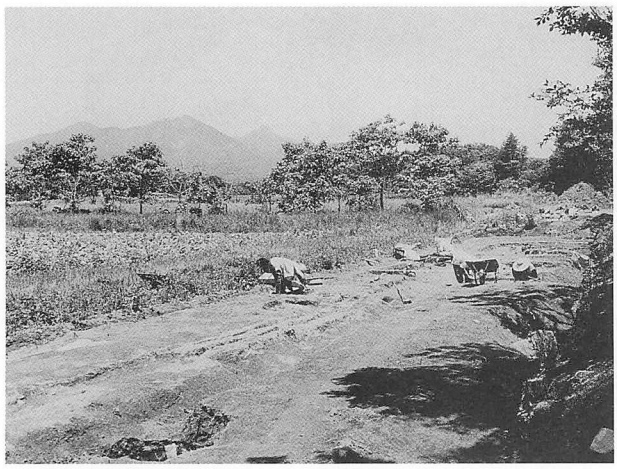
B区河　土層断面



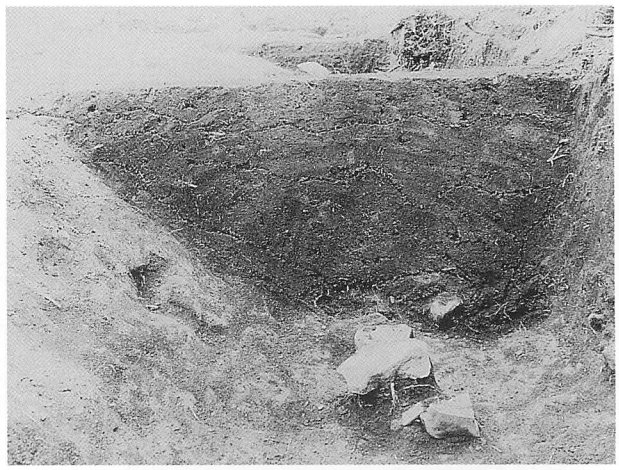
B区河　A･B-3G　土層断面

B区河　A･B-2G　階段状の跡

図版2



B区河　A･B-15～19G　調査風景



B区河　A15G　⑨土層断面

B区河　小砂利の堆積状況

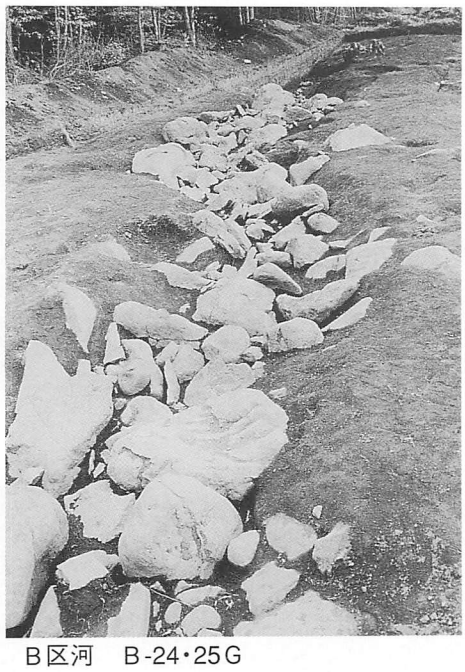
B区河と溝　A･B-12～19G　完掘（南から北）

B区河と溝　A･B-12～19G　完掘
（北から南）

B区河　調査風景

B区河の平面確認　B・C-20～27G（北から南）

B区河　B・C-20～27G　完掘



B区河　B-24・25G

B区河　B-22～28G（南から北）

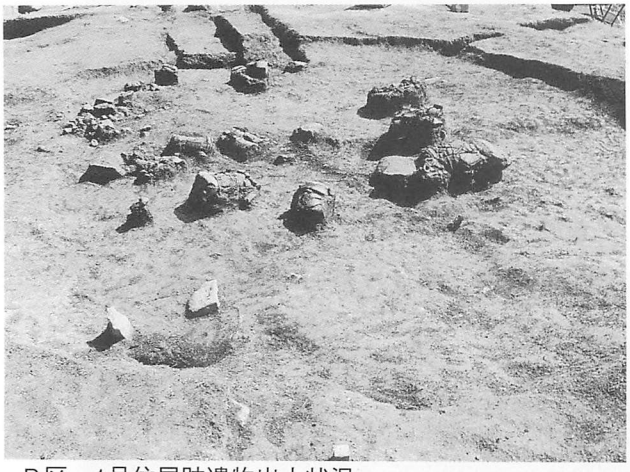
B区河　B・C-24G　土層断面

B区河　B-26G　土層断面

図版4

B区　1号住居跡

B区　1号住居跡完掘

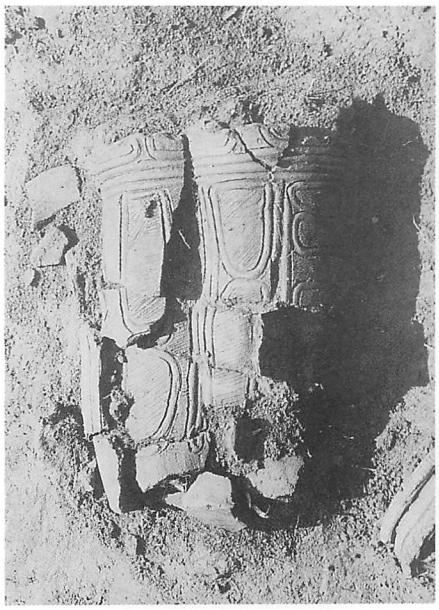


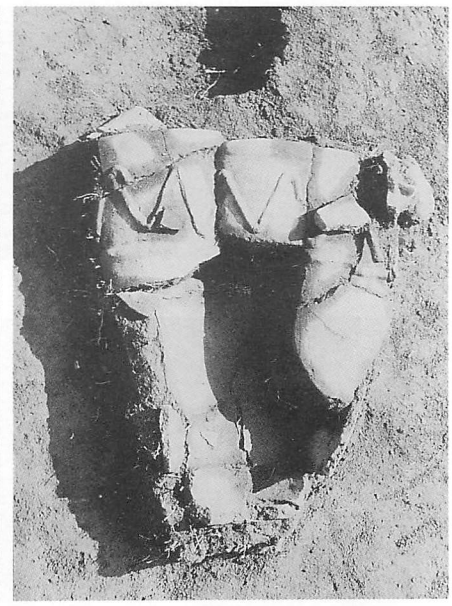
B区　1号住居跡遺物出土状況

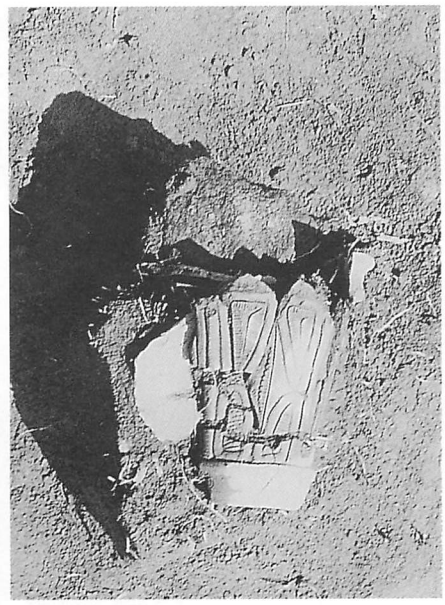
B区　1号住居跡遺物出土状況

B区　1号住居跡遺物出土状況

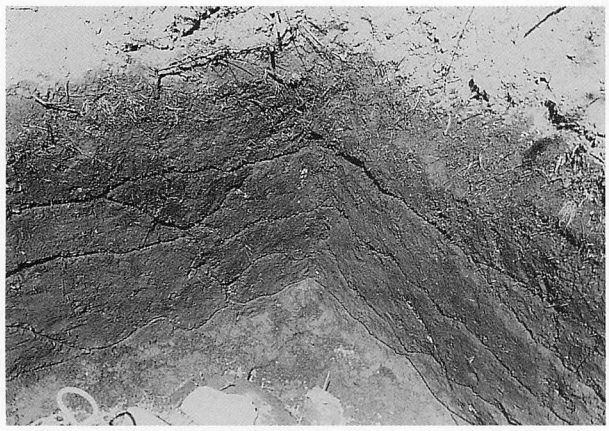
B区　1号住居跡遺物出土状況



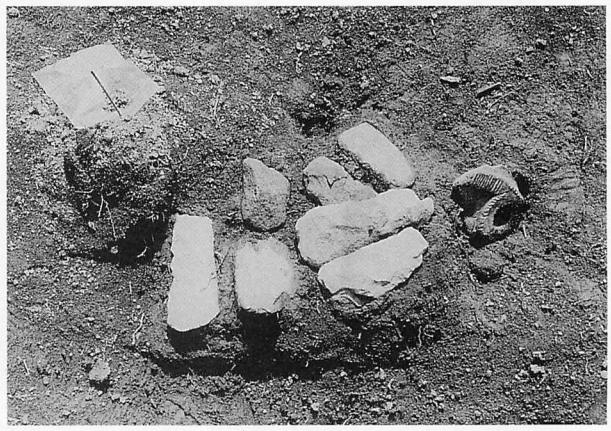




第13図 1 （P-19）	第13図 2 （P-19）	第13図 3 （P-19）
第13図 4 （P-19）	第13図 5 （P-19）	第14図 7 （P-20）
第14図 9 （P-20）	第14図 10 （P—20）	個体別 出土状況 写真

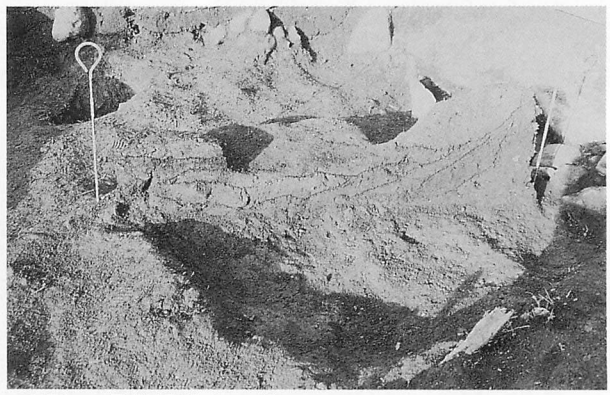


B区　5号住居跡土層断面



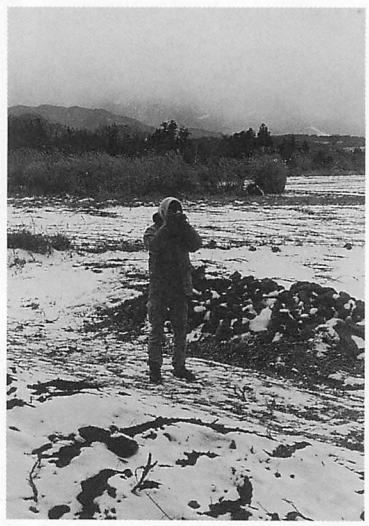
B区　デポ（第17図）西から東

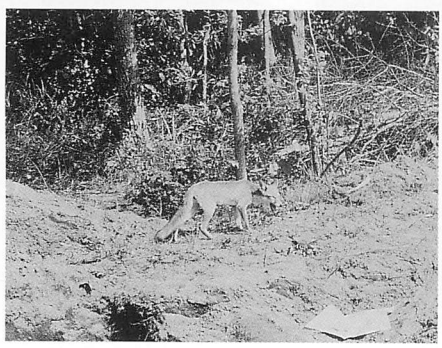
B区　3号住居跡

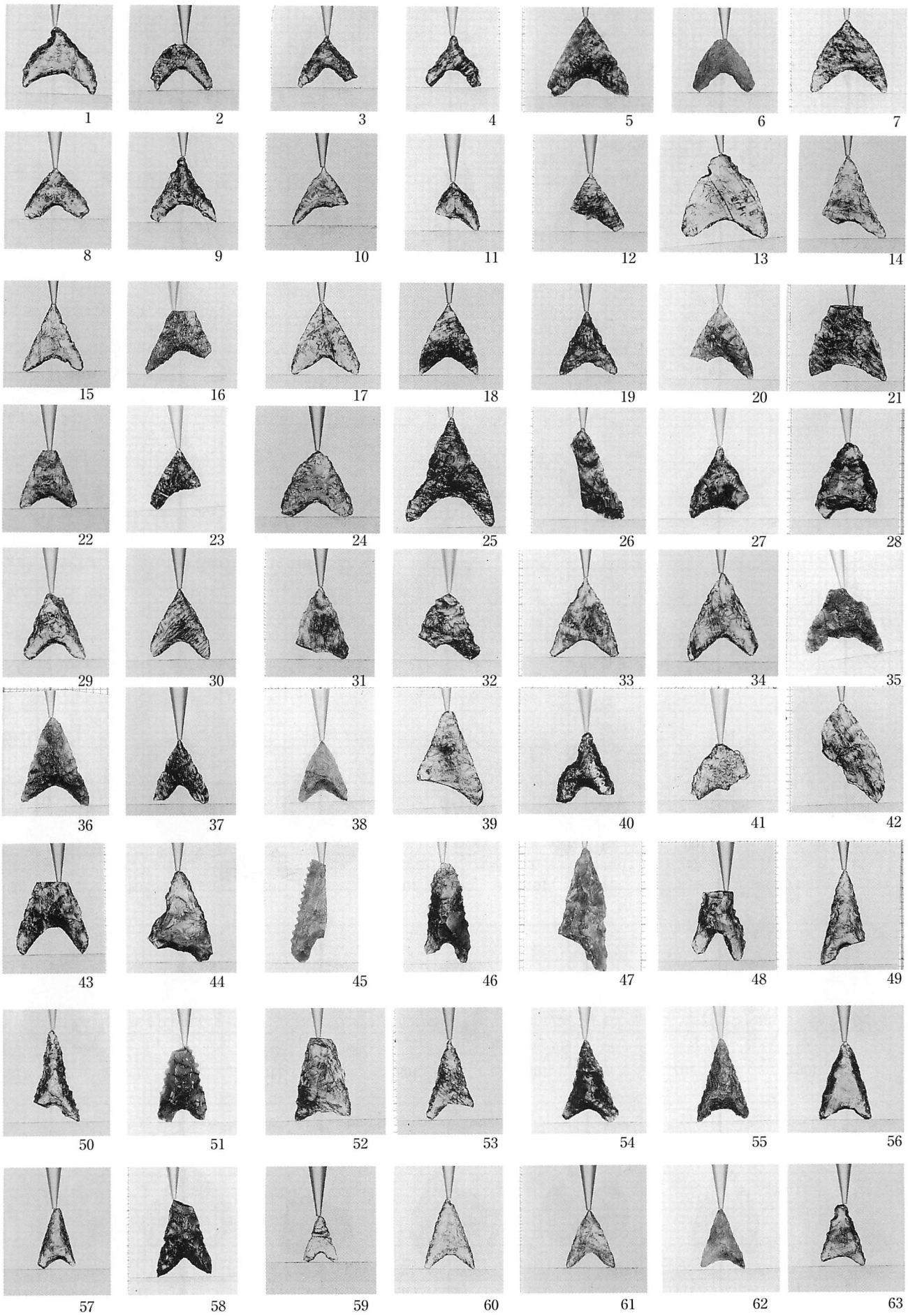


B区　6号住居跡カマド

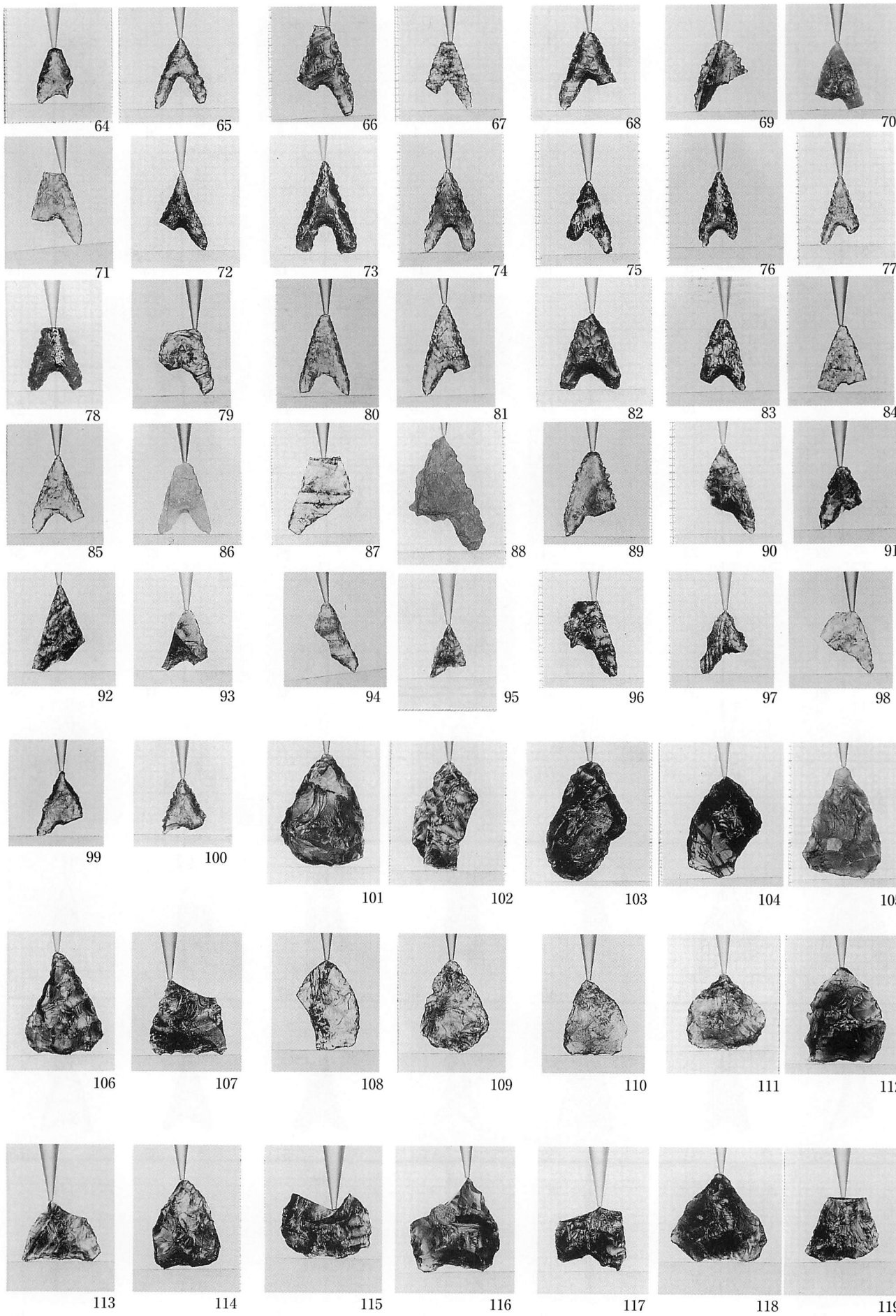
1989年度　試掘溝
（B区1号住居跡）






1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63

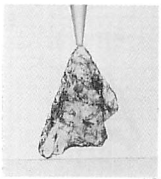
図版8

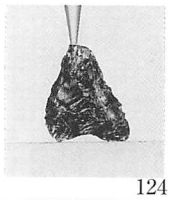

64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119

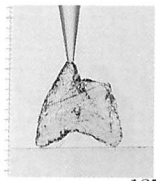
120

121

122


123


124

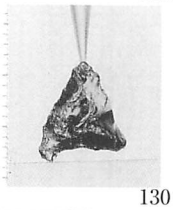

125

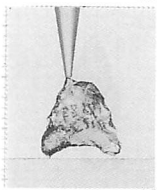
126

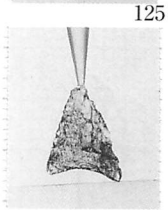
127

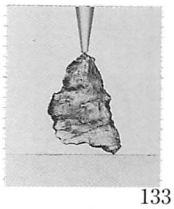
128

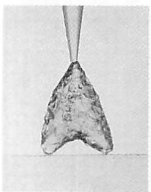
129

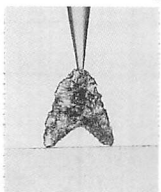

130


131


132


133


134


135

136

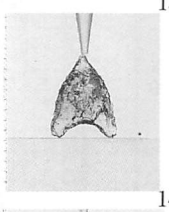
137

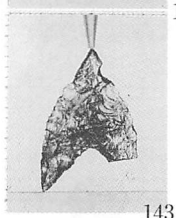
138

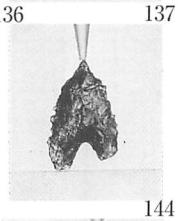
139

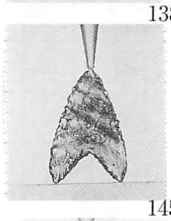
140

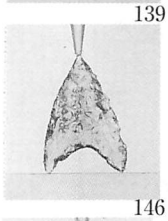
141

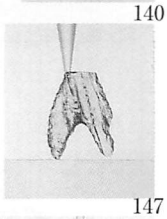

142


143


144


145

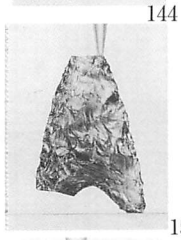

146

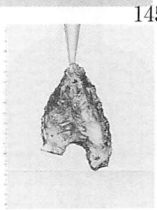

147

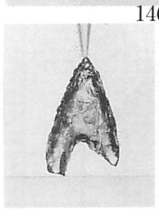
148

149

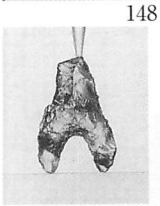
150


151


152

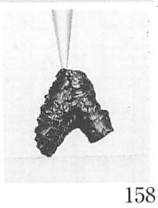

153

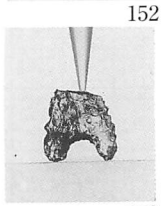
154

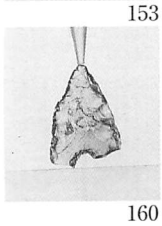

155

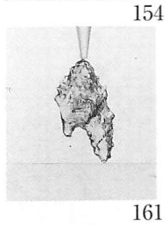
156

157


158


159

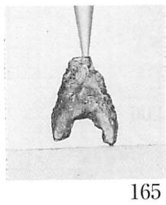

160

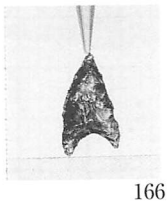

161

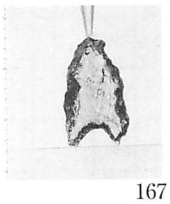
162

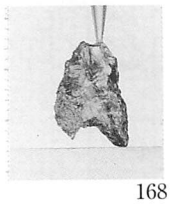
163

164


165


166


167


168

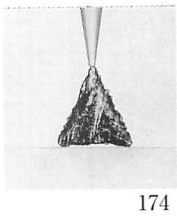
169

170

171

172

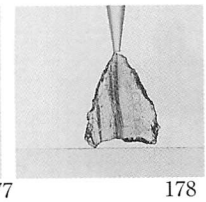
173


174

175

176

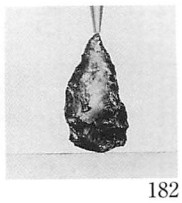
177


178

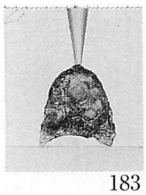
179

180

181

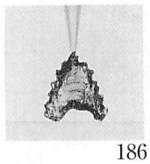

182

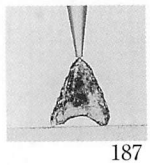
図版10

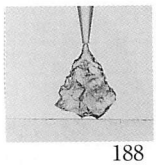

183

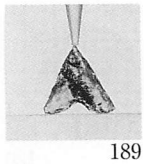
184

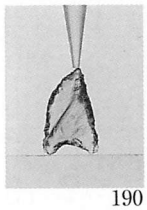
185


186


187


188


189


190

191

192

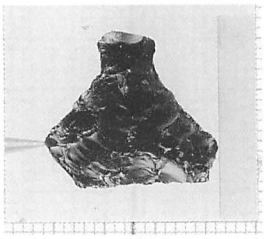
193

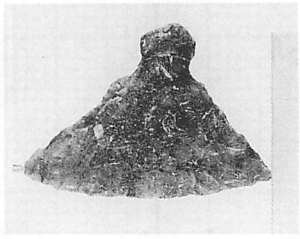
194

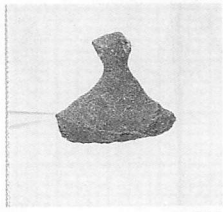
195

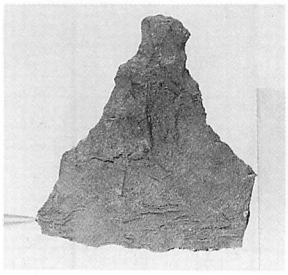
196

197

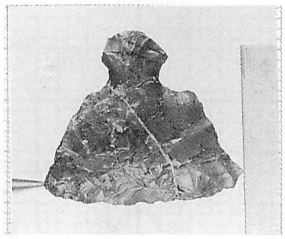

198


199

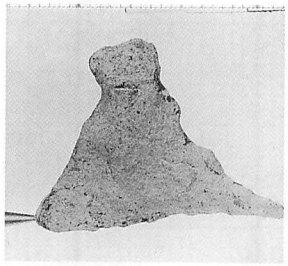

200

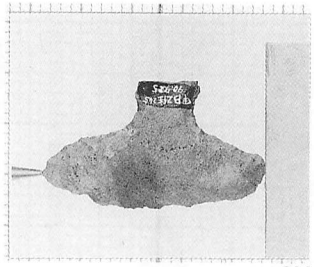

201

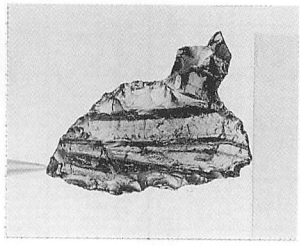
202

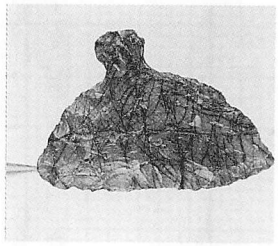

203

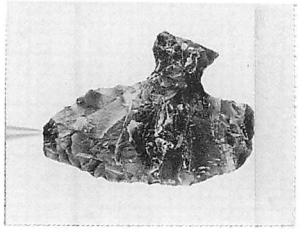
204

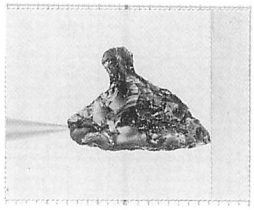

205

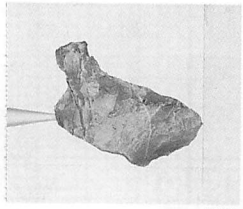

206

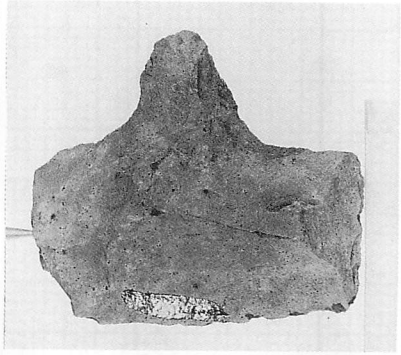

207

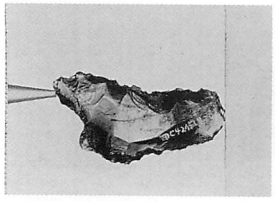

208

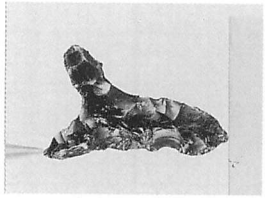

209

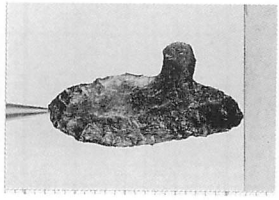

210

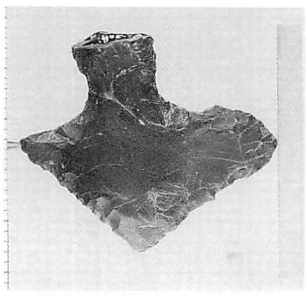

211


215


212

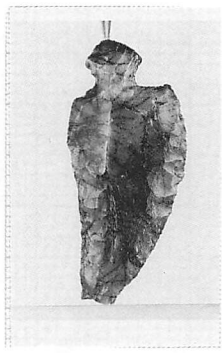

213


214


216

217

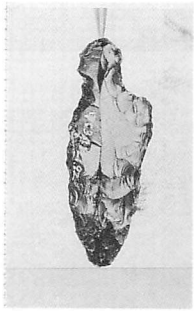
218


219

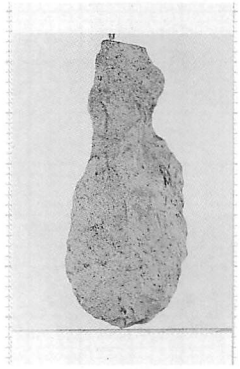
220

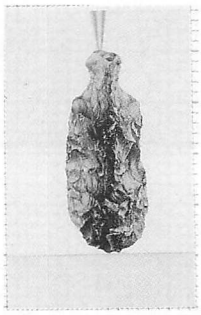
221

222

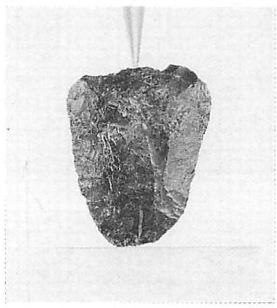

223

224


225


226

227


228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

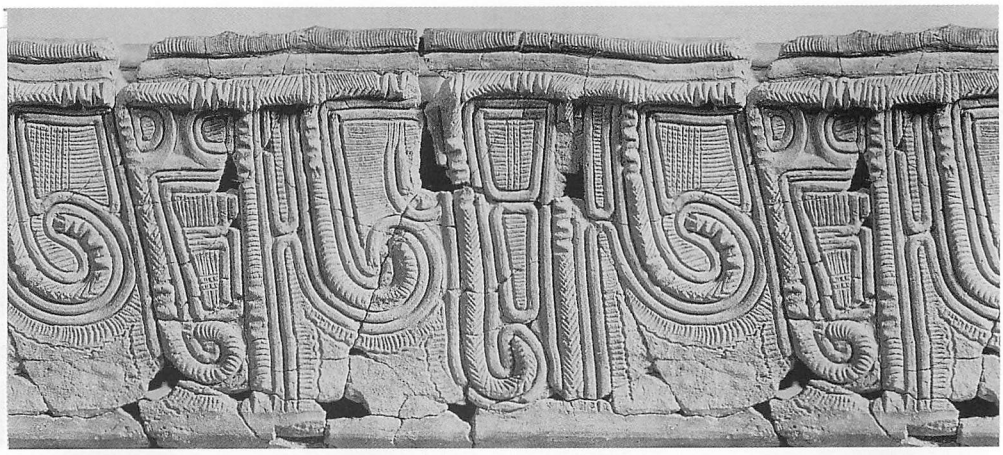
249

250

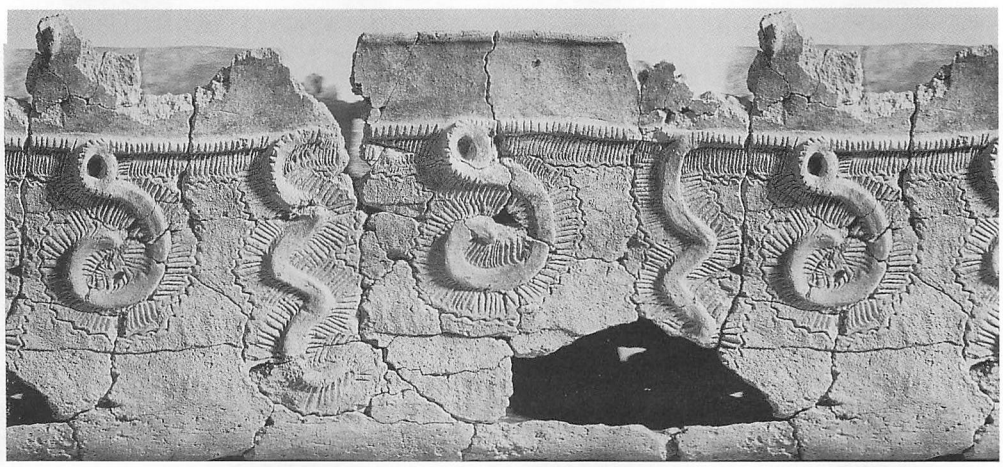
251

252

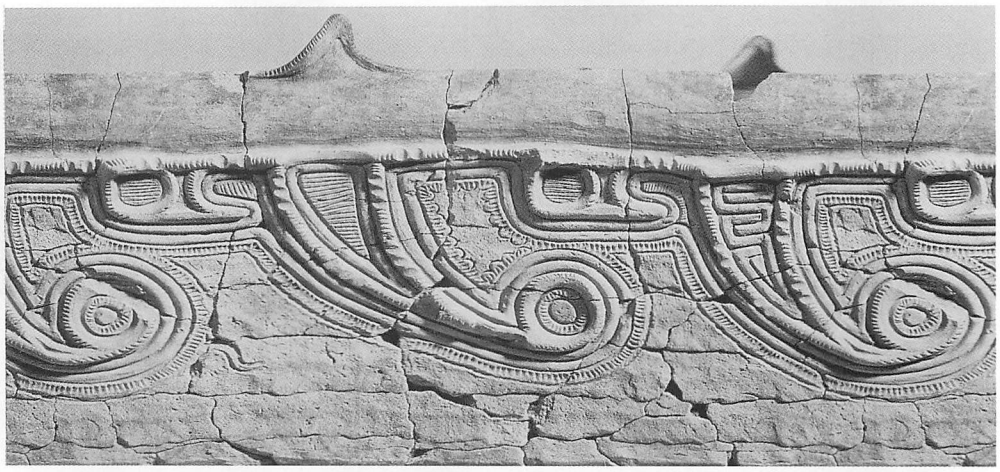
図版12



（第13図　1）



（第13図　5）



（第13図　2）

（第13図　4）

報　告　書　抄　録

ふりがな	かぶつっぱらいせき
書名	甲ッ原遺跡Ⅲ
副書名	ー第２次・第３次調査ー　一般県道須玉・八ヶ岳公園線建設事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ名・集	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第144集
著者氏名	山本茂樹・今福利恵
発行者	山梨県教育委員会
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	〒400-15　山梨県東八代郡中道町下曽根923　ＴＥＬ　0552-66-3016
発行年月日	1997（平成９）年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
甲ッ原遺跡	山梨県北巨摩郡大泉村 西井出字和田・字大林			35°51’	138°24’	19900514 ～ 19901227 19910520 ～ 19911227	4,800㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲ッ原遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代	中期住居跡４軒 土坑　４基 ピット　41基 住居跡　２軒	縄文土器 石器 土偶 須恵器・土師器	旧河道が蛇行しながら南北方向に流れ、平安時代の住居跡を壊す。この旧河道は更にＡ区までつながり、長い距離を流れていた事が明らかにされた。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第144集

甲ッ原遺跡　Ⅲ

ー第２次・第３次調査ー
一般県道須玉・八ヶ岳公園線建設事業に伴う発掘調査報告書

印刷日　1997年３月24日
発行日　1997年３月31日
編集　山梨県埋蔵文化財センター
発行　山梨県教育委員会
印刷　株式会社　少国民社